

2021（令和 3）年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

目 次

I	学校法人の概要	1
II	主要な重点事業報告	6
III	中長期計画における重点報告の概要	32
IV	監事監査方針及び計画	32
V	各学校の事業報告	33
VI	大学部会、教育部会、保育部会 2021 年度 研修会プログラム	44
VII	地域連携・交流活動	51
VIII	湘南医療大学 研究業績	52
IX	生涯学習事業	75
X	施設の状況	75
XI	財務状況	76

I 学校法人湘南ふれあい学園の概要

■ 基本情報

名称	学校法人湘南ふれあい学園		
理事長	大屋敷 英志枝		
主たる事務所 住所	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号		
電話番号	045-828-4322	FAX 番号	045-828-4323
ホームページ	http://www.fureai-g.ac.jp/		

■ 建学の理念

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。

わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得
- 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

■ 法人及び設置校の沿革

年 月		沿革
平成 6 年 (1994)	1 月	準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年 (1998)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年 (2000)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年 (2001)	1 月	学校法人横浜アカデミーより 2 幼稚園、2 専門学校、1 予備校を継承 湘南ふれあい学園を準学校法人から学校法人へ変更
平成 14 年 (2002)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年 (2004)	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年 (2005)	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年 (2006)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校美容学科入学定員変更、総合電子専門学校学科再編（設置及び変更）
平成 20 年 (2008)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年 (2009)	4 月	総合電子専門学校 学科再編（名称変更等）
平成 22 年 (2010)	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年 (2011)	4 月	ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年 (2012)	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年 (2014)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転

		総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年 (2015)	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年 (2016)	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置
平成 29 年 (2017)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 30 名→60 名に変更
	4 月	みどり幼稚園を幼保連携型認定こども園みどり幼稚園に改組
平成 30 年 (2018)	2 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修 年間定員を 60 名→90 名に変更
	3 月	医療ビジネス観光情報専門学校 情報システム学科 廃科 医療ビジネス観光情報専門学校 工業専門課程 廃止
	4 月	湘南医療大学 臨床医学研究所
	7 月	医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科設置及びこれに伴う校名変更認可
	11 月	湘南医療大学 大学院 (保健医療学研究科) 設置認可及びこれに伴う学校法人湘南ふれあい学園寄 附行為変更認可 医療ビジネス観光福祉専門学校 介護福祉学科新課程設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附 行為変更認可
	2 月	湘南医療大学薬学部新設のための寄附活動のための寄附行為変更認可
平成 31 年 令和元年 (2019)	4 月	湘南医療大学大学院保健医療学研究科設置 湘南医療大学認定看護研修センターを看護実践教育センターに改称 医療ビジネス観光福祉専門学校に校名変更 介護福祉学科、附帯教育事業 介護福祉士実務者研 修設置
	3 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置申請 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可申請
令和 2 年 (2020)	4 月	下田看護専門学校を湘南医療大学附属下田看護専門学校に名称変更
	10 月	湘南医療大学薬学部医療薬学科設置認可 湘南医療大学薬学部設置に伴う学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
令和 3 年 (2021)	4 月	湘南医療大学薬学部設置 湘南医療大学 看護実践教育センターを看護キャリア開発コアセンターに改称
	8 月	湘南医療大学収容定員 (保健医療学部看護学科定員 140 名) 変更認可
	12 月	湘南医療大学専攻科 (公衆衛生看護学専攻 助産学専攻) 設置認可

■設置する学校等の概要

【設置する学校】(2021 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部・学科・専攻等 (入学定員)		開設年度
湘南医療大学 神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16 番 48 号 学長 大屋敷 英志枝	保 健 医 療学部	看護学科 (80)	平成 27 年度 (2015 年)
		リハビリテーション学科 (理学療法専攻) (40)	
		リハビリテーション学科 (作業療法専攻) (40)	
	薬学部	医療薬学科 (130)	令和 3 年度 (2021 年)
	大学院	保健医療学研究科	平成 31 年度 (2019 年)
茅ヶ崎看護専門学校 神奈川県茅ヶ崎市今宿 390 番地 学校長 新海 哲	看護学科 (80)		平成 6 年度 (1994 年)

茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 神奈川県茅ヶ崎市南湖1丁目6番11号 学校長 赤池 信	理学療法学科 (70)	平成10年度 (1998年)
	作業療法学科 (30)	
	言語聴覚学科 (35)	
	付帯教育事業 社会福祉専攻科 (80)	
湘南医療大学附属下田看護専門学校 静岡県下田市柿崎289番地 学校長 大石 實	看護学科 (40)	平成16年度 (2004年)
医療ビジネス観光福祉専門学校 神奈川県相模原市南区上鶴間本町3丁目18番27号 学校長 加藤 修一	医療ビジネス学科 (40)	昭和61年度 (1986年)
	観光学科 (40)	
	介護福祉学科 (35)	平成31年度 (2019年)
	付帯教育事業 介護福祉士実務者研修 (30×3)	
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園 神奈川県横浜市戸塚区汲沢2丁目26番14号 園長 入澤 登美子	認定こども園 (218)	平成29年度 (2017年)

【設置する学校等の在籍者数】(2021年5月1日現在)

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学者 数	2021年度在籍者数				2021年度 卒業生
						1年生	2年生	3年生	4年生	
保健 医療 学部	看護学科	80	10	340	81	81	81	83	92	86
	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	40	0	160	43	43	38	42	49	44
	リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	40	0	160	41	41	38	36	48	44
薬学部	医療薬学科	130	0	130	34	34				
大学院	保健医療学研究科	12	—	24	8	8	9			5

【湘南医療大学 収容定員の充足率】

学部・学科	平成27年度 (2015) 開学年度	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018) 完成年度	2019年度 大学院設置	2020年度	2021年度 薬学部設置
保健医療学部	1.16	1.08	1.08	1.05	1.05	1.01	1.02
看護学科	1.25	1.11	1.11	1.06	1.04	1.01	0.99
リハビリテーション学科	1.08	1.05	1.04	1.03	1.07	1.02	1.05
薬学部							0.26
大学院					0.91	0.71	0.71

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2021年度在籍者数			2021年度 卒業生
				1年生	2年生	3年生	
看護学科	80	240	78	78	81	70	63

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2021 年度在籍者数				2021 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
理学療法学科	70	280	74	77	63	66	57	51
作業療法学科	30	120	25	26	26	15	18	16
言語聴覚学科	35	70	28	28	27			27
社会福祉専攻科※1	80	160	78	78	45			39

※1 社会福祉専攻科は1年6ヶ月の通信課程

[湘南医療大学附属下田看護専門学校]

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2021 年度在籍者数			2021 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	40	120	33	34	27	40	37

[医療ビジネス観光福祉専門学校]

学科	入学定員	収容 定員	入学者数	2021 年度在籍者数		2021 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	
医療ビジネス学科	40	80	15	15	14	14
観光学科	60	100	57	57	57	47
介護福祉学科	35	70	9	9	25	25
介護福祉士実務者研修※2	30	30	29	29		

※2 介護福祉士実務者研修は6ヶ月の通信課程（2月・5月・7月 年3回開講）

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

総定員	入園者数	2021 年度在籍者数					2021 年度 卒園生
		1 歳児	2 歳児	年少	年中	年長	
218	56	8	10	53	67	61	62

【法人役員・評議員及び理事会・評議員会の開催状況】

1. 役員・評議員の数（2022年3月31日現在）

役員・評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	12※

※欠員の評議員1名は、2022年4月20日に後任を選任しました。

2. 役員の概要（理事6名、監事2名 2022年3月31日現在）

役職	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
理事長／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	1994年3月8日
理事／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2006年6月24日（2020年6月24日）
理事／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年6月24日（2020年6月24日）
理事／非常勤	小林 暢比古	神奈川県金属プレス工業会名誉会長	2021年1月1日
理事／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2020年6月24日
理事／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日（2020年6月24日）
監事／非常勤	金井 清吉	弁護士	2001年4月1日（2020年6月24日）
監事／非常勤	竹俣 耕一	公認会計士 税理士	2012年6月24日（2020年6月24日）

3. 評議員の概要（評議員13名 2022年3月31日現在）

	氏名	主な現職	就任年月日（重任日）
評議員／常勤	大屋敷 英志枝	湘南医療大学学長 医療法人社団康心会理事長	2002年7月4日（2020年7月4日）
評議員／常勤	寺本 明	湘南医療大学副学長兼保健医療学部長	2018年4月1日（2020年7月4日）
評議員／常勤	加藤 尚美	湘南医療大学 大学院教授	2019年6月1日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	欠員（前任者死亡のため）		
評議員／常勤	入澤 登美子	幼保連携型認定こども園みどり幼稚園園長	2010年3月30日（2020年7月4日）
評議員／常勤	加藤 修一	医療ビヅ ね観光福祉専門学校 学校長	2005年3月30日（2020年7月4日）
評議員／常勤	小野川 敏子	湘南医療大学附属下田看護専門学校 副校長	2011年3月23日（2020年7月4日）
評議員／常勤	小林 勝一郎	湘南ふれあい学園学園本部 部長	2013年3月22日（2020年7月4日）
評議員／常勤	山戸 真実	医療ビヅ ね観光福祉専門学校事務職員	2018年4月1日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	有坂 健一	税理士	2016年6月24日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	今田 敏夫	茅ヶ崎中央病院 院長	2019年8月1日（2020年7月4日）
評議員／常勤	熊谷 幸男	湘南ふれあい学園事務局長	2001年4月10日（2020年7月4日）
評議員／非常勤	大屋敷 幸志	社会福祉法人麗寿会理事長	2004年7月4日（2020年7月4日）

4. 2021年度 理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	8回
評議員会	7回

【設置する学校等の教職員数】

教職員数（2021年5月1日現在）

学校名	教員		職員※2
	専任※1	兼任	
湘南医療大学	91	182	22
茅ヶ崎看護専門学校	17	62	5
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	21	62	10
湘南医療大学附属下田看護専門学校	9	33	5

医療ビジネス観光福祉専門学校	13	22	5
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	13	21	5
本部事務局（研修センター含む）	2	23	11

※1 専任には、学長、学校長、非常勤契約者を含む ※2 非常勤職員含む

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保健 医療 学部	看護学科		5	7		6	2	5	1	13		2	8	33
	リハビリテー ション学科	理学療法 学専攻	7			2	1		3				11	2
		作業療法 学専攻	4	1			5	1		1				9
薬学部 医療薬学科			10	1	4	1	4			1			18	3
保健医療学研究科＊			1	1						1			1	2
計			27	10	4	9	12	6	4	16		2	47	43

*保健医療学研究科教員で保健医療学部兼任者は再掲しない。

教職員の保有学位や業績については、以下のホームページ上に公開している。

https://sums.ac.jp/html/department/nursing_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/pt_teacher.html

https://sums.ac.jp/html/department/ot_teacher.html

<https://sums.ac.jp/html/department/pharmacy/teacher.html>

https://sums.ac.jp/html/graduate_school/teacher/

Ⅱ 主要な重点事業報告

1 重点報告の概要

1 学校法人湘南ふれあい学園の教育の質の向上や保証に向けた活動

(1) 学園各校は、教育力を高め、学生の学修力や学力の質保証を達成させると同時に教育研究活動の到達度の確認・点検、実践力強化に向けた指導方法の改善などの発表や、WGする場として、2か月に1回「全体研修会」（専門学校教育部会、大学部会、保育部会）を開催した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止により、会場を分散、またはリモートで実施するなど、前年度に引き続き、開催方法に工夫を重ね、予定されたFD・SDプログラム（授業方法の改善、個別学習指導、国家試験対策、就職指導、学生募集活動、地域貢献活動など）の目的を達成した。（44～50ページ 全体研修会プログラム参照）

但し、新型コロナウイルスの影響を受けて、前年度に引き続き、グループ病院施設と連携して実施する「専門部会別研修会」及び「医療・教育研究会」は中止となったが、発表予定原稿を冊子にまとめて配布した。

(2) 公開講座、学園広報活動、X'mas キャロリングなどの地域貢献活動、認定看護師研修、看護師実習指導者講習会などの現任者研修事業も、新型コロナウイルス

の影響により、対面授業のほかに、文科省補助事業を活用したオンラインやオンデマンドなどの遠隔授業方法を取り入れて実施した。（44～50 ページ研修プログラム参照）

2 全学5つの活動（PDC/全体朝礼/6S/全体研修会/業務改善）

（1）PDC活動

教育の質の改善、向上させるためのマネジメント手法として、学園全体で行っている活動である。毎月、①学生募集、②教務・学生支援、③国家試験対策支援、などの項目について、事業計画の重点項目と照らし合わせながらプラン（P）の目標値を決めて、その目標に対するアクション（D）計画を策定して、当月に行った活動内容の結果を検証・分析（C）し、未達成の事項や課題を翌月のプランに反映させて常に目標達成を目指し活動した。（PDC計画表参照）

PDC会議年間スケジュール

月	日	曜日	内容	場所	時間	メンバー	備考
4	1	木	3月C・4月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	30	金	5月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
5	7	金	4月C・5月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	28	金	6月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
6	1	火	5月C・6月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	30	水	7月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
7	1	木	6月C・7月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	30	金	8月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
8	3	火	7月C・8月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	31	火	9月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
9	1	水	8月C・9月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	30	木	10月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
10	1	金	9月C・10月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	29	金	11月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
11	2	火	10月C・11月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	30	火	12月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
12	1	水	11月C・12月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	27	月	1月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
1	5	水	12月C・1月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	28	金	2月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
2	1	火	1月C・2月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	28	月	3月PD提出	事務部→秘書課へ	—		
3	1	火	2月C・3月PD発表	会議室	9:00～9:30	学部長・学科長等	
	30	水	4月PD提出	事務部→秘書課へ	—		

【2021年度】

【PDC会議メンバー】

副学長・学部長、研究科長、学科長、専攻長、事務部長

(2) 全体朝礼

毎月1回、全教職員が一堂に会した朝礼を実施し、当月の重点事項を確認した。

(3) 6S活動

整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の6テーマに沿って、全職員が毎月計画を立てて学内の美化に努めた。(6S活動実施計画書兼報告書 参照)

6S活動実施計画書兼報告書

計画起案 2021年4月1日

4月のテーマ 整理・整頓

- 整理 要るもの、要らないものの明確な区別をすること。要らないものの処分を迅速にすること。

- 整頓 要るものを所定の場所に誰でも分るように置くこと。

施設名 湘南医療大学

チーム名 事務部
(部署)

責任者 小林 勝一郎

6S委員 前川 光太郎

		①	②	③	④	
計画	活動対象	EPS	保管庫	基礎看護準備室	理学療法学実習室3	評価実習室準備室
	状況・課題	新年度用の物品が入り、それまでにあった物品で物が入らない状況。使用頻度の低いもの、物品の種類により分類し、移動を行う。	年度切り替えに伴う過去資料の廃棄、分類を行い、2020年度分の資料の保管場所を確保する。	2020年度の使用状況を確認し、棚卸を実施。それに基づき、備品の配置、状況を再度確認を行う。また、演習モデル人形の状況確認を行う。	演習物品が無造作に置かれているなど演習を行う上でも整理が必要。そのため、棚をはじめ、保管場所の確保する。	昨年度の使用状況を見て、学生の利用しやすい場所に物品を移動し、利用率を高めるよう配置を行っていく。
	活動内容	台車やパネルなどを入れており、大型のものが入りづらい。パネルなどは使用頻度が低いため、学生ホール倉庫に移動した。また、ラックにある工具等は見えやすい位置に移動し、補充物品を手前に来るように配置した。	アルコールシートはじめ、マスク・グローブ等衛生物品が保管されている。その奥にある保管資料は年度や内容物がわかるように紙面を張って保管している。	モデル人形のうち4体のモデル人形がゴムに亀裂が入るなど演習に影響が出るものが発生。そのほかの物品は問題ないが、学生の使用方法について今一度啓蒙する必要性あり。	機器を分類ごとに配置し、授業で使いやすいように配置換えを行った。また、演習物品については新年度に不足するものがあるため、発注を依頼した。	工具等分類をしなければならぬものが乱雑にしまわれており、探さないといけない。工具箱内の整理や箱の中身を表からわかるように表をつけるなど工夫を行う。
	担当	大学院・総務 (久間木・葉山・斎藤・尾平・宮内・大村)	教務・学生支援 (大山・村上・岩崎・松本・田中・江蔵・福地)	看護学科 (鶴見・黒田・関谷・市川・石橋)	理学療法学専攻教員 (中村・斎藤・中尾・下田・土田)	作業療法学専攻教員 (西野・田島・増田)
結果		A (B) C D	A (B) C D	A (B) C D	A (B) C D	A (B) C D
結果欄には、A 大変成果が出た B 成果が出たが今後は改善を要する C 思う成果が得られ無かった D 計画内容を実施できなかった						
【反省・改善点等】						
新年度を迎え、各教室に学生が入り、授業・演習が開始された。昨年度はコロナのため、年度初めに授業を開始できず、遠隔授業や課題などを実施した。各教室・実習室については遠隔授業に適さないところ、ネットワークが脆弱なところがあり、学生からも要望があがっている。密にならないために整備できるところは整備を行っていく。 また、モデル人形をはじめ各実習室で保管されているものを棚卸で確認をしているが、収納時に適切な収納を行い、また、保管方法を徹底し、劣化を防ぐなど対処を講じなければならない。						
【第三者評価】						
評価 (○、○、X)		(コメント)				評価実施日
○		モデル人形等大学の備品管理を今一度見直し、適切な管理を行ってほしい。高額な備品もあるため、破損故障があれば即時連絡し、対処してほしい。				2021 年 5 月 6 日
						評価担当者 前川 光太郎
評価欄には、○ 他の部署のお手本となるレベル ○ 問題なく実施できているレベル × さらに改善が必要なレベル						

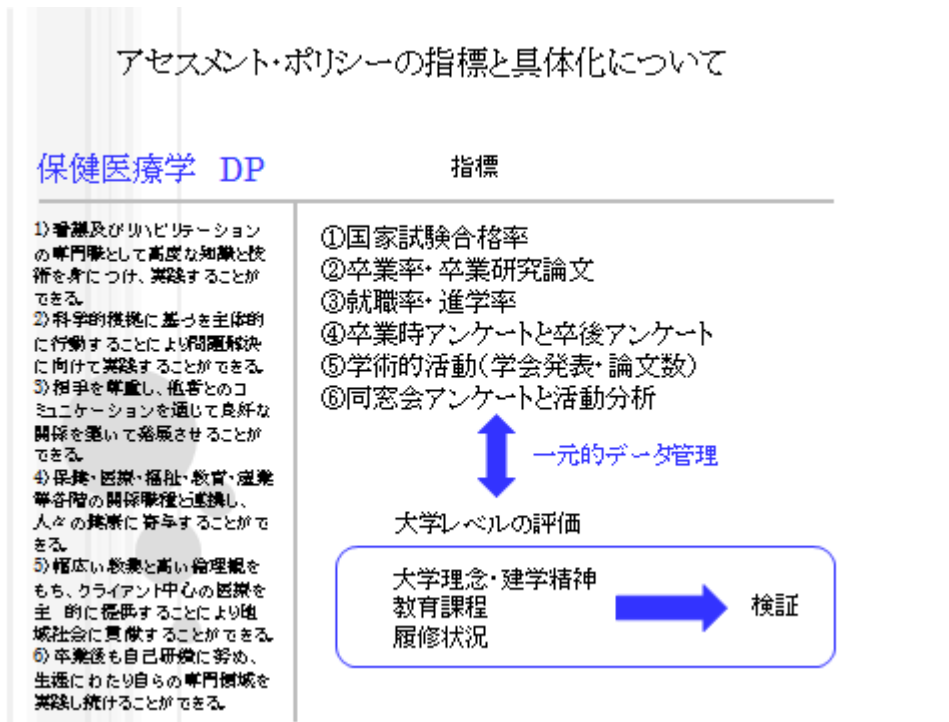
(4) 全体研修会

6 ページ上記 1 (1) に記載したとおり。(プログラムは 44～50 ページ参照)

(5) 業務改善

教員は、シラバスや授業内容について学生評価アンケートや学生の成績状況、国家試験状況などのアセスメント項目から学生の学修成果を可視化することで、本学の教育成果を測定・評価し、個々の教育内容を改善した。また、職員は、業務の問題点を洗い出し、効率化を図り週 40 時間以内で業務を終えるように努めた。

湘南医療大学保健医療学部



保健医療学部看護学科

		各ポリシーとアセスメント指標			
		アセスメントポリシー	カリキュラムポリシーに基づき設計されたカリキュラムの適切性		
		アドミッションポリシーで示した資質能力の適切性	設計の適切性	実行の適切性	ディプロマポリシーで示した資質能力の適切性
各レベルとアセスメント指標	機関レベル	(1) 教育実践の評価は、多様な観点と手法を用いた評価と、その結果としての教育改善のサイクルに対して行う。	①各種入学試験と以下の項目の関連(入学後のGPA/単位修得状況/留年・中退状況)		①GPA ②進級・卒業延期率? ③休学率 ④退学率
	教育課程レベル	(2) 学生の学修成果の評価は、ディプロマポリシーの到達目標の達成度に対して行う。 (3) カリキュラム評価は、セメスター毎の授業評価(学生、担当教員)をはじめ、量的質的指標を基に形成評価を行う。	①各種入学試験結果 ②調査書等の記載内容 ③PROGテスト ④入学前課題 ⑤プレースメントテスト結果	⑥シラバスの第三者チェック(DPと各科目の内容/順序/レベルの整合性) ⑦学生生活・学修時間実態調査 ⑧卒業生調査	⑨卒業認定・学位授与数 ⑩国家試験合格率 ⑪就職率・進学率 ⑫卒業認定 ⑬DP達成度評価(統合実習評価) ⑭国家試験合格率 ⑮就職率・進学率 ⑯卒業時アンケート ⑰PROGテスト
	科目レベル	(4) セメスターおよび年度毎の形成評価と、4年ごとの総括評価をもとに、必要があればカリキュラム改正を行うことを検討する。	①各種入学試験結果 ②調査書等の記載内容 ③プレースメントテスト結果	⑨シラバスの第三者チェック(DPと到達目標/授業手法/評価方法/整合性) ⑩授業評価アンケート	⑭定期試験結果 ⑮成績分布 ⑯単位認定 ⑰授業評価アンケート
			⑱ティーチングポートフォリオ		

検討継続中のアセスメント実施体制（看護学科）

番号	アセスメント指標	実施時期	対象	評価手法・データ	評価者	実施責任者	結果の意味と活用方法
①	各種入学試験と以下の項目の関連（入学後のGPA/単位修得状況/留年・中退状況）	9月・3月	全学年	入試成績と教務システムから取得したデータを量的に分析	入試課	入試委員長	・アドミッションポリシーと入学試験内容の整合性 ・どの入試に比重を置くべきか（配点の根拠）
②	調査書等の記載内容	4月	1年生	調査書から（文・理、履修科目、欠席日数等）取得した情報を分析	入試課		どのような学生が入学しているか、アドミッションポリシーとの適合性、アドミッションポリシーの見直し、入学試験（学科、面接）の基準等
③	PROGテスト	6月	全学年	PROGテストペーパーテスト	学生（と業者）	教務委員長	学生自身の「リテラシー」と「コンピテンシー」を測定し、他校データとの比較、年度ごとの個人の比較等を通して、自分の強み弱み、成長具合を理解できる
④	入学前課題						
⑤	プレイスメントテスト	4月	1年生	ペーパーテスト			
⑥	シラバスの第三者チェック（DPと各科目の内容/順序/レベルの整合性）	2月	担当教員が作成したシラバス	評価者が対象シラバスの情報を読むことで点検	教務委員	教務委員長	教育課程レベルでは、DPとの整合性を点検し、教育課程の一貫性を保つ
⑦	学生生活・学修時間実態調査						
⑧	卒業生調査						
⑨	シラバスの第三者チェック（DPと到達目標/授業手法/評価方法の整合性）	2月	担当教員が作成したシラバス	評価者が対象シラバスの情報を読むことで点検	教務委員	教務委員長	科目レベルでは、到達目標、授業手法、評価方法の整合性を点検し、学生にとってわかりやすい教育を提供する
⑩	授業評価アンケート	7月・1月	全学年	アンケート調査	学生	教務委員長	
⑪	GPA	9月・3月	全学年				
⑫	進級・卒業延期率？						
⑬	休学率	9月・3月	全学年				
⑭	退学率	9月・3月	全学年				
⑮	進路（就職・進学）先からの評価	7月	進路（就職・進学）先の部長				
⑯	定期試験結果	8月・2月	全学年				
⑰	成績分布		全学年				
⑱	単位認定	9月・3月	全学年				
⑲	卒業認定・学位授与数	3月	4年生				
⑳	国家試験合格率	4月					
㉑	就職率・進学率	4月					
㉒	DP達成度評価（統合実習評価）	3月					
㉓	卒業時アンケート	3月					
㉔	ティーチングポートフォリオ	4月・3月	全教員	年度初めと年度末に、教員がポートフォリオに自己の教育計画と評価を記入する。	学部長・学科長	学長	

アセスメント・ポリシーの指標と具体化について

リハ学科 AP

指標

- ① 思いやりと敬重をもって他者と接することができる。
- ② 保健・医療・福祉・教育・研究に対する意欲や関心が高く、この分野に貢献したいという目的意識と情熱を持っている。
- ③ 知的好奇心と創造性に富み、主体的、継続的に勉学する姿勢を持っている。
- ④ 積極的に課題を探索し、問題解決のために前向きに努力する。
- ⑤ 自らの行動や考えに責任を持ち、物事に真摯に取り組める。

大学レベル

- ① 入試選抜方法、APに合致した調査票
- ② 学生生活調査、入学時アンケート
- ③ 保護者への入学アンケート

教育課程レベル

- ① プレイメントテスト
- ② 入学時満足度調査
- ③ 入学前学習度合い
- ④ 基礎ゼミをとした学習・生活態度の確認

学内成績

大学レベル・教育課程レベル

履修科目成績とAP

入試方法・結果とAPの妥当性

検証

アセスメント・ポリシーの指標と具体化について

リハ学科 CP

指標

- ① 教育理念の醸成と倫理的感性の涵養」を目的とした科目を基礎におく。
- ② 「ひとや社会を知り、学際的思考を身につける」科目をおく。
- ③ 「理学療法・作業療法と医学の基礎を学ぶ」科目をおく。
- ④ 「専門的な知識・技術を養う」科目をおく。
- ⑤ 「実践力・応用力を養う」科目をおく。

大学レベル

- ① 教育課程とDP
- ② GPA、休退学率、国家資格取得率

教育課程レベル

- ① 学修・授業アンケート
- ② 休退学率、進級率、単位取得度合

科目レベル

- ① 科目合格度合、成績分布、授業出席率
- ② 授業アンケート、シラバス達成度合
- ③ 実習評価妥当性

履修成績とシラバス内容・教授法
実習科目の教授法
臨床実習、国家試験指導

検証

適切な評価法
教育課程

2021 年度前期授業評価アンケートについて

1. 対象学生 学生 696 名（うち休学者 10 名は対象外）
2. 対象科目 実習科目を除く 184 科目
3. 使用アンケート FD ネットワークつばさ 授業評価アンケート
4. 設問内容

設問 1～14 マークシート対応

問 1

① この授業に関心があったから ② シラバスを読んで
 ③ 教員に魅力があったから ④ 自分の専門に関係が深い分野だから
 ⑤ 幅広い教養を身につけるため ⑥ 必修だから
 ⑦ 単位が取り易そうだから ⑧ その他

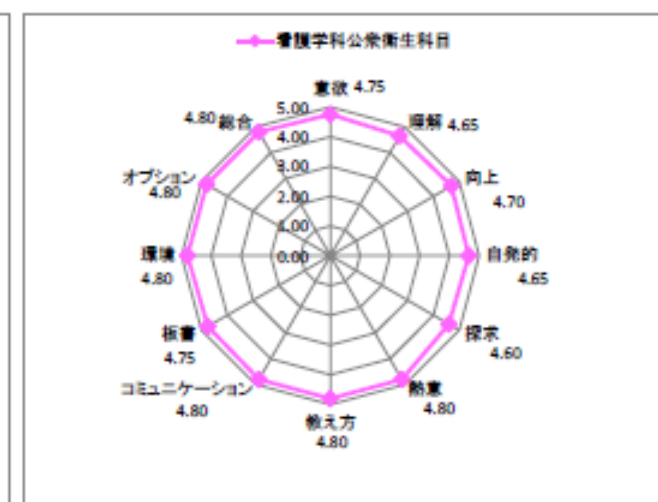
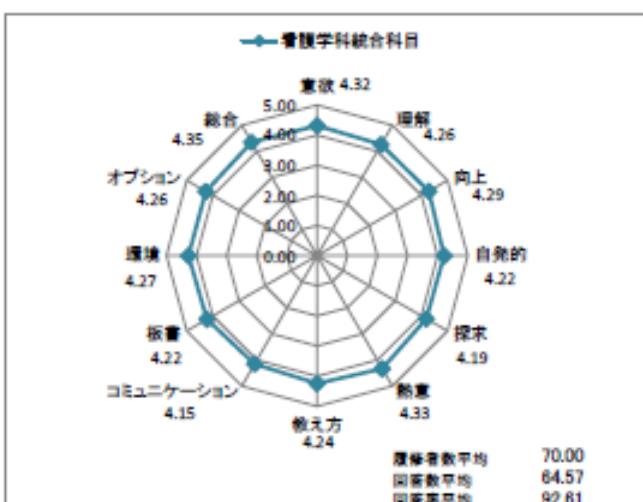
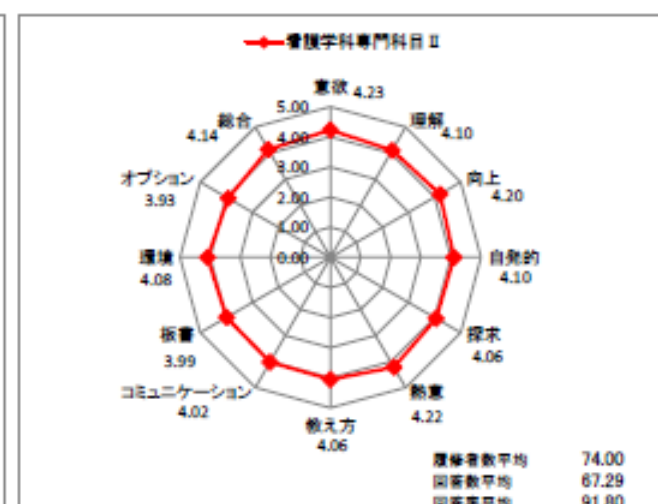
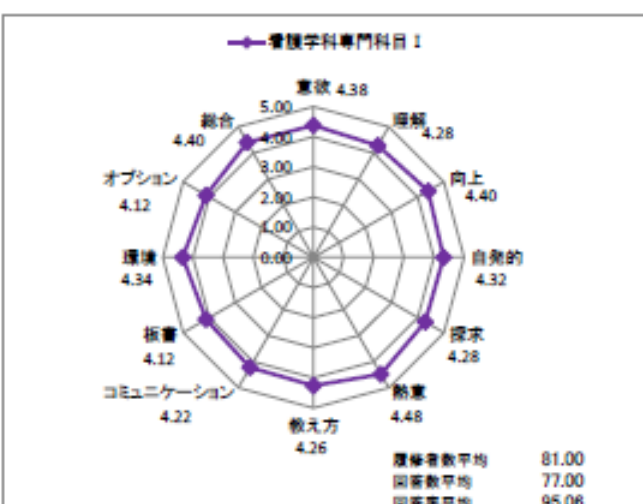
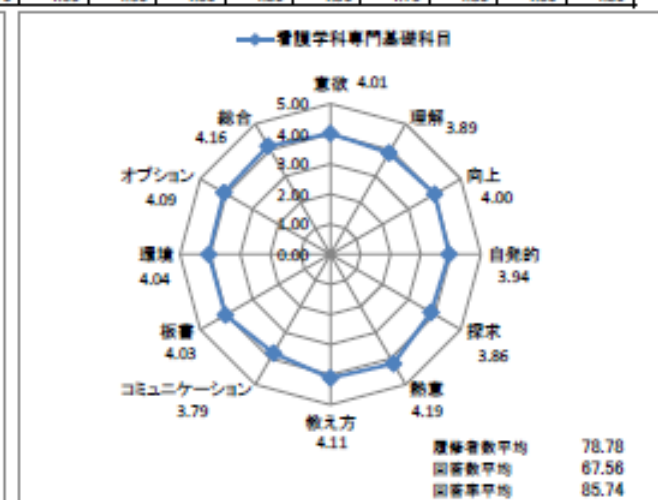
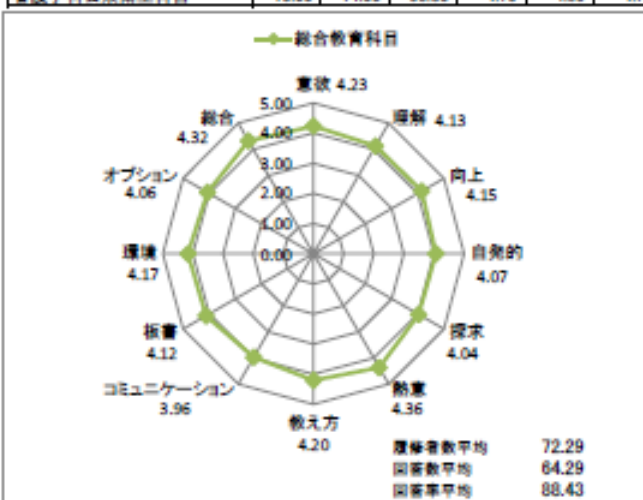
問 2 この授業を意欲的に受講しましたか
 問 3 この授業の内容を理解できましたか
 問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか
 問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか
 問 6 自ら進んで課題を発見し探求する力が身につきましたか
 問 7 教員に熱意は感じられましたか
 問 8 教え方(教授法)はわかりやすかったですか
 問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか
 問 10 この授業に対する 1 週間あたりの平均の勉強時間(授業時間を除く)は。
 ⑤3 時間以上 ④2～3 時間 ③1～2 時間 ②30 分～1 時間 ①30 分未満
 問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか
 問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか
 問 13 オプション(担当教員からの自由設問)
 問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか

設問 15～17 自由記載

問 15 この授業で良かったと思う点を書いてください(自由記載)
 問 16 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください
 問 17 オプション(担当教員からの自由設問)
5. レーダーチャートについて
 1. 『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』
を元に作成した三角形のレーダーチャート(設問 4～6)
 2. 『授業そのものの評価』(設問 2～3, 7～14)
を元に作成した九角形のレーダーチャート
6. 勉強時間 実習科目は本アンケートの対象外になっているため、臨床実習の実施時期によって、学年・学科専攻ごとに実習以外の勉強時間(＝本アンケートの調査結果)に差が現れているものと推測される。

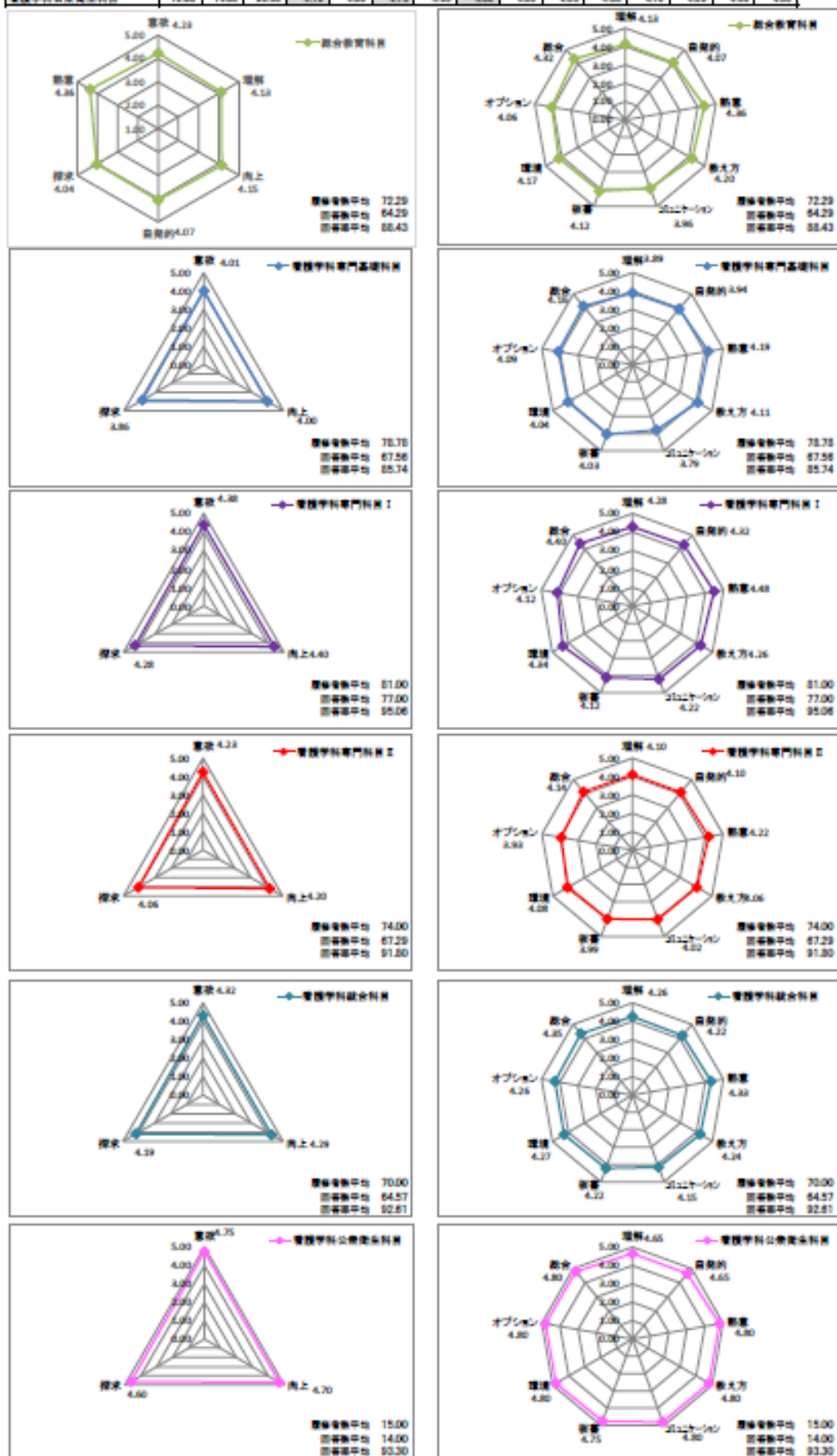
2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境	オプション
総合教育科目	72.29	64.29	88.43	4.23	4.13	4.15	4.07	4.04	4.36	4.20	3.96	4.12	4.17	4.06
看護学科専門基礎科目	78.78	67.56	85.74	4.01	3.89	4.00	3.94	3.86	4.19	4.11	3.79	4.03	4.04	4.09
看護学科専門科目Ⅰ	81.00	77.00	95.06	4.38	4.28	4.40	4.32	4.28	4.48	4.26	4.02	4.12	4.34	4.12
看護学科専門科目Ⅱ	74.00	67.29	91.80	4.23	4.10	4.20	4.10	4.06	4.22	4.06	4.02	3.99	4.08	3.93
看護学科統合科目	70.00	64.57	92.61	4.32	4.26	4.29	4.22	4.19	4.33	4.24	4.15	4.22	4.27	4.26
看護学科公衆衛生科目	15.00	14.00	93.30	4.75	4.65	4.70	4.65	4.60	4.80	4.80	4.80	4.75	4.80	4.80



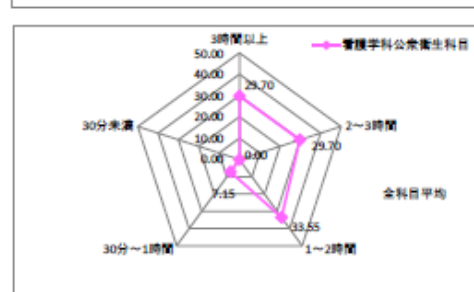
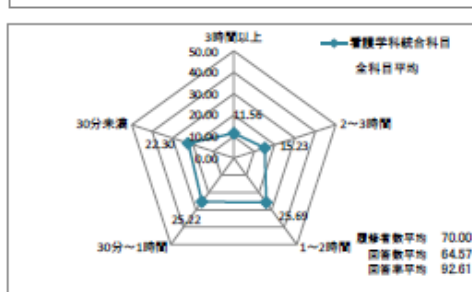
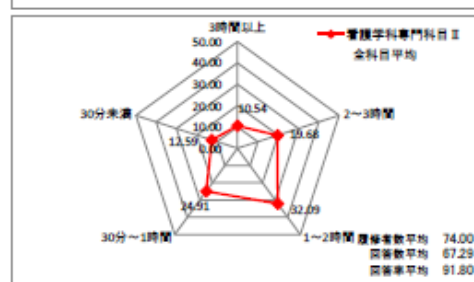
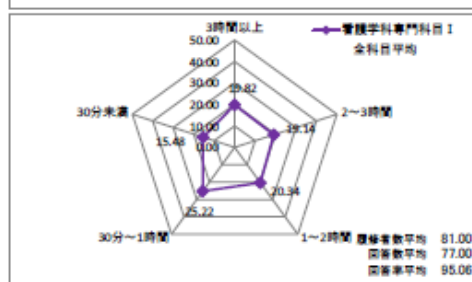
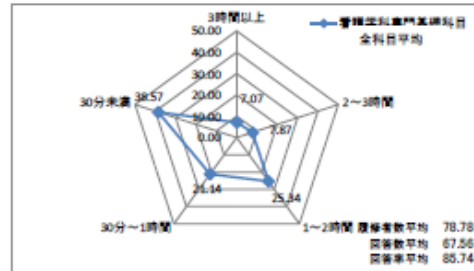
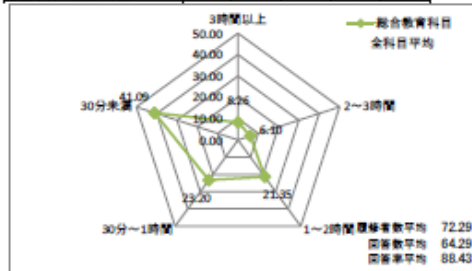
※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

[illegible]

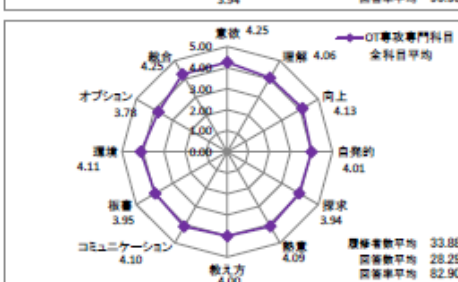
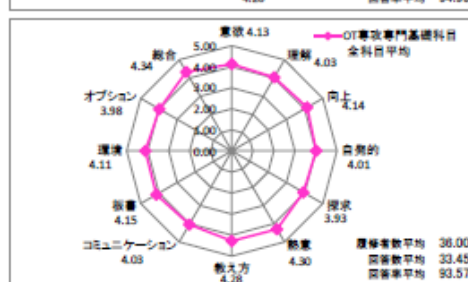
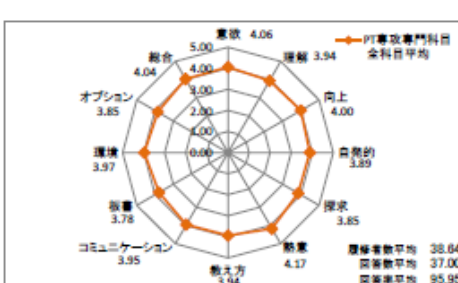
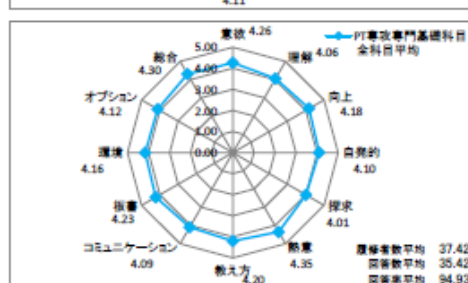
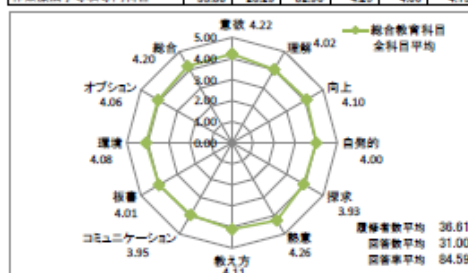
2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	8.26	6.10	21.35	23.20	41.09
看護学科専門基礎科目	7.07	7.87	25.34	21.14	38.57
看護学科専門科目Ⅰ	19.82	19.14	20.34	25.22	15.48
看護学科専門科目Ⅱ	19.54	19.68	32.09	24.91	12.59
看護学科総合科目	11.56	15.23	25.69	25.22	22.30
看護学科公衆衛生科目	29.70	29.70	33.55	7.15	0.00



2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

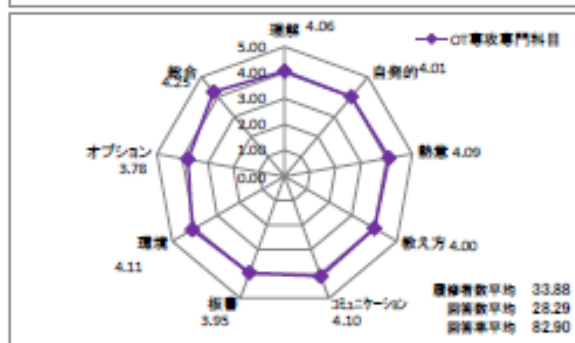
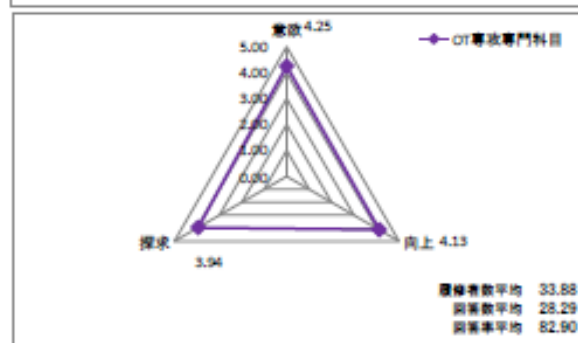
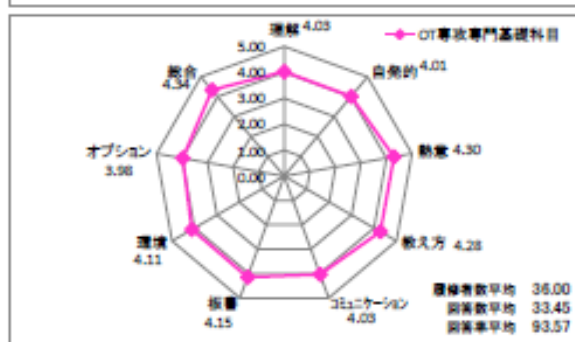
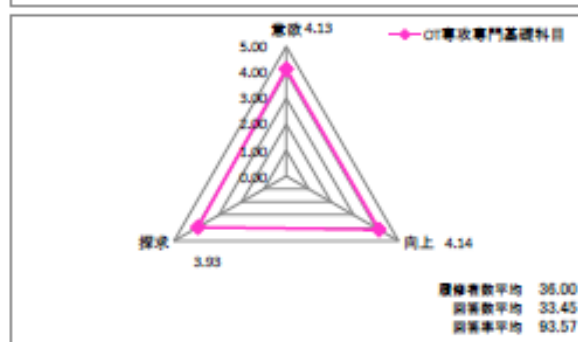
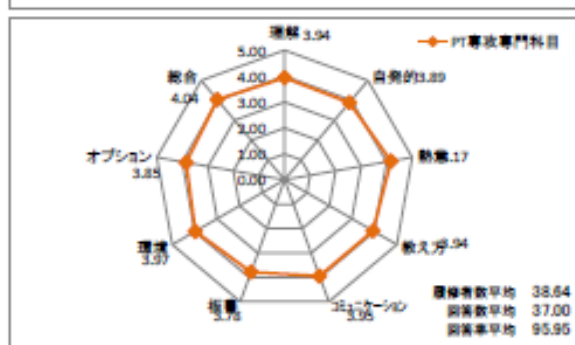
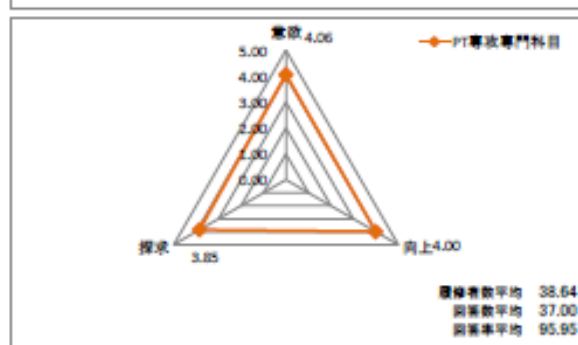
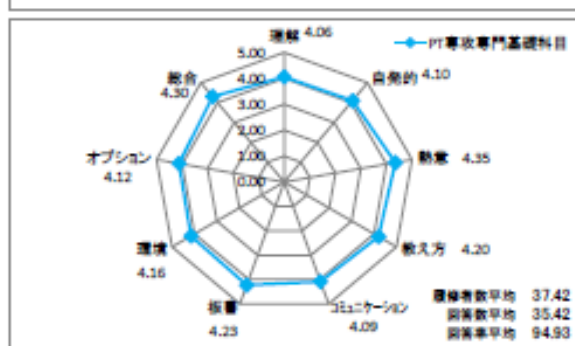
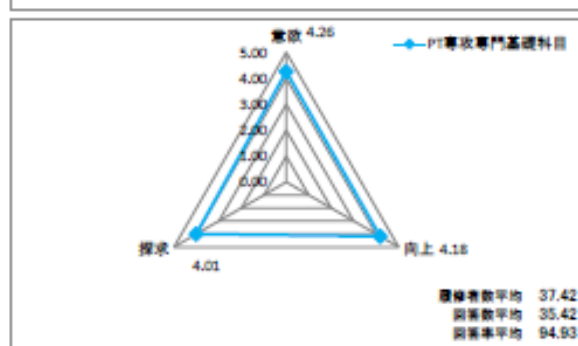
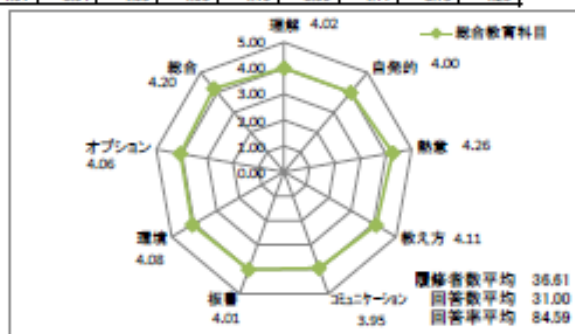
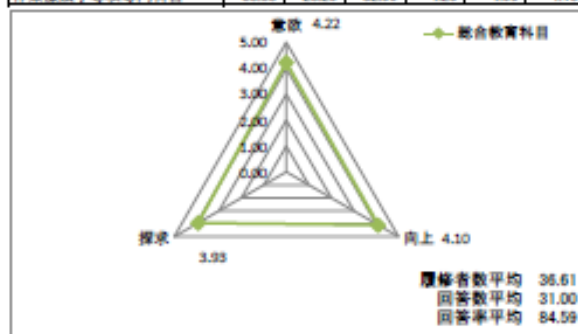
科目名	平均													
	履修者数	開修数	開修率	意欲	理解	向上	自発的	探究	態度	教え方	コミュニケーション	振奮	運達	オプション
総合教育科目	38.61	31.00	84.59	4.22	4.02	4.10	4.00	3.93	4.28	4.11	3.95	4.01	4.08	4.06
理学療法専攻専門基礎科目	37.42	35.42	94.93	4.28	4.06	4.18	4.10	4.01	4.35	4.20	4.09	4.23	4.16	4.12
理学療法専攻専門科目	38.64	37.00	95.95	4.06	3.94	4.00	3.89	3.85	4.17	3.94	3.95	3.78	3.97	3.85
作業療法専攻専門基礎科目	36.00	33.45	93.57	4.13	4.03	4.14	4.01	3.93	4.30	4.28	4.03	4.15	4.11	3.98
作業療法専攻専門科目	33.88	28.29	82.90	4.25	4.06	4.13	4.01	3.94	4.09	4.00	4.10	3.95	4.11	3.78



2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

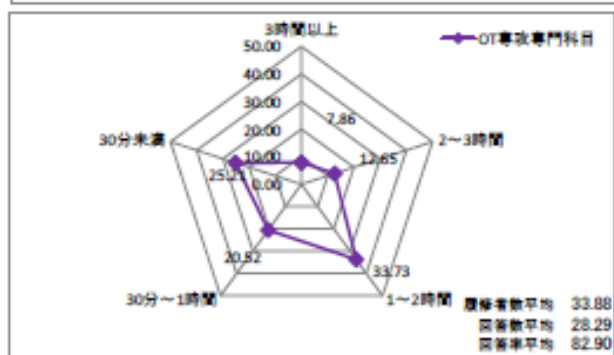
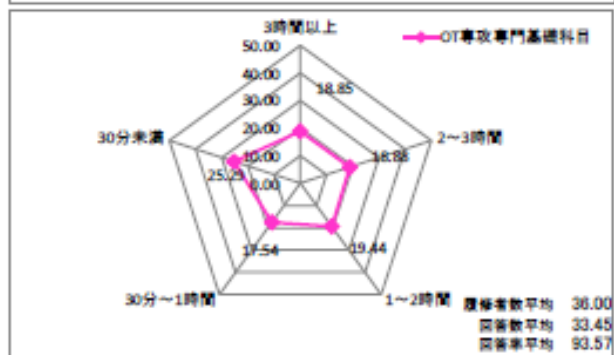
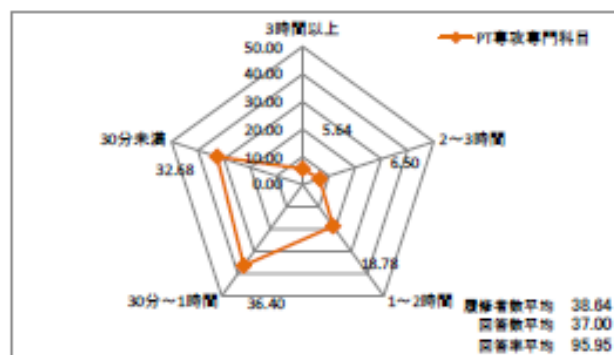
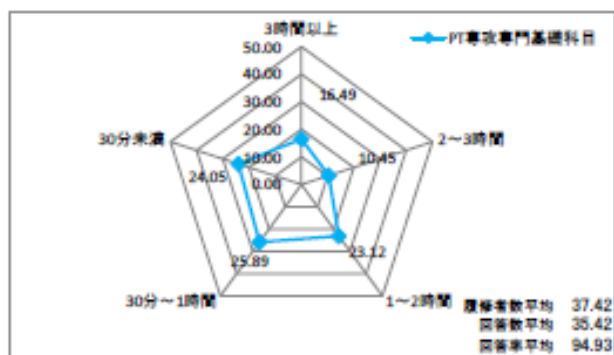
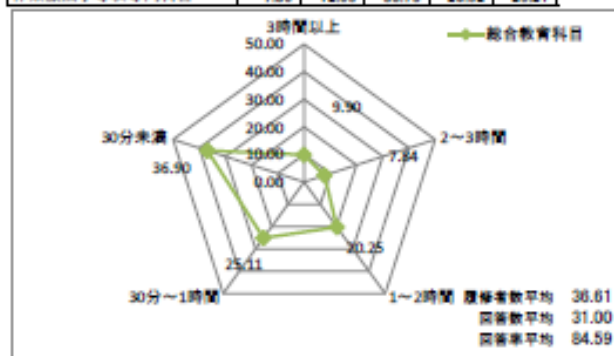
※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	履修者数	回答数	回答率	満足	理解	向上	自発的	探究	熱意	教え方	コミュニケーション	振奮	環境	オプション	総合
総合教育科目	36.61	31.00	84.59	4.22	4.02	4.10	4.00	3.93	4.26	4.11	3.95	4.01	4.08	4.06	4.20
法学部法学専攻専門基礎科目	37.42	35.42	94.93	4.26	4.06	4.18	4.10	4.01	4.35	4.20	4.09	4.23	4.16	4.12	4.30
法学部法学専攻専門科目	38.64	37.00	95.95	4.06	3.94	4.00	3.89	3.85	4.17	3.94	3.95	3.78	3.97	3.85	4.04
法学部法学専攻専門基礎科目	36.00	33.45	93.57	4.13	4.03	4.14	4.01	3.93	4.30	4.28	4.03	4.15	4.11	3.98	4.34
法学部法学専攻専門科目	33.88	28.29	82.90	4.25	4.06	4.13	4.01	3.94	4.09	4.00	4.10	3.95	4.11	3.78	4.25



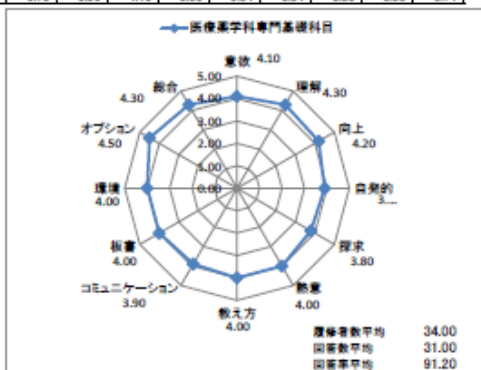
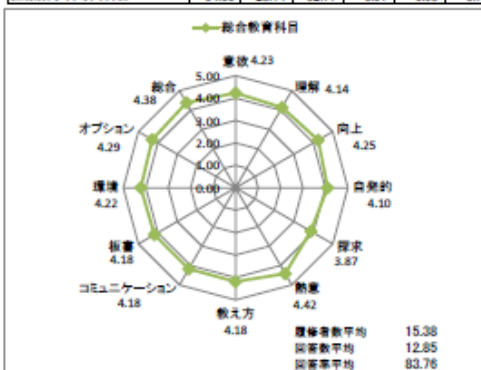
2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	9.90	7.84	20.25	25.11	36.90
法学専攻専門基礎科目	16.49	10.45	23.12	25.89	24.05
法学専攻専門科目	5.64	6.50	18.78	36.40	32.68
作意専攻専門基礎科目	18.85	18.88	19.44	17.54	25.29
作意専攻専門科目	7.86	12.65	33.73	20.52	25.21



2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

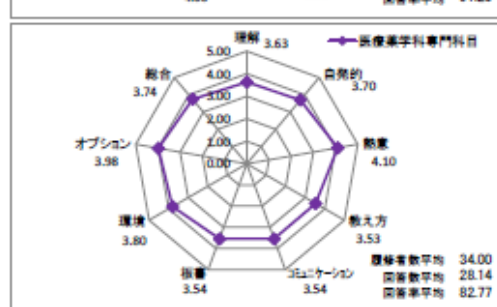
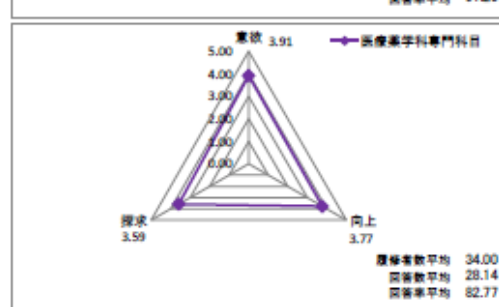
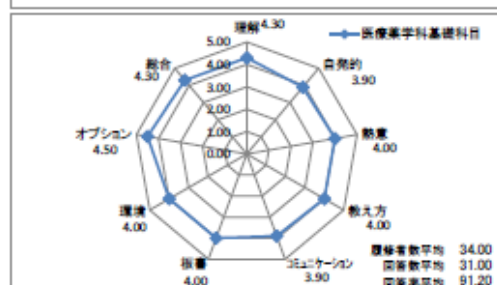
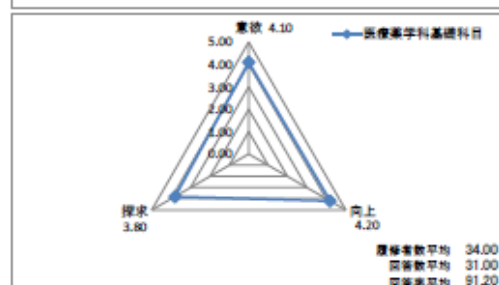
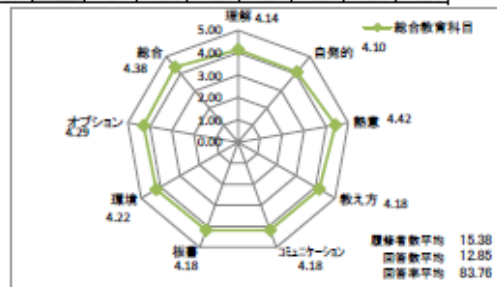
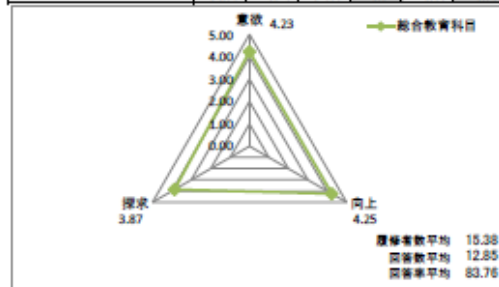
科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探究	熱意	教え方	コミュニケーション	振奮	環境	オプション
総合教育科目	15.38	12.85	83.76	4.23	4.14	4.25	4.10	3.87	4.42	4.18	4.18	4.18	4.22	4.29
医療薬学科基礎科目	34.00	31.00	91.20	4.10	4.30	4.20	3.90	3.80	4.00	4.00	3.90	4.00	4.00	4.50
医療薬学科専門科目	34.00	28.14	82.77	3.91	3.63	3.77	3.70	3.59	4.10	3.53	3.54	3.54	3.80	3.98



2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

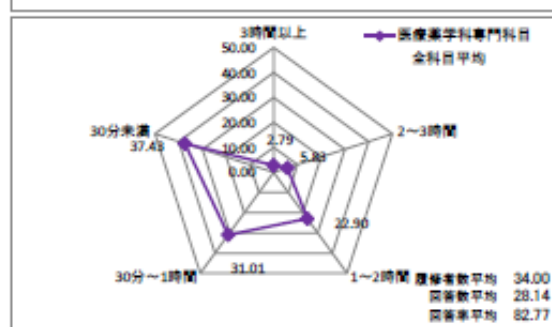
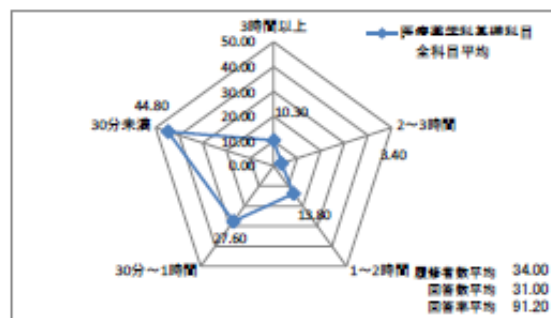
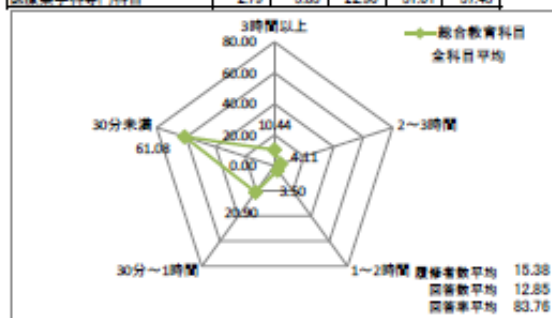
※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	平均													
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探究	熱意	教え方	コミュニケーション	振奮	環境	オプション
総合教育科目	15.38	12.85	83.76	4.23	4.14	4.25	4.10	3.87	4.42	4.18	4.18	4.18	4.22	4.29
医療薬学科基礎科目	34.00	31.00	91.20	4.10	4.30	4.20	3.90	3.80	4.00	4.00	3.90	4.00	4.00	4.50
医療薬学科専門科目	34.00	28.14	82.77	3.91	3.63	3.77	3.70	3.59	4.10	3.53	3.54	3.54	3.80	3.98



2021年度 授業改善アンケート結果(前期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	10.44	4.11	3.50	20.90	61.06
医療系学科基礎科目	10.30	3.40	13.80	27.60	44.80
医療系学科専門科目	2.79	5.83	22.90	31.01	37.43



2021 年度後期授業評価アンケートについて

- 対象学生 学生 689 名 (休学者 12 名は対象外)
- 対象科目 実習科目を除く 165 科目
- 使用ツール PD ネットワークつばさ 授業評価アンケート
- 設問内容 設問 1～14 マークシート対応

- 問 1
- この授業に関心があったから
 - シラバスを読んで
 - 教員に魅力があったから
 - 自分の専門に関係が深い分野だから
 - 幅広い教養を身につけるため
 - 必修だから
 - 単位が取り易そうだから
 - その他
- 問 2 この授業を意欲的に受講しましたか
- 問 3 この授業の内容を理解できましたか
- 問 4 考え方、能力、知識、技術などは向上しましたか
- 問 5 自ら学ぶ意欲は湧きましたか
- 問 6 自ら進んで課題を発見し探求する力が身につきましたか
- 問 7 教員に熱意は感じられましたか
- 問 8 教え方(教授法)はわかりやすかったですか
- 問 9 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか
- 問 10 この授業に対する 1 週間あたりの平均の勉強時間(授業時間を除く)は。
③3 時間以上 ④2～3 時間 ③1～2 時間 ②30 分～1 時間 ①30 分未満
- 問 11 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか
- 問 12 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか
- 問 13 オプション(担当教員からの自由設問)
- 問 14 この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか

設問 15～17 自由記載

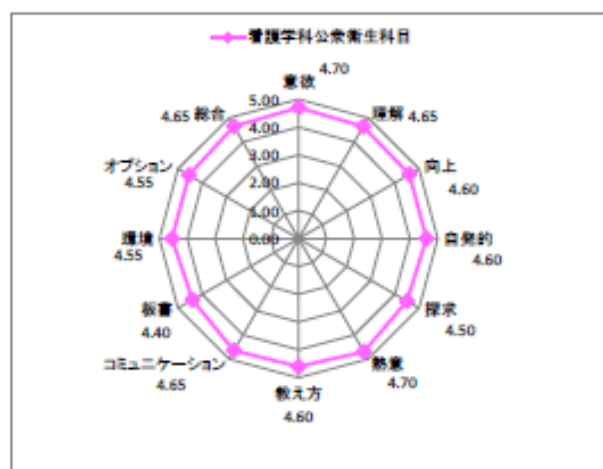
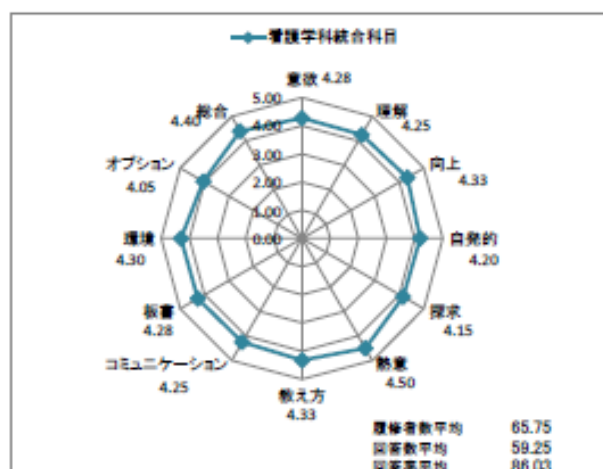
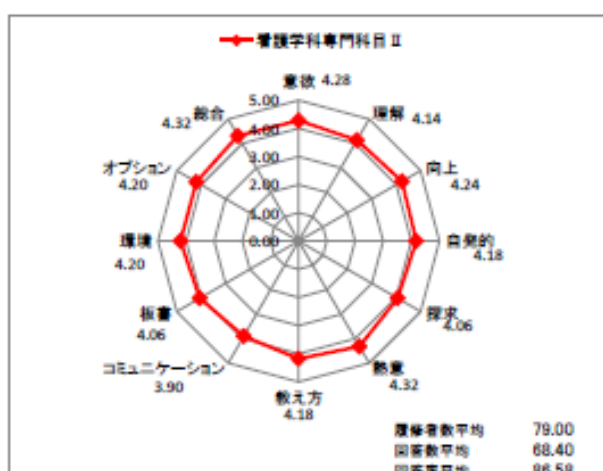
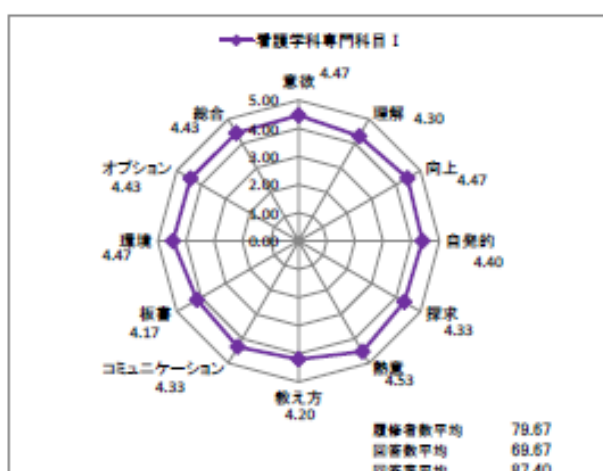
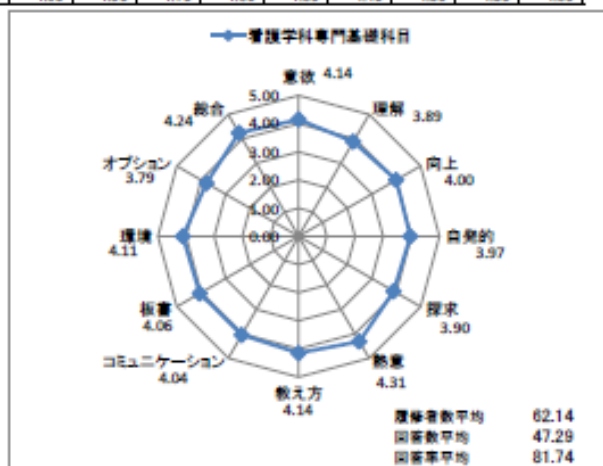
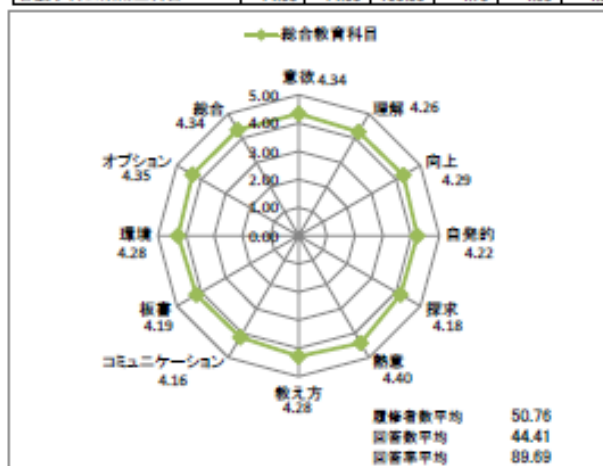
- 問 15 この授業で良かったと思う点を書いてください(自由記載)
- 問 16 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を詳しく書いてください
- 問 17 オプション(担当教員からの自由設問)

- 『学生が講義を受けて、学生自身が変化や影響を受けたと感じる項目』を元に作成した三角形のレーダーチャート(設問 4～6)
- 『授業そのものの評価』(設問 2～3, 7～14)を元に作成した九角形のレーダーチャート

- 勉強時間 実習科目は本アンケートの対象外になっているため、臨床実習の実施時期によって、学年・学科専攻ごとに実習以外の勉強時間(=本アンケートの調査結果)に差が現れているものと推測される。

2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

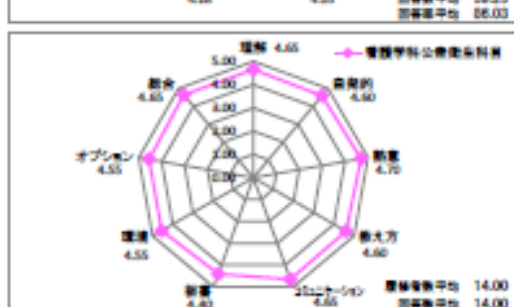
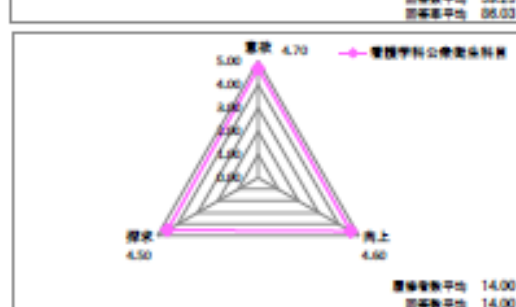
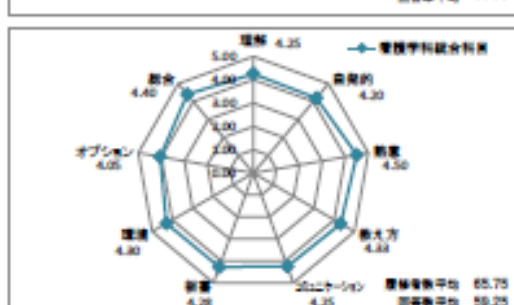
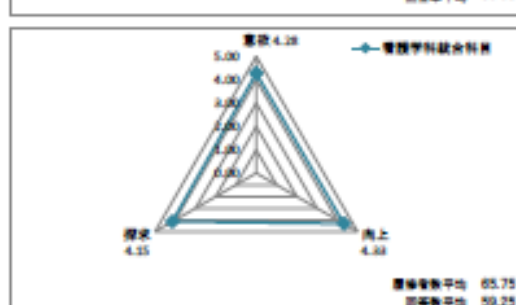
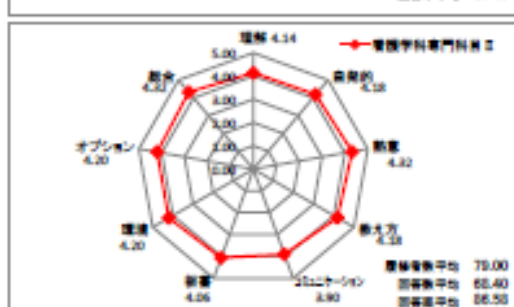
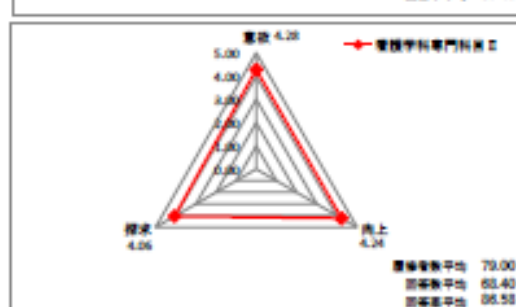
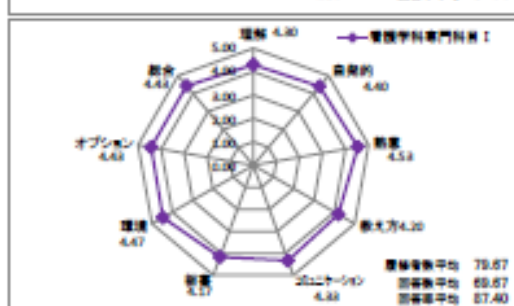
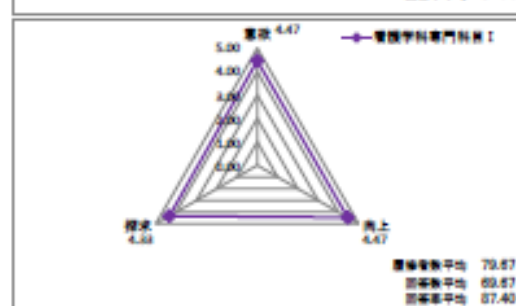
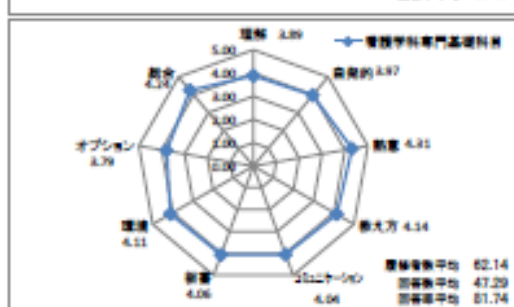
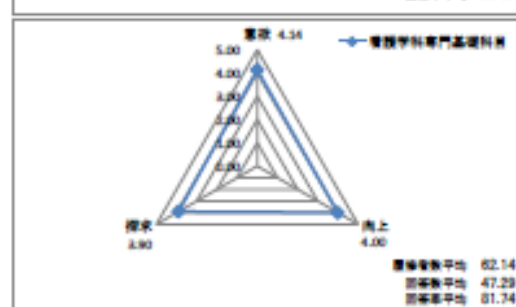
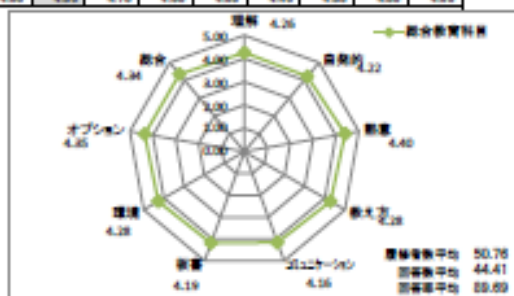
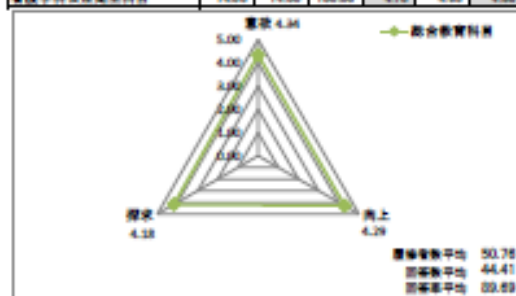
科目名	平均												
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	板書	環境
総合教育科目	50.76	44.41	89.69	4.34	4.26	4.29	4.22	4.18	4.40	4.28	4.16	4.19	4.28
看護学科専門基礎科目	62.14	47.29	81.74	4.14	3.89	4.00	3.97	3.90	4.31	4.14	4.04	4.06	4.11
看護学科専門科目Ⅰ	79.67	69.67	87.40	4.47	4.30	4.47	4.40	4.33	4.53	4.20	4.33	4.17	4.47
看護学科専門科目Ⅱ	79.00	68.40	86.58	4.28	4.14	4.24	4.18	4.06	4.32	4.18	3.90	4.06	4.20
看護学科統合科目	65.75	59.25	86.03	4.28	4.25	4.33	4.20	4.15	4.50	4.33	4.25	4.28	4.30
看護学科公衆衛生科目	14.00	14.00	100.00	4.70	4.65	4.60	4.60	4.50	4.70	4.60	4.65	4.40	4.55



2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

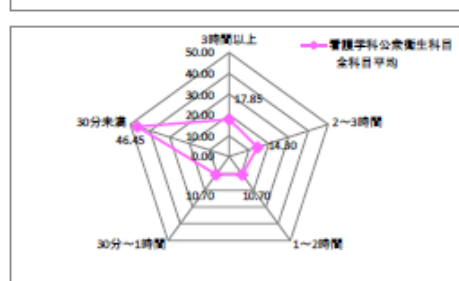
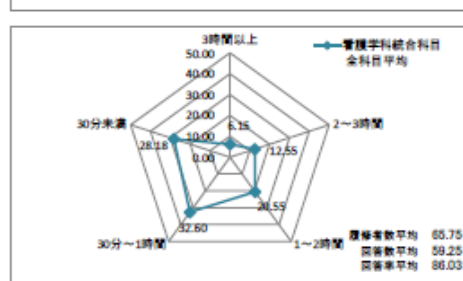
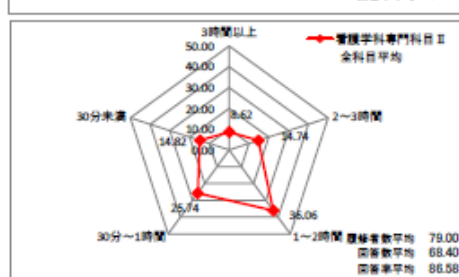
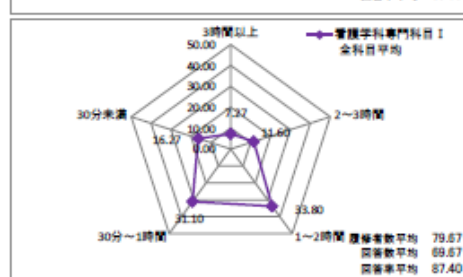
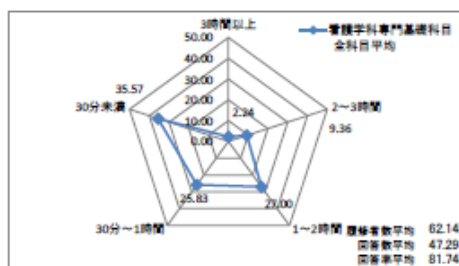
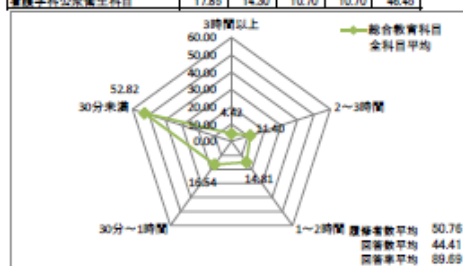
※レーダーチャートは学生による学生自身の評価、レーダーチャート右は学生による教員の評価

科目名	履修者数	出席率	出席率	理解	向上	貢献度	授業	教員	コミュニケーション	授業	理解	オプション	結果
総合教育科目	50.75	44.41	55.59	4.34	4.25	4.25	4.22	4.13	4.40	4.25	4.13	4.25	4.24
看護学科専門基礎科目	52.14	47.29	51.74	4.14	3.92	4.06	3.87	3.93	4.31	4.14	4.06	4.11	4.24
看護学科専門科目Ⅰ	79.57	55.57	57.40	4.67	4.30	4.47	4.40	4.33	4.52	4.30	4.37	4.47	4.43
看護学科専門科目Ⅱ	79.00	55.40	55.59	4.25	4.14	4.24	4.13	4.05	4.32	4.13	4.05	4.20	4.32
看護学科総合科目	55.75	55.25	55.59	4.25	4.25	4.30	4.20	4.13	4.50	4.25	4.25	4.30	4.40
看護学科公衆衛生科目	14.00	14.00	100.00	4.70	4.60	4.60	4.60	4.60	4.70	4.60	4.65	4.65	4.65



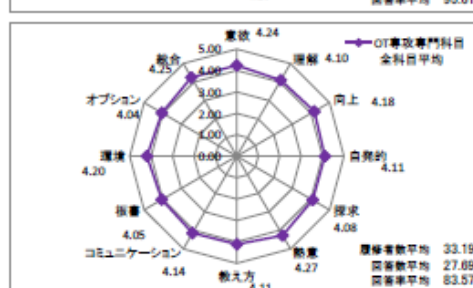
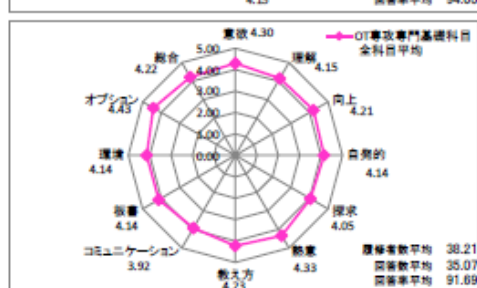
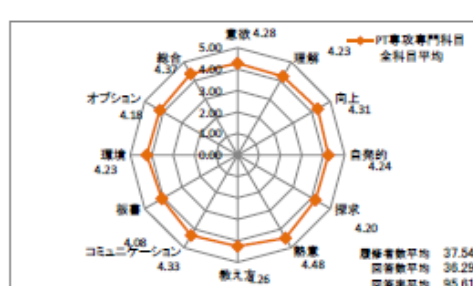
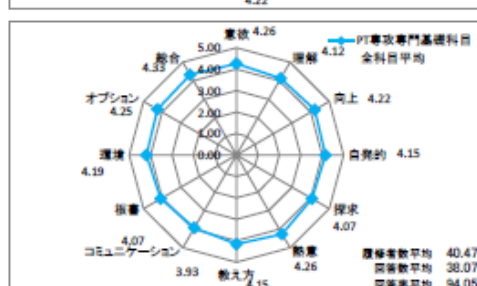
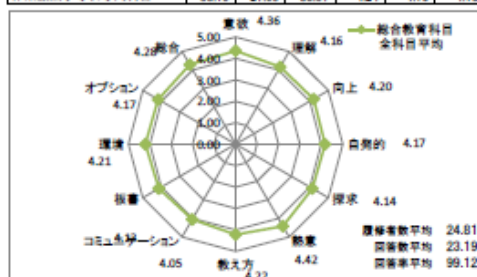
2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	2時間以上	1～2時間	30分～1時間	30分未満	
総合教養科目	4.42	11.40	14.81	16.54	52.82
看護学科専門基礎科目	2.24	9.36	27.00	25.83	35.57
看護学科専門科目Ⅰ	7.27	11.60	33.80	31.10	16.27
看護学科専門科目Ⅱ	8.62	14.74	38.06	25.74	14.82
看護学科総合科目	8.15	12.55	20.55	32.60	28.18
看護学科公衆衛生科目	17.85	14.30	10.70	10.70	46.45



2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

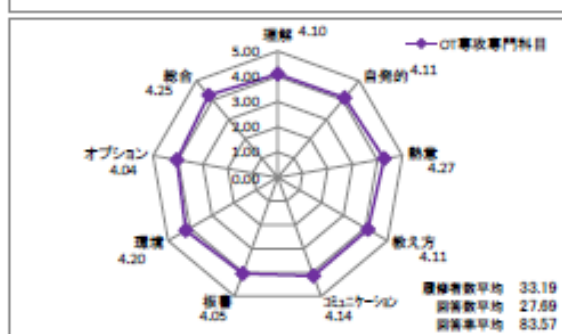
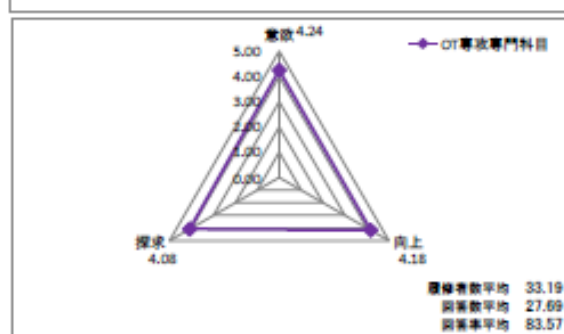
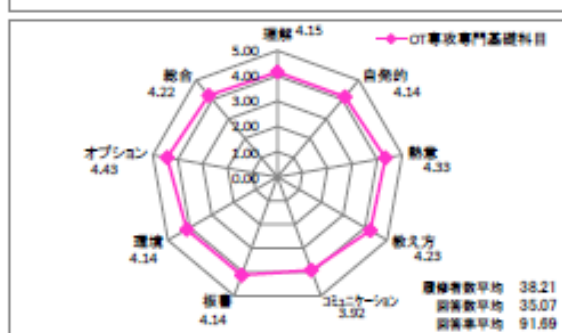
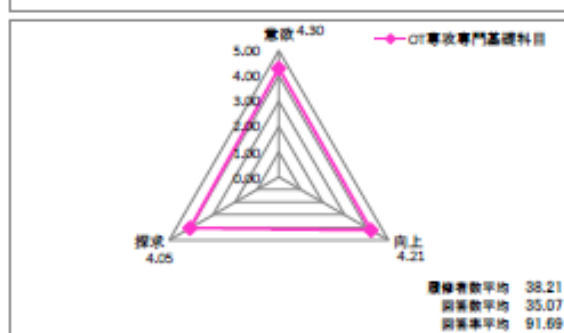
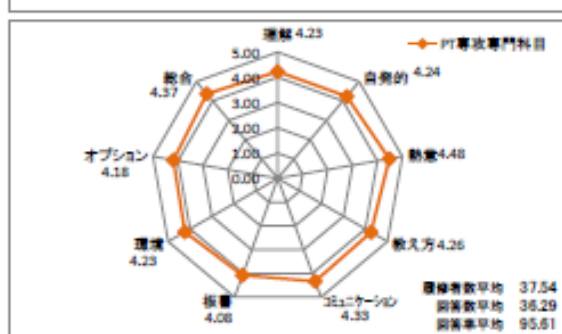
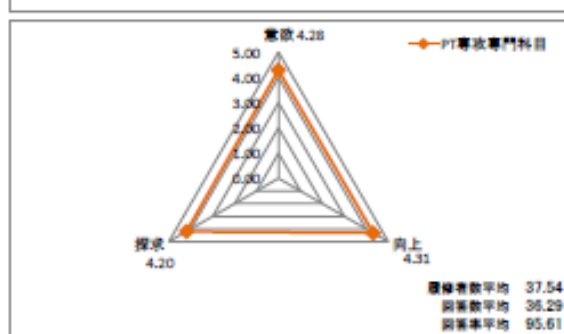
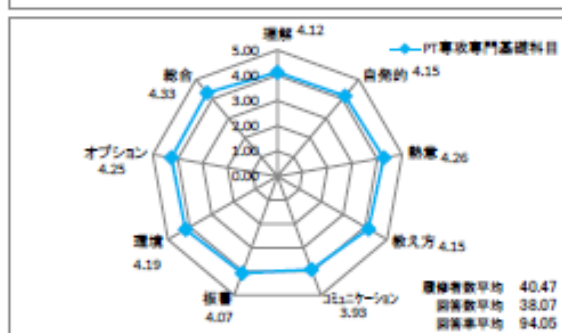
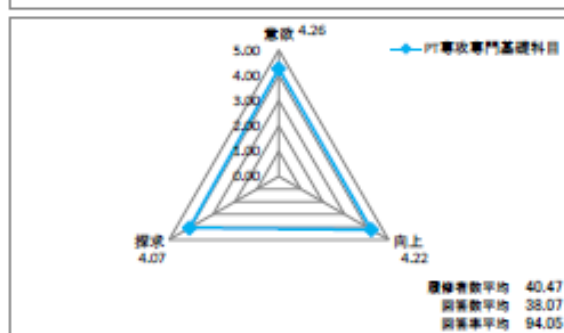
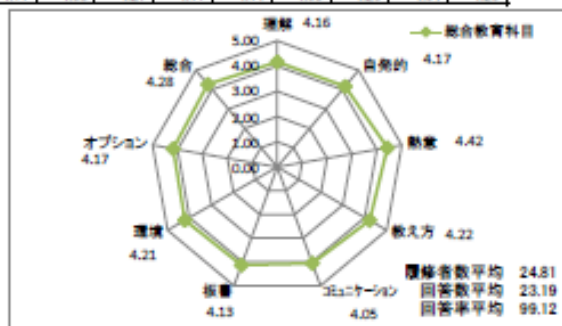
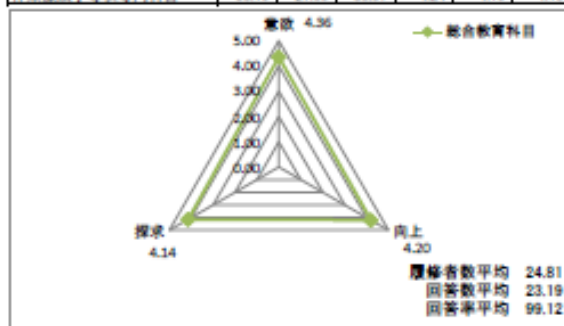
科目名	平均													
	履修者数	開講数	開講率	意欲	理解	向上	自発的	探究	教える	コミュニケーション	振る	環境	オプション	総合
総合教養科目	24.81	23.19	99.12	4.36	4.16	4.20	4.17	4.14	4.42	4.05	4.13	4.21	4.17	4.28
理学療法専攻専門基礎科目	40.47	38.07	94.05	4.26	4.12	4.22	4.15	4.07	4.29	4.15	4.07	4.19	4.25	4.33
理学療法専攻専門科目Ⅰ	37.54	36.29	95.61	4.28	4.23	4.31	4.24	4.20	4.48	4.26	4.33	4.08	4.23	4.37
理学療法専攻専門科目Ⅱ	38.21	35.07	91.89	4.30	4.15	4.21	4.14	4.05	4.33	4.23	4.14	4.14	4.43	4.22
作業療法専攻専門科目	33.19	27.89	83.57	4.24	4.10	4.18	4.11	4.08	4.27	4.11	4.14	4.05	4.20	4.25



2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

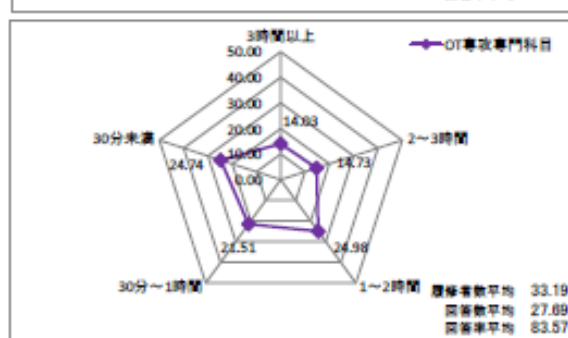
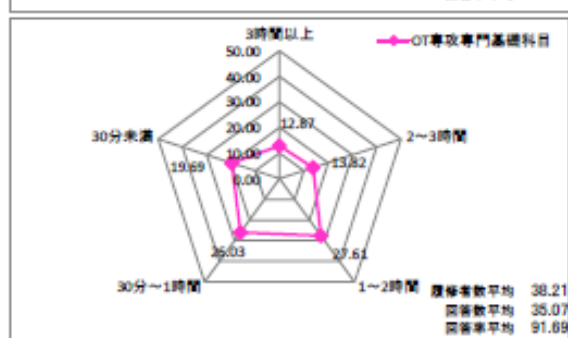
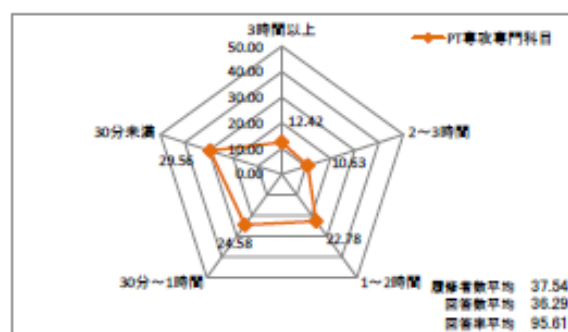
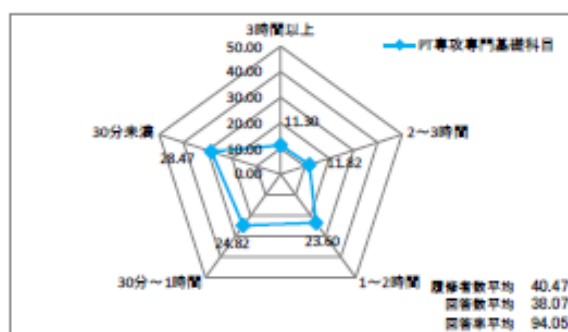
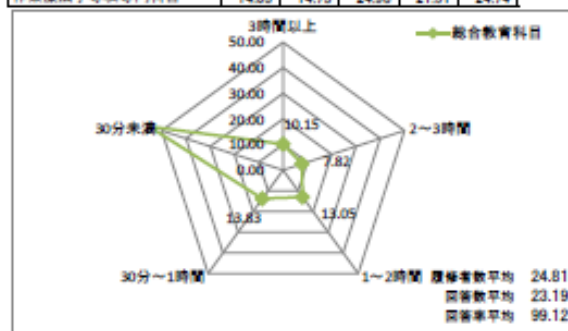
※レダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	平均												
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探究	熱意	教え方	コミュニケーション	授業	オプション
総合教養科目	24.81	23.19	99.12	4.36	4.18	4.20	4.17	4.14	4.42	4.22	4.05	4.13	4.21
法学部法学専攻専門基礎科目	40.47	38.07	94.05	4.26	4.12	4.22	4.15	4.07	4.28	4.15	3.93	4.07	4.19
法学部法学専攻専門科目	37.54	36.29	95.61	4.28	4.23	4.31	4.24	4.20	4.48	4.26	4.33	4.08	4.23
工学部工学専攻専門基礎科目	38.21	35.07	91.89	4.30	4.15	4.21	4.14	4.05	4.33	4.23	3.92	4.14	4.14
工学部工学専攻専門科目	33.19	27.69	83.57	4.24	4.10	4.18	4.11	4.08	4.27	4.11	4.14	4.05	4.04



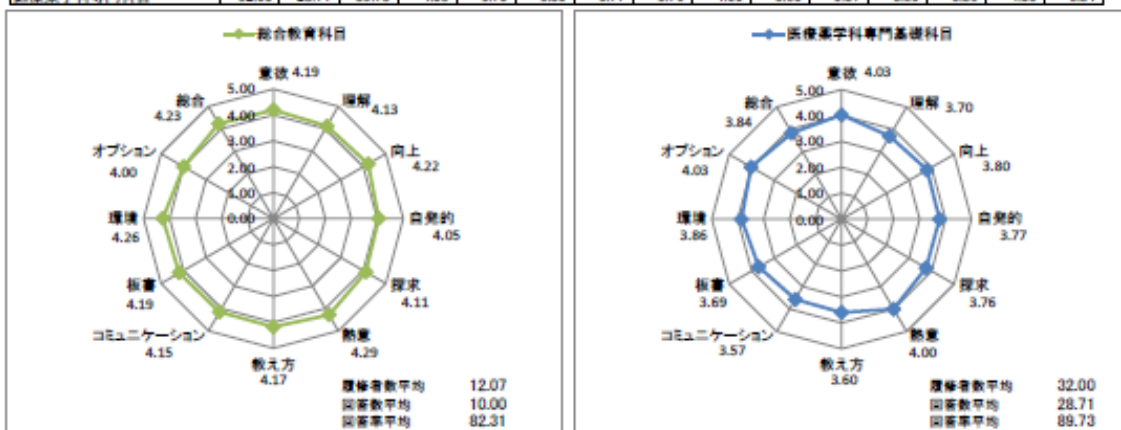
2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	10.15	7.82	13.05	13.83	55.16
医学法学部専門基礎科目	11.30	11.82	23.60	24.82	28.47
医学法学部専門科目	12.42	10.63	22.78	24.58	29.58
作業療法学部専門基礎科目	12.87	13.82	27.61	26.03	19.69
作業療法学部専門科目	14.03	14.73	24.98	21.51	24.74



2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

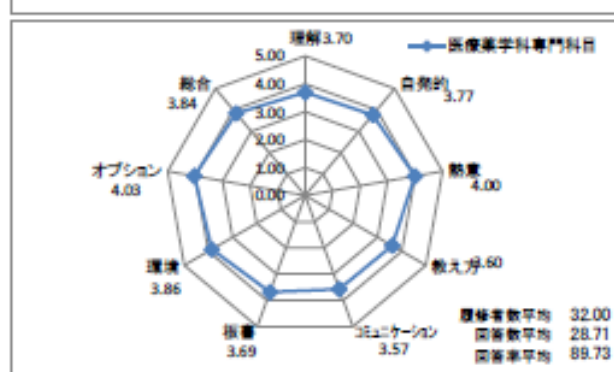
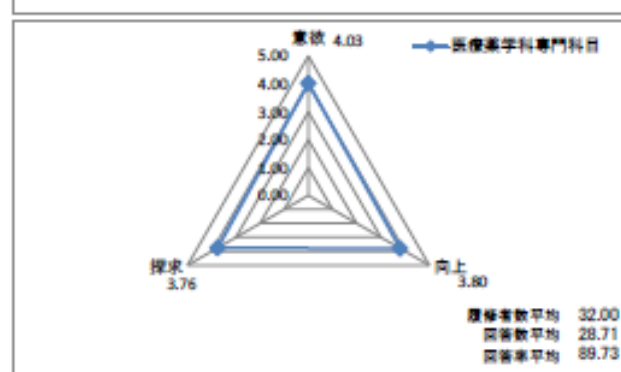
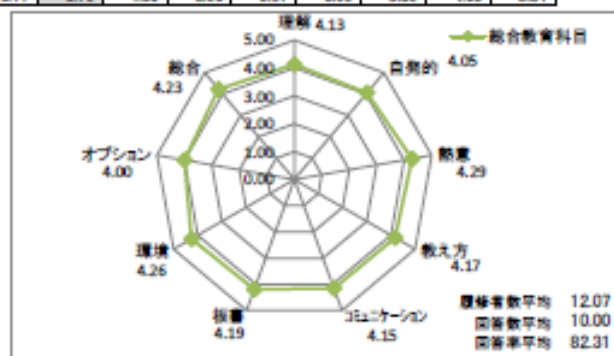
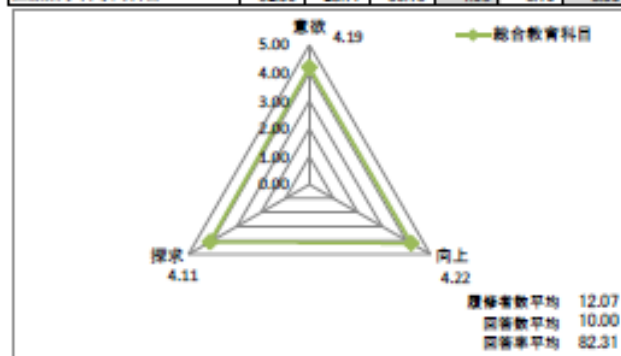
科目名	平均												
	履修者数	開講数	開講率	意欲	理解	向上	自発的	探究	態度	教え方	やり取り	振替	環境
総合教育科目	12.07	10.00	82.31	4.19	4.13	4.22	4.05	4.11	4.29	4.17	4.15	4.19	4.26
医学法学部専門基礎科目	32.00	28.71	89.73	4.03	3.70	3.80	3.77	3.76	4.00	3.60	3.57	3.69	4.03



2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

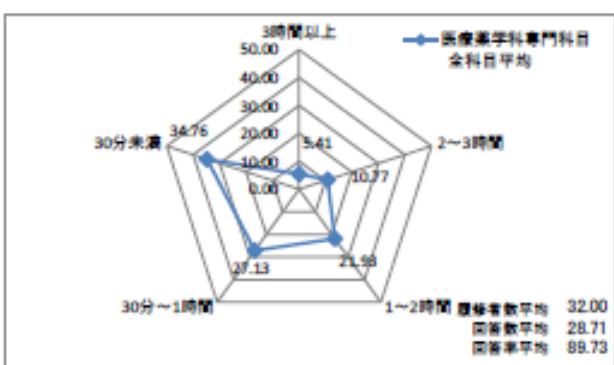
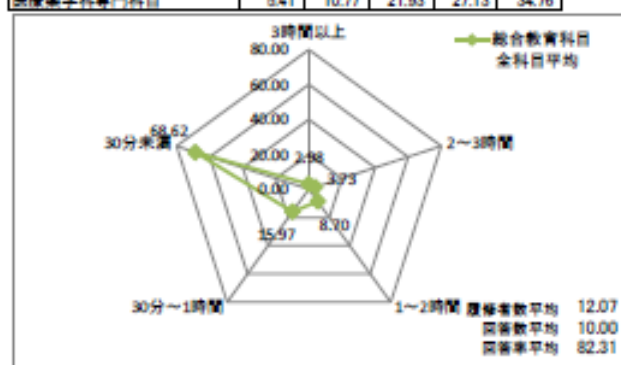
※レーダーチャート(左)は学生による学生自身の評価、レーダーチャート(右)は学生による教員の評価

科目名	平均												
	履修者数	回答数	回答率	意欲	理解	向上	自発的	探求	熱意	教え方	コミュニケーション	振替	環境
総合教育科目	12.07	10.00	82.31	4.19	4.13	4.22	4.05	4.11	4.29	4.17	4.15	4.19	4.26
医療薬学科専門科目	32.00	28.71	89.73	4.03	3.70	3.80	3.77	3.76	4.00	3.60	3.57	3.89	3.86



2021年度 授業改善アンケート結果(後期)

科目名	勉強時間平均(%)				
	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満
総合教育科目	2.98	3.73	8.70	15.97	68.62
医療薬学科専門科目	5.41	10.77	21.93	27.13	34.76



3 地域連携活動及び研究推進活動

(1) 地域連携活動

①公開講座の実施（51 ページ参照）

②自治体等との連携活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、計画されていたヨコハマ大学まつり/専門学校進学フェスタは、パネル参加のみ、また、中高生の職業体験は、中止となった。

(2) 研究推進活動

①個人研究の推進

個人研究計画に基づき研究活動を行った。（52～74 ページ 教員の研究活動参照及び別資料 第16回ふれあいグループ医療・研究会冊子参照）

②公的研究の推進

科研費等競争的研究資金の獲得状況（73～74 ページ参照）

科研費応募のための学内助成、学会発表などに対する旅費の助成を実施。また、科研費応募学内説明会（8-9月全体研修会）を実施。その他、研究不正防止研修の実施、研究倫理教育研修（オンデマンド）を実施した。

③共同研究の推進（継続）

コロナ禍でもあり、大学組織として、グループ病院との連携、臨床医学研究所との連携した共同研究は、大きな進展は見られない困難な状況でした。

④ブランディング研究（継続）

薬学部では、フレイルの研究を、保健医療学部では、高齢者、認知症患者の歩行訓練などが研究テーマとして挙がっていたものの、進展を図ることができなかった。

4 チーム医療教育の実践（継続）

湘南医療大学は、チーム医療に貢献できる人材を養成するために、全学部の授業科目に「チーム医療」を設置している。また、大学院では、「多職種協働・地域連携特論」を配置している。学部学科を超えて、グループ演習形式で、臨床現場でのチーム医療を意識した症例研究を基に講義・演習を展開し、コミュニケーション能力の高い人材の養成に努めた。

また、学園医療系専門学校においても、グループ病院と実習指導を通じた連携を図り、実習指導教育の内容の改善に努め、学生が臨床現場で即戦力として対応できるように努めている。また、臨床現場のチーム医療に参画できるように、多職種及び患者とのコミュニケーション能力の向上に努めました。

5 アクティブ・ラーニングの活用等特色ある教育

・湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科 4 年次生は、学生同士が積極的に意見を出し合いながら進める授業を実施し、学生が主体的に卒業研究テーマを決めた上で、討論などを通して医療に必要な専門的知識・技術を深めるゼミ授業を導入しています。

・学習支援システム「manaba」を全校に導入し、ICT を活用した教育を展開した。

・SNS 時代に、著作権の問題の理解、情報活用や論文作成能力の取得や向上に資するため、各校は、図書館を活用して、図書館の有効な使い方、データベースの利用法など情報リテラシー教育に力を注いだ。なお、大学では、初年次に情報リテラシー教育を教育課程の必修科目としています。

6 グループ施設などと連携した学生支援

(1) ふれあいグループ奨学金による学生支援（2021 年度実績）

有為な人材の育成と教育研究の振興のための「ふれあいグループ奨学金制度」は、社会的価値の向上に貢献する制度です。2021年度、湘南医療大学 132 人、茅ヶ崎看護専門学校 116 人、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 27 人、湘南医療大学附属下田看護専門学校 48 人、医療ビジネス観光福祉専門学校 16 人 計 339 人が奨学金を受給し、経済的な不安なく学業を継続しました。

(2) 地域医療に貢献する就職支援

2021 年度湘南医療大学卒業生の主な就職先は下表の通りです。

看護学科 卒業生 86 名		リハビリテーション学科 理学療法学専攻 卒業生 44 名		リハビリテーション学科 作業療法学専攻 卒業生 44 名	
ふれあいグループ	33	ふれあいグループ	21	ふれあいグループ	23
神奈川県内病院・クリニック・行政(保健師)	41	神奈川県内病院・クリニック	14	神奈川県内病院・クリニック	10
神奈川県外病院	8	神奈川県外病院	5	神奈川県外病院	3
進学	1	その他	4	その他	8
その他	3				

尚、学園のキャリア支援教育は、就職活動支援のほかに国家試験対策支援を行っています。チューター制度により、オフィスアワーの時間などを活用し、教員が就職相談を行い、また、授業時間外に国家試験対策補講や個別学習指導などを行いました。

(3) 専門学校と大学の教員による相互授業支援

大学教員が医療系専門学校の授業を担当し、また、専門学校教員は、大学研修センターでの現任者研修事業の講義を担当するなど教員相互出張授業を行いました。

(4) 在学生及び卒業生による課外連携活動

2021 年度の学生間の課外活動は、コロナ禍であったため、活動は縮小された。また、連携同窓会の活動は、3 回目の会報を発行し、同窓生へ送付した。また、各校の同窓生代表が今後の活動について意見交換を行う機会を設け、会報の発行以外にも連携同窓会 HP の開設、医療従事者向けの講演会等を実施し、卒後教育を更に充実させることで一致し、実行に向けて計画を策定することになりました。

7 国家試験の状況

各校国家試験合格状況【令和3年度】

	学校名	学科名	新卒				既卒			資格名
			受験者数	合格者数	合格率	全国平均 (新卒)	受験者数	合格者数	合格率	
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科(看護師)	86	83	96.5%	96.5%	4	4	100.0%	看護師
		看護学科(保健師)	15	14	93.3%	93.0%	1	1	100.0%	保健師
		理学療法専攻	42	42	100.0%	88.1%	4	2	50.0%	理学療法士
		作業療法専攻	39	38	97.4%	88.7%	8	1	12.5%	作業療法士
	保健医療学研究科	助産学領域	1	1	100.0%	99.7%	—	—	—	助産師
茅ヶ崎看護専門学校		看護学科	62	60	96.8%	96.5%	7	3	42.9%	看護師
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校		理学療法学科	51	39	76.5%	88.1%	10	3	30.0%	理学療法士
		作業療法学科	16	13	81.3%	88.7%	7	3	42.9%	作業療法士
		言語聴覚学科【2年制】	27	24	88.9%	75.0%	3	2	66.7%	言語聴覚士
		社会福祉専攻科(通信課程)	36	19	52.8%	31.1%	55	9	16.4%	社会福祉士
湘南医療大学附属下田看護専門学校		看護学科	37	33	89.2%	96.5%	16	4	25.0%	看護師
医療ビジネス観光福祉専門学校		介護福祉学科	24	7	29.2%	72.3%	—	—	—	介護福祉士
		介護福祉士実務者研修(通信課程)	15	15	100.0%	72.3%	4	2	50.0%	

8 退学者の状況

2021年度の各校の退学者数の状況は、以下の通りである。

湘南医療大学	退学者 20 名
茅ヶ崎看護専門学校	退学者 20 名
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	退学者 38 名
湘南医療大学附属下田看護専門学校	退学者 8 名
医療ビジネス観光福祉専門学校	退学者 47 名 (除籍者 36 名含む)

9 募集・広報

1) 各校の定員確保の状況 (2022年度入学生)

2022年度の各校入学状況は、湘南医療大学薬学部及び医療ビジネス観光福祉専門学校観光学科を除き、入学定員充足率 70%を上回る結果であった。

2022年度学生募集

			入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員 充足率
湘南医療 大学	保健医療 学部	看護学科	140	350	329	191	144	102.9%
		リハビリテーション学科	80	307	299	118	80	100.0%
		理学療法専攻	40	239	232	56	42	105.0%
		作業療法専攻	40	68	67	62	38	95.0%
	薬学部	医療薬学科	130	192	162	134	66	50.8%
	大学院	保健医療学研究科	12	11	11	11	11	91.7%
	専攻科	公衆衛生看護学専攻	20	14	14	14	13	65.0%
		助産学専攻	15	17	17	17	14	93.3%
茅ヶ崎看護専門学校		看護学科	80	102	91	87	80	100.0%
茅ヶ崎リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	70	108	104	76	73	104.3%	
	作業療法学科	30	34	29	27	22	73.3%	
	言語聴覚学科	35	45	45	40	35	100.0%	
	社会福祉専攻科	80	71	71	70	65	81.3%	
湘南医療大学附属下		看護学科	40	55	54	43	37	92.5%
医療ビジネス観光福 祉専門学校	医療ビジネス学科	40	31	31	30	29	72.5%	
	観光学科	60	20	20	20	19	31.7%	
	介護福祉学科	35	33	33	33	30	85.7%	
	介護福祉士実務者研修	30	11	11	11	11	36.7%	

2) 2021年度の広報活動

- ・神奈川県立横浜氷取沢高校と湘南医療大学は高大連携協定を締結し、薬学部の教員2名と作業療法学専攻の教員1名が出張授業を行い、高大連携交流を深めた。
- ・各校、高校教員向け学校説明会を1～3回程度行い、各校の魅力や特色を説明した。
- ・スマートフォン・ホームページに、受験生に有益になるような教育活動の内容、トピックス、入試情報、コロナ情報などの最新情報の更新を積極的に努めた。
- ・コロナ禍でのオンライン説明会、相談会と並行して、昨年度は、人数制限、時間制限や衛生環境に配慮した対面でのオープンキャンパスをできる限り実施した。
- ・「ふれあいグループ奨学金制度」を前面にPRした広報活動を行った。
- ・学園とグループ17病院・51施設と連携した教育・就職活動を紹介した。
- ・豊富な症例検討と、全教職員が参加する「チーム医療教育」を紹介した。
- ・学士課程教育から卒業後教育（大学院、専攻科）・現任者教育（各種講習会）を通して地域貢献する教育を紹介した。
- ・臨床実践に必要なコミュニケーション能力が身につく「臨床実習」を紹介した。
- ・教員や学生の研究活動を積極的にホームページに掲載した。

10 人事計画及び組織

(1) 人事計画

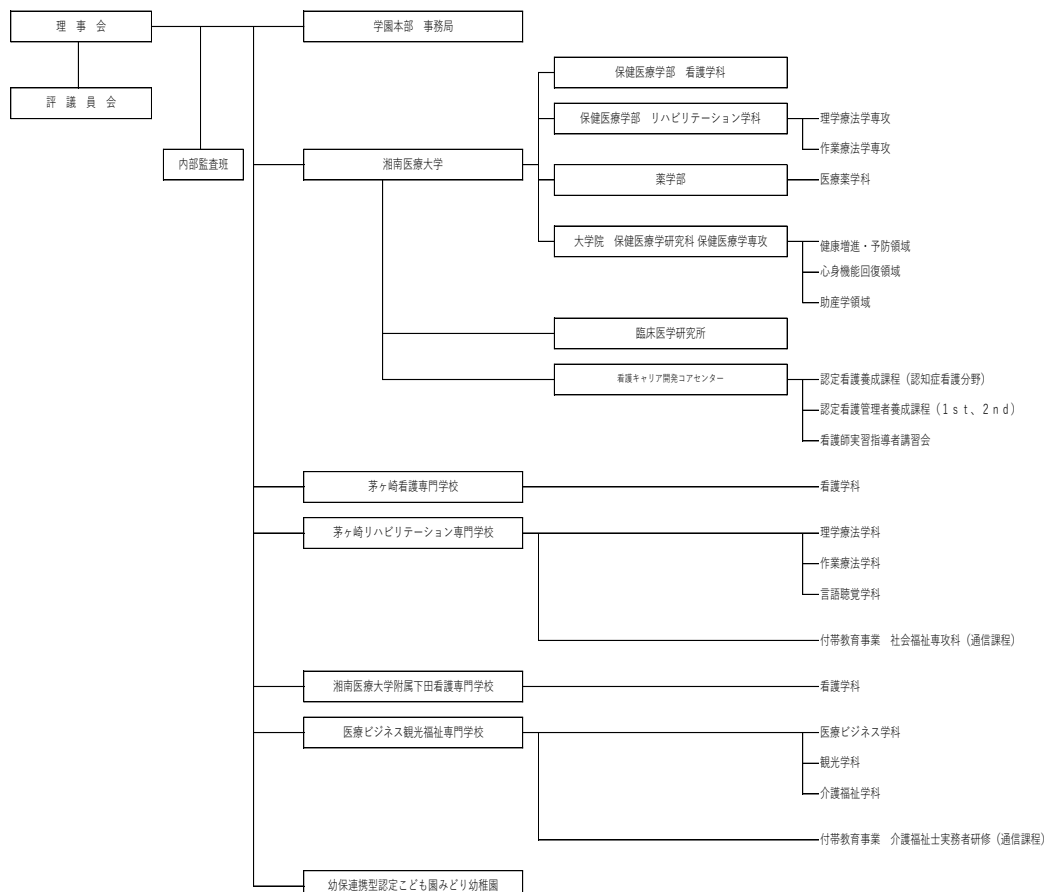
2021年度、湘南医療大学薬学部の開設年度であったため、専任教員の段階的配置計画を踏まえ、教員15名が就任し、大学全体教員数及び教授数の変更に対応した。

また、保健医療学部看護学科の入学定員増を控え、準備教員の確保に努めた。

なお、認定こども園みどり幼稚園及び湘南医療大学附属下田看護専門学校は、慢性的に教員の確保が必要であったため、教員募集サイトの活用及び教員派遣会社への登録を行い、教員の確保に努めた。

(2) 組織

学校法人湘南ふれあい学園 組織図(2021年度)



1 1 コンプライアンスの徹底（継続）

- ・学園の規程に則り、理事会、評議員会を実施した。また、各校園での会議、委員会も予定通り開催し、学校運営の充実を図った。
- ・各校では、自己点検・評価活動を実施し、ホームページに評価結果を公表した。尚、湘南医療大学は、高等教育評価機構の認証評価を受審し、適合の判定であった。
- ・教職員ハンドブックや職員手帳に基づき、全教職員の入職時に学園の行動指針や行動規範を説明し、コンプライアンスの意識を高めた。
- ・学園本部職員（内部監査班の職員）による内部監査を実施した。及び監事による業務監査及び会計監査を実施した。公認会計士及び監事より理事長に利益相反事項の改善要請があり、理事会での審議が行われ、私学法に基づき改善がなされた。
- ・近年SNSによる誹謗中傷のニュースを目の当たりにする機会が増え、本学園でも学生教職員に注意指導を行い、倫理教育の徹底を図っている。

1 2 規程の整備

2021年度に施行又は改正した学園の規程一覧は、下表記載の通りである。全般的に既存規程の改正を主に行った。

○共通		2022年3月31日現在		
No.	規程名	制定日	承認日	直近改正日
1	就業規則	H3.4.1、実施	職員代表	R3.10.1一部改正
2	就業規則（非常勤職員）	H16.12.16、実施	職員代表	R3.10.1一部改正
3	慶弔金規程	H4.1.4、実施	人事	H25.1.1、一部改正
4	非常勤講師に関する規程	H27.4.1、制定	H27.2.18 理事会済	H31.4.1、一部改正
5	教職員給与規程	H6.1.1、実施	職員代表	H31.4.16、一部改正
6	退職金規程	H3.3.4、実施	職員代表	H26.4.1、一部改正
7	役員報酬規程	H27.4.1、制定	理事長改廃	R4.4.1 一部改正
8	役員退職金支給規程	H27.4.1、制定	H27.2.18 理事会済	
9	育児休業規程	H4.4.1、適用	職員代表	H29.10.1、一部改訂
10	介護休業規程	H15.9.1、適用	職員代表	H29.1.1、一部改訂
11	事務組織及び事務分掌に関する規程	H26.4.1、制定	H27.9.8 運営会議済	H27.4.1、一部改正
12	顧問規程	H26.4.1、制定	理事長改廃	
13	稟議規程	H26.4.1、制定	H26.11.26 理事会済	
14	監事監査規程	H6.4.1、制定	理事会	R2.4.1 一部改正
15	内部監査規程	H27.4.1、制定	H27.2.18 理事会済	
16	経理規程	H16.4.1、施行	H31.1.23 理事会済 2019.9.18 理事会済	H31.4.1、一部改正 2019.10.1一部改正
17	寄附金等取扱規程	H25.10.10、制定	理事会	H25.10.10、一部改正
18	資産運用規程	H22.4.1、制定	理事長改廃	
19	国内出張旅費規程	H17.10.1、施行	理事長改廃	H29.4.1、一部改正
20	赴任旅費支給規程	H17.5.1、制定	人事	
21	学会・研修会等参加規程	H27.4.1、制定	理事長改廃	H29.11.1、一部改正
22	固定資産及び物品管理規程	H26.4.1、制定	理事長改廃	
23	公印取扱規程	H26.4.1、制定	理事長改廃	H31.4.1、一部改正
24	文書管理規程	H22.4.1、施行	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
25	文書取扱規程	H24.4.1、施行	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
26	図書管理規程	H27.4.1、制定	H27.1.21 理事会済	
27	個人情報管理規程	H17.4.1、施行	H27.2.18 理事会済	H29.7.19、一部改正
28	情報公開規程	H17.4.1、施行	H27.2.18 理事会済	H27.4.1、一部改正
29	公益通報に関する規程	H27.4.1、制定	H27.2.18 理事会済	
30	学生寮規程（旧室田寮規程）	H27.4.1、制定	H27.1.21 理事会済	H30.4.1、室田寮規程改正
31	セクシャルハラスメントに関する規程	H21.2.1、制定	職員代表	
32	講演、寄稿等の職員外部活動規程	H20.8.1、制定	改廃の記載なし	
33	看護師養成所専任教員養成講習会受講資金貸与規則	H24.4.1、施行	H26.11.26 理事会済	H26.4.1、一部改正
34	看護教員研修貸付金制度規程	H20.12.1、制定	改廃の記載なし	
35	転校等に伴う入学検定料・入学金免除規程	H20.3.28、制定	理事会	
36	湘南ふれあい学園 学生慶弔見舞規程	H17.8.31、制定	H25.11.25理事長決裁	H27.11.25、一部改正
37	名刺管理規程	H28.7.1、施行	理事長改廃	
38	貸室利用規程	H29.1.1、制定	理事長決定	
39	実習謝礼金支払規程	H29.1.1、制定	理事長決定	R3.4.1一部改正
40	非常勤講師報酬等規程	H29.1.1、制定	理事長決定	H31.04.01 改正
42	特定個人情報取扱規程	H30.4.1、制定	理事長決定	
43	服装に関する規程	H31.4.1施行	理事長決定	
44	学校法人理事会の決定権限の委任に関する規程	H31.4.1施行	理事会	
45	固定資産及び物品購入規程	2019.10.1施行		
46	職員懲戒規程	2019.11.22、施行		
47	湘南ふれあい学園専修学校評価実施規程	2019.4.1施行		
48	大学等における修学の支援に関する法律に規定する授業料等の減免に関する規程	2020.4.1施行		
49	湘南医療大学専任教員就学資金貸付規程	2022.4.1施行		

Ⅲ 中長期計画における重点報告の概要 ※詳細は、法人のホームページに公開

1 湘南医療大学薬学部医療薬学学科の設置認可

湘南医療大学は、2020年3月に文科省に薬学部医療薬学学科の設置認可申請書を提出し、2020年10月に同学部同学科の設置認可を受けた。

2 湘南医療大学看護キャリア開発コアセンター認定看護師管理者部門ファーストレベル開講

多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して質の高い組織的看護サービスを提供することを目的とし、実務経験5年以上管理業務を目指す看護師28名を対象に実施し、地域医療に貢献した。

3 特定行為研修申請（変更）

2020年11月に関東信越厚生局に特定行為研修を申請し、2021年2月に認可を受けた。但し、本学園のグループ病院である湘南東部総合病院で実質的に行うため、検討の結果、医療法人社団康心会湘南東部総合病院で申請し、湘南医療大学は、教員等の派遣を行い、診療の補助、実践的な理解、思考力、判断力並びに高度かつ専門的な知識技能が必要な38行為のうち、「在宅・慢性期領域パッケージ」の4区分4行為に関する研修事業を2021年4月から実施することになった。

4 茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の改組（大学学部昇格）計画

茅ヶ崎市第一駐車場跡地に、湘南医療大学新設学部を（看護師養成、リハビリテーション従事者養成）を設置する計画骨子案がまとまる。令和7年度の設置開設（令和6年3月申請）にむけて準備を進めることとなった。

5 その他

湘南医療大学大学院保健医療学研究科（修士課程）に新領域（医療経営管理学領域）の設置の計画、同大学院保健医療学研究科（博士後期課程）の設置の計画については、教育内容、教員確保などの課題事項について継続的に取り組み、令和6年度の設置を目指し、準備を進展させる予定である。

Ⅳ 監事監査方針及び計画

2021年度は、下記の監査対象校の内部監査及び監事監査を以下の通り実施した。

【業務監査】

監査対象校	内部監査	監事監査	結果
湘南医療大学	2021年 10月27日	2022年 3月23日	適性な運営であることが確認された。
湘南医療大学附属下田看護専門学校	2021年 8月26日	2022年 3月23日	適性な運営であることが確認された。

※コロナ禍を鑑み、専門学校の監事監査はオンラインにて実施した。

【会計監査】

2022年5月17日 公認会計士より監事2名が2021年度の予算執行状況等の説明を受け、適切な運営であることが説明された。

Ⅲ 各学校の事業報告

1) 湘南医療大学

(1) 理念の実践

全体研修、教授会、その他委員会等各種会議をととして、全教職員、学生に対して「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を礎とする、思いやりのある教育活動を実践することを確認し、行動した。

(2) 教育活動の実践

令和元年に始まった新型コロナウイルス感染対策として様々な方法で授業運営、学習支援、大学の活動を展開してきた。インターネットを活用した課題や授業を行い、対面式授業では間隔をあけた座席配置、飛沫感染防止アクリル板などを用いた対策を講じた。また、実習施設での実習を確保するため、抗原検査キットの導入やワクチン接種の依頼、一斉接種をグループ病院と協力して行った。その結果、実習施設での実習を行うことが出来、技術取得など専門職業人の育成のため、教育活動に努力した。

薬学部1期生34名を迎え、教育活動を開始したが令和2年に引き続き、令和3年度入学式は大規模会場での開催を見送り、大学内にて学科別で行った。令和3年度学位記授与式は茅ヶ崎市民文化会館を利用し、保健医療学部、大学院の学位記授与式を挙行了した。

2022年度は看護学科144名、リハビリテーション学科80名の第7期生、医療薬学科66名の2期生、大学院保健医療学研究科（修士課程）に11名の第3期生を迎える。

ア) 学修指導

オリエンテーションガイダンスを通じて、保健医療学部、薬学部の設置趣旨の理解促進、及び学生便覧、シラバス等により4年または6年間にわたる系統的な学習計画の指導・説明を実施した。

イ) 入学前教育の実施

看護学科、リハビリテーション学科では、総合型選抜入試入学者は11月後半から、推薦入試入学者に対しては1月より、入学前課題を出題した。パソコン・スマートフォン・タブレット等を使ってインターネット上で行うウェブ課題形式で、基礎学力・数学・物理・化学・生物等の課題を出題した。

医療薬学科は入学予定者に対し、リメディアル教育を大学内で行い、入学前までの土曜日を中心に集中講義を実施した。遠方の入学予定者はwebを利用した講義を視聴し、課題対応を行わせるなど基礎学力向上を図った。

ウ) オフィスアワーの実施

学生が主体性を持って自主的に学習計画を進めるにあたり、オフィスアワーを活用できる環境を整備し、オリエンテーションガイダンス、授業概要誌面上の周知、教員研究室前の掲示等を活用して、学生のオフィスアワーの活用を促す取り組みを促進した。

エ) 国家試験結果と実施した対策

国家試験結果は以下の通りの結果となった。2021年度は2020年度の結果を踏まえ、特に作業療法学専攻について対策を強化し、個別指導を展開した。その結果昨年以上回る結果となった。

□看護師保健師助産師国家試験

新卒者の合格率 96.5%(83/86 名)【全国平均 96.5%】、既卒者を含む合格率 96.7%(87/90 名)【全国平均 91.3%】、保健師については、新卒者の合格率 93.3%(14/15 名)【全国平均 93%】、既卒者を含む合格率 93.8%(15/16 名)【全国平均 89.3%】となった。

助産師については 100%(1/1 名)【全国平均%】となった。

理学療法士国家試験

新卒者の合格率 100%(42/42 名)【全国平均 88.1%】、既卒者を含む合格率 95.7%(44/46 名)【全国平均 79.6%】

作業療法士国家試験

新卒者の合格率 97.4%(38/39 名)【全国平均 88.7%】、既卒者を含む合格率 83%(39/47 名)【全国平均 80.5%】となった。

看護学科は、コロナ感染対策を整え、対面方式にて支援を行う。①受験にむけたガイダンスを行い、受験にむけた動機づけを行う。②昨年の国家試験問題を含む業者模試を計画し、計 8 回計画・実施した。③学生が苦手としている「人体の機能と構造（解剖・生理学）」については、学内外の講師に特別講座を依頼し、夏季休暇を利用した補講を 10 回実施した。④、各領域の先生方に依頼し、10 月～12 月の期間に実施した。⑤10 月 20 日から翌年 2 月 10 日までの期間、自己学習室を設置し学習環境を整えた。特に、もう二踏ん張りグループ（要支援学生）は、原則毎日登校するように指導し、特別学習支援企画を 11 月から 1 月末日まで実施した。manaba を使って過去問題から厳選した小テストを実施した。

リハビリテーション学科は両学科で国家試験結果を分析し、不合格者の傾向について特徴をつかむことから始めた。傾向として、基礎医学系、実地問題のうち画像解読、MMT などの問題が不得手であることがわかった。そのため、4 年早々にやった模試から成績低迷群を抜きだし、個別学習と支援を行うこととした。特に力を入れたのは相互学修支援体制を強化した。

理学療法学専攻では、4 年生の臨床実習終了後、9 月に業者による対策講座を受講し、業者による模試 3 回と過去問 13 回の計 16 回実施し、成績不良者に対しての指導を強化した。

作業療法学専攻では、4 学年の実習中に大学内に戻って学内学習ができるように設定し、基礎医学 3 科目（解剖・生理・運動学）の最も弱い科目を集中的に 1 日 10 問の反復問題を取り組みませた。また、夏季集中合宿を全学生に課して、継続学習を行わせた。業者模試、校内模試（過去問等）を 8 回（合宿での力試しを除く）実施し、ゼミ単位で学習フォローを行い、成績不良者には集中し対応した。

今年度は特に精神面で不安をかかえる学生の心理的不安を取り除くべく、チューターを配置し、不安を取り除き、通常の心理状態で本番に挑めるように支援を行った。

オ) 就職支援

グループの就職説明会を両学科実施し、学内で 8 月に選考試験を実施した。グループ内定は看護学科 33 名、理学療法学専攻 21 名、作業療法学専攻 26 名(うち 1 名国試不合格)の計 80 名(うち 1 名不合格)となった。

(3) F D 活動

教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント(FD)の取り組みの一環として、FD委員会を実施し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、新任教員を対象とした教育方法・学生指導に関する研修会を企画実施した。

ア) 学生による授業評価アンケート

「FDネットワークつばさ」の共通フォーマットによる授業評価アンケートを前後期に実施した。

アンケート結果は、授業科目ごとにデータ化するとともに授業科目群別のリーダーチャートを作成、科目担当教員に渡すと同時に、今後の授業改善内容を記す「リフレクション・ペーパー」の作成を行い、提出するようにした。また、ティーチングポートフォリオの作成に向けて検討に入った。

なお、授業評価アンケートから、授業科目の評価が著しく低い教員については、当該授業科目の今後の取組みについても明記し、提出を依頼している。

イ) 教員相互授業参観と自己評価

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、各学科前後期に分かれて各 2 科目を対象として授業参観を実施した。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、教員個々の授業運営への活用や、今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について意見交換と情報収集を行った。

ウ) 教育方法改善検討会

他大学の教育方法の伝達研修にあわせて、両学部間での相互研究として授業参観などを検討した。

エ) 臨床実習指導方法に関する講習会

両学部ともに実習指導者及び学内教員に対して臨床実習指導法について研修を実施した。

オ) 実習評価に関する研修

両学部ともに学内教員に対して実習評価について研修を実施した。

カ) 休退学防止への取り組み

学生のモチベーション向上、学習不安、学力低迷者に対する支援策について、学科専攻ごとに事例発表を行い、検討を行った。

(4) 私立大学等改革総合支援事業

2019 年度より補助金の申請が可能となった事業として、令和 3 年度申請 554 校中選定 117 校(選定率 21%) 96 点満点中採択選定基準 73 点以上と昨年の 68 点から更に選定基準点が上がった。本学は 35 点となり、採択とはならなかった。基準項目のうち入試における記述問題の導入など大学として対応可能なものを選定の上、継続的に対応していく。

(5) 学生募集活動

薬学部定員未達に伴い、精力的に学生募集をおこなった。薬学部資料請求者(当該学年)1551 件(前年 1208 件)と増加し、来場者のうち当該学年 118 名(前年 52 名)となった。来場者 118 名のうち 50 名が出願し、出願率 42%となった。結果として、66 名の入学者となり、定員充足率 50%と前年に引き続き定員未充足となった。

看護学科は 60 名の定員増に対して、144 名の入学者確保となり、また理学療法学専攻も定員確保に至ったが、作業療法学専攻は 38 名の入学者となり、定員未充足となった。志願者が前年に比べ 20 名減少したことが要因である。

定員未充足の薬学部、作業療法学専攻ともに志願者獲得が急務であり、来場者を増や

すとともに歩留まり率(出願率)を高めるため、オープンキャンパスの内容見直し、広報ツールである「大学ホームページの改定」を行っていく。

(6) 地域交流活動

新型コロナウイルスの影響でヨコハマ大学まつりはパネルのみの参加となった。2021年度は戸塚区と共同で行ってきたとつかおやこフェスタがオンライン形式で実施することとなり、子育てママへの支援講座として1講座実施した。そのほか、市民公開講座は新型コロナの影響でオンライン、オンデマンド形式を取り、2022年3月実施分のみ対面式で実施した。

(7) 大学院教育の充実

2021年度は17名(1年8名、2年9名)で開始となり、最終的に5名の学生に学位記を授与した。コロナウイルスの影響により、遠隔授業等で授業を運営し、課題やレポートなどを通して研究支援を行った。また、2022年度の4期生として、新たに11名を迎え、研究生1名の出願もあり、1年12名、2年12名(長期履修者3名含む)の合計24名で開始することとなった。

(8) 認定看護師養成課程(認知症看護分野)

第4期生15名を受け入れたが新型コロナウイルスに伴い、前年に引き続き、manabaシステムを活用した授業を展開した。通学とオンラインを並行して行う形式を取り、15名が修了することができた。

(9) 認定看護管理者教育課程(ファーストレベル)

1期生22名を輩出した2年目の課程として2期生を28名受け入れた。全員が修了式迄到達し、入学時と同数である22名が修了した。

(10) 看護師実習指導者講習会

2021年度は、神奈川県の実業として講習会を実施することとなり、7期生18名が講座に参加した。11月19日に18名が修了となった。

(11) 特定行為研修制度(湘南東部総合病院と連携運営)

2021年に開講した講座で2名の受講生で研修開始となった。オンライン講座を基本として、実地試験、講義を行い、2022年2月にOSCEを実施した。2022年も継続して実施する予定である。

2) 茅ヶ崎看護専門学校

2021年度最重要課題としては①看護師国家試験合格率100%②休退学者ゼロ③学生募集における定員80名確保を掲げていた。学内の学生状況を安定させ、「資格が取れる学校」をPRし、地域医療に貢献できる人材の育成を行う学校として認知を広めるよう努力した。

1. 国家試験結果

昨年度は全国平均を上回る国家試験合格率、全員国家試験合格を目指して、知識の定着と技術の習得、朝学習の徹底(毎朝5分間テスト)、長期休暇時の補講などを行い、看護師としての態度を修得することを目指して授業を行った。今年度も引き続き、国家試験全員合格を目指し取り組んできたのだが、結果としては、

2021 年度看護師国家試験合格率 96.8% 必修問題学内平均 46.2 点、一般・状況学内平均 192.5 点（全国平均 91.3%（新卒 96.5%。必修 40 点/50 点満点、一般状況 167 点/250 点）と全国平均を上回る結果にはなったが 100% 達成とはならなかった。

2. 休退学防止

昨年度は退学者 11 名（1 年 6 名、2 年 3 名、3 年 2 名）の学生が進退に関する決断をすることとなった。卒業学年の退学者の傾向として、実習不合格に伴う実習不安であり、また、そのほかの学生についても原級留置き者を中心に学習不安、学力低迷が起因していた。そのため、本試験での合格が難しく、再試験による合格が多くなり、次に向かうための準備を含め学習時間、実習対応時間が削られたことが要因であった。

今年度は原級留置き者を出さないことを目標に取り組んだ。しかし、結果として退学者 20 名（1 年 10 名、2 年 6 名、3 年 4 名）、と昨年よりも多い退学者となった。以下の点が退学の理由である。

1) 1、2 年の課題

(1) 進路変更（1 年生）

1 年生の 10 名のうち、4 名が進路変更での退学であった。入学前とのイメージの違い、大学進学・他分野への進路変更が主な理由であるが、職業理解と学習に対する理解が足りず、適応できないとの理由で進路変更した。

(2) 基礎学力の不足（2 年生）

2 年生の 6 名のうち、2 名が基礎学力に不安を持ち、再試験や再実習を多く重ねた学生であった。そのため、学習についていけず、実習欠席・遅刻、記録未完成などが発生し、教員や指導者から指導を受けるものの意欲が低下し、最終的に進路変更を選択するという流れになった。

(3) 適応障害を含む疾病による退学

どの学年においても（1 年生 5 名、2 年生 4 名）、適応障害などの症状により登校不可となる学生が多数見受けられた。

上記の通り、従来のような看護師になるという強い職業意識を持ってないまま入学してしまったことによる退学者は減少傾向にある。今後も、入試での見極め、更には学校説明会において、動機づけを維持していくような取り組みを継続していくことで、動機づけが低下していく休退学者は減らしていけると推測する。学生本人に視点を移した場合、一つの躓きがあつという間に大きくなり、更に自分だけで解決しようとする傾向は依然として強い部分もあり、面談を行った際にはすでに結論が出ていることもあるため、事前に問題に気づき解決する関わり方も再度徹底していく。

2) 志願者・入学者の確保

2021 年度の募集活動の課題としては、出願者を確保し、選考する人材を数多くそろえ、国家試験合格できる基礎的能力を持つ人材を 80 名確保する、を目指した。

社会人による資料請求が昨年から減少していたことが一因であることから、今年度は昨年度から引き続き社会人の出願が減少することを予測していた。社会人出願者は社会情勢に左右され、景気の動向により出願者数に変動する。そのため、景気回復が見込まれ、社会人出願者が減少することが推測されていた。したがって、社会人の比率を減少させ、高校卒（新卒者）の割合を増やす方向を考えていたことから、出願がしやすく、学科試験の割合が低い入試ということで推薦入試を 2 回実施し PR を行った。

しかし、期待されていた AO 入試はエントリーが昨年の 55 名から 33 名とさらに

減少が進み、それ以降の入試もほとんどが減少傾向となった。最終的に 102 名の出願があり、合格辞退者は昨年ほど多くならず(7 名、昨年度 17 名)、入学生の定員確保はできた。

(1) 既卒者の状況

2021 年度は社会人入試を撤廃し、今年度も社会人出願者の減少を見込んでいたが、総出願数 102 名中 35 名が既卒者であり、昨年総出願 130 名中既卒者 44 名からは 9 名減少している。しかし、受験者における割合としては昨年度 33.8%から 34.3%と微増している。

(2) 入試受験者減少

指定校推薦入試出願者数が昨年 12 名から今年は 14 名の出願と微増ではあったものの、AO 入試、一般入試ともに例年と比較して受験者は減少傾向にある。進路決定の早期化は変わらない傾向であるものの、特に指定校推薦の出願数が減少していることは、出願者の確保という目標達成においては大きな問題である。今年度の高校訪問による教員との連携強化の効果を増やすべく、次年度も広報による高校訪問を強化していく必要がある。

(3) 入学試験科目の検討

① 近隣競合校の入学試験科目と比較すると、本校と同じく入学試験に数学を課している学校は 6 校中 2 校のみであり、かつ 2 校とも一般入試の 1 回のみといった状況である。AO 入試、推薦入試においても数学を課しているのは、近隣においては本校のみといった状況である。

② 近年の受験希望者の傾向として、入学試験の難易度によって進学先を決定する状況が見受けられる。特に数学が敬遠されていることは、高校・予備校訪問による聞き取りによっても確認されている。

以上の状況から、本校においても入学試験科目の検討が必要であり、次年度の入学試験においても受験者の確保に向けて、入学試験内容の刷新を図っていく。

3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

2021 年度も、新型コロナウイルスが様々な学校運営に影響を与えたが、昨年の経験をもとに教育効果を出来る限り保てるよう対応を行った。前期は常勤講師の授業は原則通常通りの対面授業とし、自宅での課題授業は 5 月～6 月における非常勤講師分だけを対象とするに止めた。一方、8 月末～9 月の病院実習は学内実習にて対応せざるを得なかった。後期は幸いにも感染対策をとりながら、予定通りにカリキュラムを実施することが出来た。そのような状況の中、本校の「目指す教育」に示されている理念、基本方針に沿った教育の実践に向けて可能な限りの対応を行った。

以下に、事業計画の達成状況を報告する。

① 休・退学防止

退学の傾向が 3 学科で異なった。理学療法学科は 1 年生、作業療法学科は 2 年生、言語聴覚学科は 1 年生の退学者が目立ち、3 学科の合計は在校生の 9.5%と過去 5 年間で 2 番目に多い数字となった。一方、休学者は全体の 0.7%（ここ数年の平均は 2～3%）と減少傾向を示した。退学に関しては学科別の特徴を考慮した対策を取ることで数を減らす必要がある。

② 国家試験合格率

言語聴覚学科は今回も好調で、全国平均以上の成績を継続した。一方、理学療法

学科と作業療法学科は全国平均を下回ったが、特に理学療法学科は過去と比較しても低い値となったことから、強い危機感と責任感のもと、次年度に向けた具体的な対策と教員の意識において変革が求められる。

③ 学生募集の強化

学校説明会への来校者数は昨年比 30%増となった。前年は新型コロナウイルスの影響が大きかったこともあるが、今回の数字はコロナ感染前の数字までに回復しており、学生募集活動に関して一定の評価が出来るものとする。一方、受験者数においては 3 学科合計で 2.8%減。入学者数は作業療法学科で定員割れとなったが、理学療法学科は定員より 3 名多い 73 名、2 年連続で定員割れだった言語聴覚学科も 35 名定員を満たす結果を残せた。作業療法学科の募集に関しては、大学を含む全国の養成校が同じ悩みを抱えており、さらなる工夫と努力が必要となる。

④ 就職指導（グループへの就職希望者の増大、グループとの連携強化）

過去最多であった昨年に次ぐ 3 学科合わせて 64 名（卒業生の約 68%）がふれあいグループへの就職を希望（内定）し、結果的に 51 名の国試合格者を就職させることで、グループとの連携に貢献出来た。国試不合格による内定取り消しを減らすことで、さらに貢献度を上げることを目指す。一方、言語聴覚学科のグループ就職率は 30%（昨年比 10%増）まで伸ばせた。次年度以降も更なる取り組みで数を増やしていきたい。

4）湘南医療大学附属下田看護専門学校

① 実習施設との連携

臨地実習指導者会議を活用し、学生のレジネスを共有化し、実習目標の確認・指導要領の確認ができた。同時に、前年度の実習評価から発生した課題への指導方法の確認をすることで、連続性と統一性をもって実習の指導が実施できた。

また、実際の実習においては、学習目標達成に向けた資料提供を通し、学生の学習に寄与し、双方からの確認で、学習状況を把握し、不足事項の指導内容の共有化がはかれた。さらに、学生の健康状態の確認と学習への影響の有無についての情報提供により、適切な指導に結びついたと考える。学生自身にも実習の中で、個人情報保護の意識を持たせ、情報の保全と漏えい防止の指導を実施できた。ただし、数名の学生については、及第点の当落に係る追加の指導や学内学習を、実習施設との連携の上、実施した。

今年度は、コロナ禍に伴う、患者・利用者の健康をおよび学生への感染防止も鑑みて、実習実施のため、各施設との密な連携を図った。

これにより、施設の状況によっては学内実習に切り替えつつ実施し、当校の学生から罹患者を出すことなく実習を終えることができた。

② 国家試験の合格率向上(90%以上)を目指す

目標達成は未達となった。

例年同様に教材の充分な活用と学内模試試験を活用したが、合格に至らない学生が 4 名となった。当校の学生は、計画的な学習が不得意で、短期集中な国試対策に依存する。その結果、年度途中までの模擬試験の結果は点数が乱高下する。

③ 休退学の防止

休退学を未然に防ぎ、全員卒業を目指す。

令和 3 年度の退学者 8 名発生し、目標達成は未達となった。

実習、学習の躓きが主な理由となる。1年入学時から学習に不安のある学生でも、中には途中から学力が向上する学生もいるため、長い目で対応しているが、本人がギブアップしてしまうと退学となる。

実習では、学力よりも「指導をいったん受け入れる」ができない学生が、問題となるし、増加してきている。言い訳を繰り返したり、指示とは違う行動をとったり、指示の意味が理解できないまま勝手な行動をとる学生は、指導されている意味が最後までわからないため、実習の及第点に達することができない。また、後になって意味がわかるという体験でも成長が期待できるが、指導を受け付けない学生には、その機会が発生しない。結局、自分だけが不当な評価を受けていると考えることになる。その負のスパイラルが深くなると、修学意欲が減退し、退学につながる。

④ ふれあいグループへの就職の促進

2021年度は、27名／37名（73%）がふれあいグループへの入職となった。ふれあいグループへの就職率80%も未達となった。

⑤ 医療人としての道徳、マナー教育の充実

医療人としての社会常識を身に付け、モラルの高い人材となるよう指導した。日常生活の中であいさつや整容の徹底については、今後も指導を重ねていく。（各行事等外来者対応時、実習施設）

⑥ 研究活動の実施

全体研修会において、課題への取り組み状況や解決方法を発表するべく、学内で研究と分析を行った。その中で、より良い教育の一助となるような提案を行えた。

5) 医療ビジネス観光福祉専門学校

① ふれあいグループに有益な人材の供給

すべての学科からグループへ人材を供給することができた。留学生クラスを除く65名のうち23名がグループに入職しており、就職希望者に対して35.4%に達した。

2021年度 ふれあいグループへの就職

介護福祉学科	25名中	17名
医療ビジネス学科 医療経営専攻	4名中	11名
医療情報管理	10名中	1名
観光学科 ホテル・ブライダル専攻	15名中	1名

介護福祉学科では介護福祉士として17名、医療ビジネス学科では5名（医事課3名、総務課1名、介護福祉士1名）、観光学科から1名（介護職）合計23名の学生がふれあいグループ入職を果たした。

次年度も引き続き、各学科とも以下の通りグループへの人材供給を目指す。介護福祉学科では技術力と実践力を現場実習で磨き、患者・利用者に信頼される介護福祉士の養成を目指す。医療ビジネス学科では必備資格と検定の保有数を増やし、即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。観光学科では福祉科目の充実を図り、グループの関連企業に応えられる人材の育成を目指す。

② 休学者・退学者の撲滅

休退学者を出さないために入学前から卒業まで「進学相談」「生活指導」「学習指導」「キャリア指導」を継続的かつタイムリーに実施したが、撲滅には至らなかった。

2021 年度 休退学者

2 年生 年度当初 101 名 退学除籍 15 名(うち留学生 14 名)退学除籍率 14.9%
1 年生 年度当初 81 名 退学除籍 32 名(うち留学生 22 名)退学除籍率 39.5%
全退学除籍者(1,2 年合計)47 名のうち留学生の退学除籍者が 36 名に上る(77%)
ことから、次年度は留学生に対して徹底した対策を実施する。

③ 魅力ある学校づくり～国家試験、民間資格取得に向けた取り組み

2020 年度から引き続き、合格率向上を目標として、ゼミ授業や検定対策及び日々の補習授業や資格直前対策期間を設け、集中的に授業を実施した。その結果、各学科・専攻の一人あたりの平均資格取得数と介護福祉試験結果は以下の通りとなった。

学科別平均資格取得数

医療ビジネス学科

医療経営専攻 2 年 11.8 個 (前年 10.8 個) / 1 年 4.9 個 (前年 5.5 個)

医療情報管理専攻 2 年 5.2 個 (前年 3.6 個) / 1 年 4.8 個 (前年 3.2 個)

観光学科

トラベル/交通専攻 2 年 7.4 個 (前年 7.1 個) / 1 年 5.5 個 (前年 5.9 個)

ホテル/ブライダル専攻 2 年 10.2 個 (前年 11.6 個)

国際総合専攻 2 年 日本語能力試験 N3 取得者 45.0% (前年 66.7%)

日本語能力試験 N2 取得者 45.0% (前年 25.0%)

介護福祉学科

介護福祉士試験 (国) 25 名中 7 名合格 (合格率 28.0%)

(うち日本人 6 名中 5 名合格、留学生 19 名合格者 2 名)

医療ビジネス学科では、診療報酬請求事務能力認定試験の合格者はでなかったが、薬学検定 1 級の合格者が初めて出た。観光学科ホテル・ブライダル専攻では一人当たりの取得資格数が、11.8 個 (昨年 11.6 個) と微増した。介護福祉学科では、国家試験の結果は別として、25 名全員が介護福祉士としての登録が完了した。

④ 実習施設との連携

広報活動における施設見学は、進路を決める高校生にとってのイメージアップと将来像につながる好企画であるため、継続して実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で施設見学を実施することはできなかった。ただし、介護福祉学科の施設実習、医療ビジネス学科の病院実習では、多くの施設と連携を取ることができ、それがグループ施設への入職にも結び付いたと思料される。

介護福祉学科 連携施設 14 施設

特別養護老人ホーム ふれあいの森、ふれあいの麗寿、ふれあいの泉 (3 施設)

介護老人保健施設 ヒルズ東戸塚、ふれあいの桜、ふれあいの町田、湘南シルバーガーデン (4 施設)

訪問介護 ふれあい横浜 HP、ケアセンター茅ヶ崎元町 (2 施設)

通所リハビリ ふれあいの桜、ふれあいの渚 (2 施設)

通所介護 ふれあいの泉、ふれあいの森、ケアセンター茅ヶ崎元町 (3 施設)

医療ビジネス学科 連携施設 12 施設

湘南東部総合病院、茅ヶ崎中央病院、ふれあい東戸塚ホスピタル、ふれあい横浜ホスピタル、ふれあい鶴見ホスピタル、ふれあい平塚ホスピタル、ふれあい鎌倉ホスピタル、さがみ野中央病院、ふれあい町田ホスピタル、湘南さくら病院、康心会汐見台

病院、大和成和病院

⑤ カリキュラム再編と指導力向上

全員就職を目標に、エンプロイアビリティを学生に身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業～就職活動～卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。

・自立した社会人に必要とされる専門スキルと社会人基礎力向上を図り、グループ理念の実践者になるための教育指導を展開した。

・学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、個別にキャリアカウンセリングを行った上で、就職に活かせる専門技術を身につけさせた。

・医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身につけるためのカリキュラムと指導を展開し、資格取得対策に力を注いだ。

・グループ施設と連携を取り、カリキュラム再編の参考とした。また、指導内容に反映させた。

・技術及び能力の顕在化を図った（資格取得、就職先内定など）。

上記 5 項目を学生が実感できる力を養うべく、各種行事や授業などを実践的に取組んだ。その結果として、コロナ禍にもかかわらず、全学科（日本人）の就職率は就職希望者 46 名に対し、内定者 40 名で 87.0%（2020 年度 97.8%、2019 年度 95.1%、2018 年度 96.1%）となった。

6) 幼保連携型認定こども園みどり幼稚園

○健康

（健康で安全な生活を作り出す視点から捉え、いろいろな状況に思い巡らせ心や体を働かせる）の目標は達成した。いろいろな遊びを行い、十分に体を動かす。

身の回りを清潔にして衣類の着脱、食事、排泄など、生活に必要なことを年齢や成長に合わせて自分で行う。

食育を考え、食育活動を行い、保育者やともだちと一緒に食べることを楽しむ。健康である為には栄養・睡眠・運動のバランスが取れた生活が続けることが大切である。体育講師による運動全般の指導を受ける。年齢に合わせた活動を次に繋げることも今後の課題である。

○人間関係

（自立心を育て、人と関わる視点から捉え、他の人々と親しみ思いを巡らせ支えあって生活する）年齢に合わせた取り組みを行った。自分で出来ることは自分です。自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見だし、工夫や協力をするなど経験、体験を通して養っていった。

○環境

（周囲の環境に好奇心や探究心を持って関わり、生活に取り入れていこうとする視点から捉え、考えたり扱ったりする）身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。身近な物を大切にする。

自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。など毎日の保育活動で保育者や友だちの影響を受けて習得することができた。

○言葉

（言葉に対する感覚や言葉で表現する視点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現する）保育者やともだちの言葉、話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。生活の中で必要な言葉が分かり、使うことができる。親しみを持って日常の挨拶をする。絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。などは日々の園生活の中で培われていった。今後も年齢にあった関わりを行っていく。

○表現

（豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする視点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現する）生活の中で様々な音・色・形・手触り・動きなどを感じて楽しむ。いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。歌を歌う、簡単なリズム楽器を使うなど楽しさを味わう。描いたり作ることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする。発表会、作品展などを通して、成果を見ることが出来た。一人ひとりの個性が発揮できて成長を感じた。

（乳児）

・乳児一人ひとりの発育及び発達の状態や健康状態について適切に判断し対応した。保護者と連絡帳や保育活動の状況を伝え、安心して園生活が送れるよう配慮した。基本的生活習慣の自立を目指し、毎日取り組んだ。一人ひとりの能力にあわせて目標達成に繋げた。安全で安心して様々な遊びができるよう配慮し、活動しやすい環境を整えてきた。

（幼児）

・コロナ禍で合同保育や異年齢の交流など、学年を超えた保育に取り組むことが出来なかった。当番活動を通して、責任をもって行う、協力する、手伝うなど経験する。外遊びや運動を多く取り入れ、健康でのびのびとした活動を行っていく。一日の保育活動の中に絵本読み聞かせを取り入れる。誕生児を祝い、成長を共に喜ぶ。（月一回の誕生会を開催する）などは工夫して行うことができた。

（教職員）

・湘南医療大学の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てた。コロナ禍により短時間での対応となった。教職員・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努めた。園内の整理・整頓・清潔・清掃を心がける。特に新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し手洗い、うがい、手指消毒を励行し、習慣づけた。2ヶ月に一回、避難訓練を行う（地震・不審者・火災など）非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合い、研修などで確認した。ふれあい全体研修会保育部会に参加、専門的知識のスキルアップ、乳幼児の健康管理の対応など再確認、知識を深めた。

IV. 大学部会、教育部会、保育部会 2021年度 研修会プログラム

【大学部会】

月	内容	発表者
4.5月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝
	新任教員及びその他の教員に対する教育方法 ①大学の理念・目的、教育と研究のありかた ー教育理念と3つのポリシー、研究の実態と科研費の採択状況ー ②「各学科の教育方法と学生支援」 ・各学科の学生が、授業のための事前の準備、事後の展開など主体的に学ぶために必要な教員の取り組み ・教員個人の教育活動履歴（ティーチングポートフォリオ）の作成 ・オフィスアワーの活用 ③2021年度看護キャリア開発コアセンターの活動 ④5つの活動の実践 ・PDC活動、業務改善、全体研修会、朝礼の五訓、6S活動 ⑤新任教員の教育・研究紹介	寺本 川本、鶴見、鈴木 川本 前川 川本、鶴見、鈴木
	「就職支援」 就職状況と今年度の対策について ・就職指導ガイダンスの徹底 ・インターンシップの充実 ・グループ病院・先輩との連携 「休退学者を減少させるための学生指導教育」（WG） ①わかりやすい授業方法（工夫と事例） ②成績不良者への個別の指導方法 ③学生相談と学習支援 「国家試験結果と今年度の対策について」（WG） ①学年別の国家試験対策 ②不得意科目、躓きやすい科目への対応 ③模擬試験後の分析とその後の学生指導	川本、鶴見、鈴木 塩田 鶴見 片山、大森、光金、定本 鈴木 小林、大澤、坂上、三川、石橋
	「薬学部、保健医療学部入学定員を必ず充足するための学生募集」 ①2020年度の募集活動分析 ②2021年度の募集活動方針 ③オープンキャンパスの内容 ④その他、募集のための公開講座、体験授業などの企画	前川
6月	2021年度専門部会別研修会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）	
7.8月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝

月	内 容		発 表 者
7.8 月	F	3つのポリシーの理解 ア【3つのポリシーその意義の理解と伝え方】 イ チーム医療論に関して	山勢、鶴見 寺本、櫻井
	D 研 修	湘南医療大学の学修の質保証の向上に関する取り組み（授業方法の改善）学修の質保証の向上に関する取り組み「授業方法の改善」 【わかりやすい授業への取り組み】国家試験結果の分析から見た授業方法の改善 【指導と評価の一体】休退学者を減少させるため学生指導	小林、柴田、増田 高畠、久保田、石橋
7.8 月 （続 き）	S D 研 修	【ウェブサイトを生かした募集活動】コロナ禍における、入学定員確保に向けた学生募集	藤井
		認証評価実地調査に向けて	前川
9.10 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 英志枝
	F D 研 修	アセスメントポリシーの策定 研究活動における不正行為の防止について 2021年度 チーム医療論	佐野 寺本 寺本
	S D 研 修	【IR部門の強化】 学生募集、学生サービスの改善に取り組むため情報	前川
	学修の質保証の向上に関する取り組み「授業方法の改善」 【わかりやすい授業への取り組み】成績不良の学生への授業方法の改善		片山
	【コロナ禍における学生指導・授業の工夫】オンラインやオンデマンドの授業効果の検証		大森
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 英志枝
	①2021年度 「チーム医療論」 演習のありかたーDPとCPの連動の評価ー ②中長期計画 第一期事業計画期間 2019-2022年度「教育・研究活動」 ③6S活動 大学教職員が実践する活動(5つの活動) 職員手帳P8-21 ④国家試験対策①4年生の国家試験対策状況報告と3か月前の指導		櫻井 小林 前川 大澤、中村、鈴木
	F D 研 修	①臨床実習指導方法に関する研修 臨床実習の指導 ①臨床実習の事前事後学修指導（工夫と事例）：看護 ②実習病院との連携内容：PT ②初年次教育（学修の仕方、情報教育、倫理教育） ①薬学部 初年次教育の特徴 ②OT専攻 初年次教育の特徴 ③授業科目PDC,ポートフォリオの作成 ◎前期授業科目PDCの作成の注意事項 ◎ティーチングポートフォリオ作成について ・授業目標（P）の設定、授業方法（D）、分析と検証（C）⇒次の目標 ・授業評価アンケートを活かした改善 ・実際の作成 GW	菊池、櫻井 中楯、増田 鶴見

	内容	発表者
	① 部門PDCの作成 総務・教務・学生支援・学生募集のPDCの作成の注意事項 ・目標（P）の設定、行動5W2H（D）、分析と検証（C）⇒次の目標 ・数字の結果から改善 ・実際の作成 GW ② 学生募集:入学定員を必ず充足するための入試・学生募集（途中報告） ① 2021年度前半の募集活動分析（ガイダンス・OP） ② 2021年度後半の募集・入試活動方針、新しい取組 ③ 初年次の学生サービス（学生対応・教員との連携） ① 教務担当初年次の学生サービス ② 学生支援担当:初年次の学生サービス	前川 藤井 江 蔵
2 月	第 18 回ふれあいグループ医療教育研究会（新型コロナウイルス感染拡大のため集合研修中止）	
3 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝
月	内容	発表者
	① 自己点検評価 認証評価報告 ・2021 年受審した「大学認証評価」の結果報告（評価点と改善点）	前川
	② 国家試験対策 1 年間の指導内容の報告と反省（次年度に向けて）	大澤、坂上、鶴見
	③ 学生募集活動 2021年学生募集活動報告(1年間の活動内容の報告と反省点（次年度に向けて）) ・出願、合格者状況・オープンキャンパス開催状況 ・会場並びに高校ガイダンスの状況 ・パンフレット、大学ホームページの閲覧状況 ・高校訪問等	藤井
	④ 教員と臨床現場との連携:実習指導における臨床現場との連携活動について	石橋、須鎌、佐野
	⑤ 授業参観：教員相互の授業参観と評価	鈴木、中尾
	⑥ カリキュラムの再検討：学生サービス向上に向けた支援体制 今年度、授業や演習を終えて 「授業内容、順序性、各授業の関連性など」を踏まえて 教育、学生サービスの改善ために何が必要を考える	岡、草野、石橋
	⑦ 地域貢献活動 ① 2021年公開講座実施状況 ② 高大連携(横浜氷取沢高校連携授業) について	前川、田邊

【教育部会】

	内容	発表者
4.5 月	ふれあいグループが目指すもの	大屋敷 芙志枝

	看護校	事業計画について前年度の反省と師年度の課題について 本年度の学生募集活動計画について 昨年度の反省及び今年度の計画（国家試験対策） 看護技術習得に向けての現状と課題	山田 町田 内田、紺谷、内記 監物
	内容		発表者
	リハ校	全職員参加の5つの活動 事業計画について昨年度の反省と新年度の課題 本年度の学生募集活動について 国家試験対策－昨年度の反省及び今年度の計画－ 模擬授業「授業に対するこれまでの取組み」「運動学」	古谷 藤田 久保田 岡崎、神保、岩淵 山崎、神保
	下田校	全職員参加の5つの活動について 事業計画について前年度の反省と新年度の課題について 本年度の学生募集活動計画について 国家試験対策－昨年度の反省及び今年度の計画－ 模擬授業の実施 基礎看護学「ヘルスアセスメント」	柳 柳 江口 柳 吉水
	医ビ校	全職員参加の5つの活動 学則の確認 2022年度生募集に向けての広報戦略～2021年度の反省と改善 ポイント～ 感染症対策の再確認 学習指導における困難な問題とその対策	加藤 坂田 今村、柴田 本間 佐原、小堀
6月	2021年度専門部会別研修会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）		
7.8月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝
	看護校	全職員参加の5つの活動、自己点検評価と今年度の課題 ふれあい奨学金・各種給付金受給について 模擬授業「在宅看護論」	山田 山田、町田 川北
	リハ校	全職員参加の5つの活動、自己点検評価と今年度の課題 ふれあい奨学金・各種給付金受給について 模擬授業「福祉援助技術の方法」	古谷 藤原 扇谷
	下田校	全職員参加の5つの活動について 昨年度の自己点検評価と今年度の課題について ふれあい奨学金・各種給付金受給について 模擬授業「成人看護学」	柳 柳 小島 進士
	医ビ校	全職員参加の5つの活動、自己点検評価と今年度の課題 ふれあい奨学金・各種給付金受給について 模擬授業 「異文化交流」日本人学生と留学生の協働的な学び	加藤 今村 小堀、川村
	① コロナ対策 ② SNS を活用した学生募集活動について		増田 柴田
	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 芙志枝

9.10 月	看護校	災害防止対策及び事業継続計画について 教職員一丸となって実施する学生募集 カリキュラム改正に向けての各領域別確認	山田 町田 相川
	リハ校	全職員参加の 5 つの活動 災害防止対策及び事業継続計画について AO 入試の反省と今後の課題－教職員一丸となって実施する学生募集－	藤田 藤田 久保田
	下田校	全職員参加の 5 つの活動について 教職員一丸となって実施する学生募集について 模擬授業「小児看護学」	柳 江口 竹村
	医ピ校	全職員参加の 5 つの活動 災害防止策及び事業継続計画について 教職員一丸となって実施する学生募集について 模擬授業「わかりやすい授業の取り組み事例」	加藤 坂田 今村、柴田 福島
	休退学について リモート（manaba）について		神保 柳
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 英志枝
	看護校	全職員参加の 5 S 活動 ふれあいグループへの就職活動 国家試験対策の実施状況と課題（試験対策） わかりやすい授業の取り組み 模擬授業 「母性看護学」	山田 山田 紺谷 坂本 内田
	リハ校	全職員参加の 5 つの活動 ふれあいグループへの就職指導 国家試験対策の実施状況と課題 わかりやすい授業の取組事例 模擬授業「脳画像の見方－国家試験対策－」、「生理学補習」	古谷 高橋、岩淵 櫻井、村仲、岩淵 山崎、神保 米本、山根
	内容		発表
	下田校	ふれあいグループへの就職指導について 国家試験対策、国家試験対策の実施状況と課題 授業デザインわかりやすい授業の取り組み事例 模擬授業「在宅看護論」	柳 竹村 高橋 吉水
	医ピ校	全職員参加の 5 つの活動 ふれあいグループへの就職指導 国家試験等対策の実施状況と課題（試験対策） 模擬授業 「理解度に応じたアンブラグド教材および比喻表現の活用による情報処理基礎教育の試み」（授業デザイン） 模擬授業「ホテル・プライダル総論 2」（プロトコールマナー検定対策）	加藤 坂田 福島 杉山、遠藤 川脇
2 月	第 18 回ふれあいグループ医療教育研究会（新型コロナウイルス感染拡大のため集合研修中止）		
1.3 月	ふれあいグループが目指すもの		大屋敷 英志枝

看護校	今、教職員が力を入れなくてはならないこと 今年度の学生募集活動の反省と課題 補講や確認テストの実施状況（退学防止対策） 模擬授業「成人看護学－成人看護学実習Ⅰに向けての学生支援－」	秋田 町田 監物 坂本
リハ校	今、教職員が力を入れなくてはならないこと 今年度の学生募集活動の反省と課題 補講や確認テストの実施状況（退学防止対策） 模擬授業「評価学Ⅰ」「実習前教育」	古谷 久保田 松井、杉山 清川、杉山
下田校	教職員の連携について ～連携の強化に向けて～ 今年度の学生募集活動の反省と課題 退学防止対策、補講や確認テストの実施状況 模擬授業「精神看護学」	小野川 江口 竹村 高橋
医ビ校	全職員参加の５つの活動 個人 PDC について 今年度の学生募集活動の反省と課題 補講や確認テストの実施状況（退学防止策） 模擬授業「介護の基本」	加藤 坂田 柴田 本間 上條

【保育部会】

	内容	発表者
4.5 月	ふれあいグループが目指すもの 乳幼児突然死症候群への対応策 保育所における感染症対策改訂のポイント 環境整備と衛生管理 保育所における感染症拡大防止策 食物アレルギー対応 食育計画の検証 園児対応について 保護者対応について 年間行事計画の検証 P D C 作成について 6 S 活動について	大屋敷 英志枝 } DVD 教職員 担任 教職員 教職員 教職員 教職員
6 月	2021 年度専門部会別研修会（（新型コロナウイルス感染拡大のため中止））	
7.8 月	ふれあいグループが目指すもの アナフィラキシー対策とエピペンの扱い 食物アレルギー事故事例 アレルギー症状への対応手順 食物アレルギーの診断と検査 治療と対応 エピペンの実習 環境が育む健やかなこどもの育ち こども園の一日 異年齢による育み 遊びを豊かにする環境構成	大屋敷 英志枝 } DVD }

	「食」を通した育ち 学びの芽 多様な経験を通して 保護者支援・地域の子育て支援 保育者の連携と学び	} DVD
9.10 月	ふれあいグループが目指すもの 危機管理マニュアルの検証 保育園・こども園感染予防対策 生命・いのちの安全教育 乳幼児突然死症候群への対応策と子育て環境 保育所における感染症対策 改訂のポイント 環境整備と衛生管理 創る・織りなす保育（0・1・2歳児）保育室で 創る・織りなす保育（3・4・5歳児）保育室で 園庭での学び 園外での学び 保育者の学び	大屋敷 英志枝 } DVD
11.12 月	ふれあいグループが目指すもの 乳幼児突然死症候群への対応策 保育所における感染症対策ガイドライン 環境整備と衛生管理 感染拡大防止策 食物アレルギー対応策 子どもと共に考えていくこと、ドキュメンテーション利用の可能性について学ぶ 共生社会の担い手を育む保育を目指してインクルーシブ教育について 幼児期だからこそそのばしたい生きる力 保育の振り返り（園児の関わり方を考える） 6S活動	大屋敷 英志枝 } DVD 教職員 教職員 教職員 教職員
2 月	第18回ふれあいグループ医療教育研究会（新型コロナウイルス感染拡大のため集合研修中止）	
1.3 月	ふれあいグループが目指すもの 乳児と小児に対する一次救命処置 一次救命の大切さ、乳児に対する心肺蘇生法（実際編・解説編） 小児に対する心肺蘇生法（実際編・解説編） 子どものAEDの使い方 気道異物の除去法 気道異物の除去法（1歳未満の乳児の場合）（1歳から8歳の小児の場合） アレルギー疾患の対応について 1、エピペンの正しい使い方 2、救急要請のポイント（事例から考える） アレルギー疾患の対応の基本的な考え方 食物アレルギーに関する基礎知識 緊急時の対応 事業計画の確認・検証 業務改善計画	大屋敷 英志枝 } DVD 教職員 教職員

V 地域連携・交流活動

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった催しがいくつか発生した。

2021（令和3）年度地域連携活動実施状況は以下のとおり。

1. 市民公開講座

	公開日	担当学科専攻	テーマ	演題	担当者	参加者数
第1回	6月19日	副学長	一般市民向け	「コロナ禍の嗅覚・味覚障害」	喜多村健副学長	8
		医療薬学科		増加し続ける薬物乱用問題 ～あなたとあなたの周りの社会を壊します～	鈴木勉学部長	6
第2回	7月24日	看護学科	一般市民向け	市民向けの救命講習	望月聡一郎教授	0
		作業療法学専攻		脳卒中片麻痺のリハビリについて	田邊浩文教授	5
		医療薬学科		病気とくすりタンパク質のお話	石田洋一教授	4
第3回	8月28日	医療薬学科	一般市民向け	知って得する薬の知識	加藤裕久教授	6
第4回	10月30日	作業担当	一般市民向け	日々の生活で行う健康向上の作業療法	生田宗博専攻長	4
		医療薬学科		痛みと鎮痛：古くて新しいアスピリン	東山公男教授	12
第5回	11月20日・30日	医療薬学科	大学祭	がんの痛みはがまんしないで！	加賀谷肇教授	4
		理学療法学専攻		『パーキンソン病で体が動かなくなるの？』	長澤弘教授	5
第6回	3月26日	副学長	一般市民向け	100歳まで脳を元気に	寺本明副学長	22
		理学療法学専攻		「健康づくりと災害対策～災害が起きる前からできること～」	下田栄次講師	5
		医療薬学科		タンパク質のかたちと病気・薬の関係	加藤紘一講師	11

2. 地域連携活動

日程	イベント名	対象	演題・実施内容	担当者	参加者
8月16日～ 9月15日	とつかおやこフェスタ	一般市民向け	大学パネル参加	—	—
8月28日			身近に潜むウイルス対策（子どものウイルス感染）	土師しのぶ准教授	14
	ヨコハマ大学まつり		イベントは中止	—	—
10月22日			区役所内パネル展示参加	—	—
7月1日～	生涯学習フェア		大学紹介ページの掲載	—	—

VI 湘南医療大学 研究業績

(1) 著書

書名	発行所	発行月	著者
がんナーシング:高齢がん患者の増加と高齢がん患者の意思決定支援体制付属の背景について	MC メディカ出版:がんナーシング	(執筆担当)5、11(4)2021 (編集担当)441、11(4)2021	渡邊眞理、小川朝生
エッセンシャル看護情報学 2022 年版(担当分改訂)	医歯薬出版社	2022 年 1 月	太田勝正、前田樹海、望月聡一郎他
ADL 評価の実際―BI と FIM を中心に	医学書院	2021 年 12 月	大森圭貢
高齢者理学療法学テキスト(改訂第 2 版)	南江堂	2021 年 12 月	細田多穂ほか、分担執筆
標準理学療法学「日常生活活動学・生活環境学第 6 版」 生活環境学の概念	医学書院	2021.12.1	鶴見隆正
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第 6 版 日常生活活動学 II 各論― ADL 指導の実際 3 脳性麻痺	医学書院	2021.12.1	隆島研吾、佐山佐一、林克郎、辻下守弘、田口孝行、小嶋裕、岡崎大資、松葉貴司、甲田宗嗣、川井信夫、坂上昇、島津尚子、西田裕介、他 17 名
標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学(第 6 版)、第 6 章、p. 354-359.	医学書院	11 月、2021 年	下田栄次(分担)
DM Ensemble vol.10-No.3,p. 21-23. 災害時における糖尿病患者さんへのリハビリテーション支援	日経メディカル	11 月、2021 年	下田栄次(分担)
更生保護入門(第 6 版改定) 心神喪失者等医療観察制度の概要	成文堂	2022 年 3 月 242-259 共著	鶴見隆彦
今日の治療薬 2021	南江堂	2021 年2月	浦部昌夫、島田和幸、川合眞一、伊豆津宏二編集、分担執筆 加藤裕久
現場で役に立つ！ 臨床医薬品化学	化学同人	2021 年 4 月	穴田仁洋、石井伊都子、今川洋、大高章、大和田智彦、片川和明、斎藤直樹、周東智、杉原多公通、高橋秀依、田村修、夏莉英昭、林良雄、張功幸、広川美視、廣谷功、福山愛保、前崎直容、宮田興子、柳田玲子、山口泰史、吉田昌裕

(2) 学術論文 (原著)

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Molecular, functional, and histopathological	Brain Tumor Pathology	38:183-188,2021	Inomoto C, Tahara S, Oyama K, Kimura M,

classification of the pituitary neuroendocrine neoplasms			Matsuno A, Teramoto A, Osamura RY
システマティックレビューに基づいた新人看護職のメンタルヘルスに係るメンタルヘルス支援プログラムの開発	インターナショナル Nursing Care Research 21 (1)	令和4年(2022)年4月	片山 典子 川本 利恵子 渡部 李菜 陶山 克洋 大胡 晴香
助産師の専門的自律性測定尺の開発と信頼性・妥当性の検討	母性衛生	第62巻1号 令和3年4月	加藤尚美・猿田了子・渡邊美奈子・渡邊香・柳生文宏
『Sleep-wake rhythm and its association with lifestyle, health-related quality of life and academic performance among Japanese nursing students: a cross-sectional study』	BMC Public Health (2021) 20:225	令和3年11月	Momoko Kayaba, Toshiko Matsushita, <u>Noriko Katayama</u> , Yuichi Inoue, Taeko Sasai-Sakuma
『システマティックレビューに基づいた新人看護職のメンタルヘルス支援プログラムの開発』	インターナショナル Nursing Care Research 第20巻1号 (P141-151)	令和4年3月	片山典子、川本利恵子、渡部李菜、陶山克洋、大胡晴香
思春期における社会的ひきこもり傾向とインターネット依存の関連	日本アディクション看護学会 学会誌	2022.3(査読終了)・記載時期未定	玉田聡史・片山典子
民間薬物依存症回復施設ダルクにおけるスタッフが捉える発達障害様の特性を有する利用者の現状	アディクション看護 第19巻1号(P61-73)	2022年3月	渡部李菜、松下年子
システマティックレビューに基づいた新人看護職のメンタルヘルス支援プログラムの開発	インターナショナル Nursing Care Research 第20巻1号 (P141-151)	2022年3月	片山典子、川本利恵子、渡部李菜、陶山克洋、大胡晴香
高齢内科疾患患者における日常生活活動能力が自宅退院の可否へ与える影響	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	59:209-216, 2022	小松拓磨、小山真吾、堅田紘頌、 <u>大森圭貢</u> 、ほか
脳卒中患者の ADL 回復に関連する栄養指標の文献検証	理学療法: 技術と研究	50:77-84, 2022	最上谷 拓磨, <u>大森 圭貢</u> , 松嶋 真哉
脳卒中患者の身体活動に関する研究の動向	理学療法: 技術と研究	50:39-52, 2022	清野 由也, <u>大森 圭貢</u> , 城所 亮多, 長澤 弘
脳卒中患者の身体活動に関する研究の動向	理学療法 技術と研究	2022年3月	清野由也, 大森圭貢, 城所亮多, 長澤 弘
活動・参加を促進する訪問作業療法の実践知	作業療法	2021年8月	岩田祐美、 <u>田島明子</u>
「障害の社会モデル」の視座から捉えた ICF の課題と作業療法における社会参加の支援についての一考察	作業療法の実践と科学	2022年2月	池田保、 <u>田島明子</u>
Investigating the Link between Irregular Muscle Tension and Bodily Fatigue among High-Speed String Instrument Musicians 高速弦楽器奏者の異常筋緊張と身体疲労	AMERICAN JOURNAL OF RESEARCH IN MEDICAL SCIENCES(5)1:1-4	2021年5月	Hiroshi T, <u>Hirofumi T</u> , Toshimasa M, Yuichi T.

との関連の調査(査読付)			
Relationship between MP Joint Angle and Muscle Activity in Training with a Finger Extensor Facilitation Training Device "iPARKO" 指伸筋促進トレーニング装置「iPARKO」を用いたトレーニングにおけるMP関節角度と筋活動の関係 (査読付)	Japan-Poland International Workshop on Technologies Supporting Rehabilitation and Medical Services, pp.16-17	2021 年 10 月	Shota I, Ai N, Yoshifumi M, <u>Hirofumi T</u> ,
Finger Extensor Facilitation Training Device "iPARKO": Analysis of increased muscle activity in a hemiplegic person 指伸筋促進トレーニング装置「iPARKO」: 片麻痺者の筋活動の増加の分析(査読付)	International Conference on Control, Automation and Systems (ICCAS):2-5 pages	2021 年 10 月	Ai N, Zhou P, Yoshifumi M, <u>Hirofumi T</u> ,
Normalized hand-behind-back for the measurement of shoulder internal rotation	JSES Int. 2022 Jan 10;6(2):287-291. doi: 10.1016/j.jseint.2021.12.001.		Mitsukane M, Suzuki K, Tabe R, Hasumi F, Fukushima D.
Study on information patients with vision impairment receive from ophthalmologists in Japan	British Journal of Visual Impairment	Online 2021 年 8 月	Risa Nara Yukie Sato <u>Yusuke Masuda</u> Masamitsu Misono Koichi Tanida
国家試験合格率向上を目指した視聴覚学習支援システム構築に向けた取り組み	瀧リハビリテーション大学紀要	10(1):23-32 2021 年 12 月	知名規人, 長谷川裕, 藤本聡, 木村和樹, 星野浩通, 若菜翔哉, 澁井実, <u>増田雄亮</u>
通所リハビリテーションにおける要支援者を対象とした脳卒中後上肢機能の改善群と維持群の特徴	作業療法ジャーナル	56(2):182-185 2022 年 2 月	沢田宏美, <u>増田雄亮</u> , 補永薫, 近藤国嗣
Enhancement of the rewarding effect of 3,4-methylenedioxymethamphetamine in orexin knock-out mice	Brain Res Behav	2021 Jan 1;396:112802.doi:10.1016/j.bbr.2020.112802	Mori T, Uzawa N, Masukawa D, Herayama S, Iwase Y, Hokazono M, Udagawa Y, and Suzuki T
Involvement of the peripheral μ -opioid receptors in tramadol-induced constipation in rodents	Biol Pharm Bull	44:1746-1751(2021)	Yasufuku K, Koike K, Kobayashi M, Chiba H, Kitaura M, Takenouchi S, Hasegawa M, Morioka Y, Mishima H, <u>Suzuki T</u> and Fujita M
「助産師の直観的洞察尺度」の開発と信頼性および妥当性	日本助産学会誌	査読中	上野典子, 島田啓子, 鶴見薫
母親の育児エネルギーと専門家のケアおよび家族の支援の関連探索研究一, J.P.の育児エネルギーの概念図から—	日本助産学会誌	査読中	丹治彩, 島田啓子, 鶴見薫
在宅移行期にあるがん患者の看取りケアに関わる多職種チームの複雑さの要因	コミュニティソーシャルワーク	27.76—85, 2021	<u>本田芳香</u>

Preparation, crystallization, and X-ray analysis of archaeal oligopeptide permease A	Crystallography Reports	66:1298-1303, 2021	Yokoyama H, Kamei N, Konishi K, Hara K, Ishikawa Y, Matsui I, Forterre P, Hashimoto H
Deciphering Structural Alterations Associated with Activity Reductions of Genetic Polymorphisms in Cytochrome P450 2A6 Using Molecular Dynamics Simulations	International Journal of Molecular Sciences	22:10119, 2021	Kato K, Nakayoshi T, Nokura R, Hosono H, Hiratsuka M, Ishikawa Y, Kurimoto E, Oda A
Computational analysis of the mechanism of nonenzymatic peptide bond cleavage at the C-terminal side of an asparagine residue	ACS Omega	6:30078-30084, 2021	Kato K, Nakayoshi T, Ishikawa Y, Kurimoto E, Oda A
Acceleration of nonenzymatic glutamine deamidation by a C-terminal adjacent glycine residue: A computational mechanistic study	AppliedChem	1:142-155, 2021	Asai H, Kato K, Nakayoshi T, Ishikawa Y, Kurimoto E, Oda A, Fukuishi N
High concentration of oxaliplatin may be a risk factor for vascular pain.	J Clin Pharm Ther	2021 Nov 7, 1-7	Matsunuma S, Handa S, Yamamoto H, Okuyama K, Yoshimoto K, Kato Y
Design and synthesis of novel estrogen receptor antagonists with acetal containing biphenylmethane skeleton	Results in Chemistry	3, 2021	Yuyama M, Misawa T, Demizu Y, Kanaya T, Kurihara M
Synthesis and characterization of PNA oligomers containing preQ1 as a positively charged guanine analogue	Bioorg Med Chem Lett	2021, 39	Moriya S, Shibasaki H, Kohara M, Kuwata K, Inamura, Y, Demizu Y, Kurihara M, Kittaka A, Sugiyama T
医薬品等の開発における人間工学	人間工学	vol57.No4 225-226 2021	定本清美、久保田清、村田実希郎、嶋田守男
Factors Affecting the Usability of Nasal Drug Delivery Devices in Children	American Journal of Biomedical Science & Research	35-44 February 17,2021	Mikio Murata, Mayumi Muta, Chiori Murakami, Akio Nanba, Kiyoshi Kubota, Masahiro Hayashi, Kiyomi Sadamoto and Masahiro Sumi
小児における点鼻薬デバイスの使用性調査—医薬品を正しく使えるという観点を考える—	地域ケアリング	38-40 23,4,2021	村田 実希郎,難波 昭雄,久保田 清,林 正保,定本 清美,鷺見 正宏
小児における点鼻薬デバイスの使用性調査—医薬品を正しく使えるという観点を考える—	アレルギーの臨床	54-56 41(7), 2021	村田 実希郎,難波 昭雄,久保田 清,林 正保,定本 清美,鷺見 正宏
Ergonomic study on the openness of aluminum pouch of PTP(Press Through Package) The23nd International Symposium on Ergonomics Society of Korea and Japan	The Japanese Journal of Ergonomics	2021.12.4 in press	Kiyomi Sadamoto, Hiroyuki Ura, Kiyoshi Kubota

Evaluation of Newly Designed Blister Packs for Easier Handling to Prevent Pill Dropping	Patient preference and adherence	2022 Jan 25;16:179-188	Kiyomi Sadamoto, Mikio Murata, Masahito Hayashi, Hiroyuki Ura, Kiyoshi Kubota
2021 Angiopathy newly identified in the novel schizophrenia model mice generated by sucrose-diet	Science Adv	7, eabl 6077, 2021	Hirai S, Miwa H, Tanaka T, Hino M, Yabe H, Kunii Y, Nakamachi T, Shioda S, Dan T, Miyata T, Toriumi K, Itokawa M, Arai M, Okado H
2021 GPCR-mediated clearance of tau in post-synaptic compartments attenuates tau pathology in vivo	Science Trans Med	13, eaba 7394, 2021	Schalen AW, Runyan AM, Fowler SL, Fignueroa HY, Shioda S, Perez S-M, Duff KE, Myeku N
Molecular mechanism for PACAP38-induces neurite outgrowth in PC12 cells	Neural Plasticity	2021 Aug 7;2021	Shibato J, Takenoya F, Hirabayashi T, Kimura A, Yamashita M, Takasaki I, Rakwal R, Shioda S
Effect of PACAP on sweat secretion by immortalized human sweat gland cells	Peptides	2021 Dec;146:170647	Yamashita M, Takenoya F, Hirabayashi T, Shibato J, Rakwal R, Takasaki I, Harvey BJ, Chiba Y, Shioda S
PKCdelta deficiency inhibits fetal development and is associated with heart elastic fiber hyperplasia and lung inflammation in adult PKCdelta knockout mice	PlosOne	2021 Jul 1;16(7):e0253912	Niino Y, Kawashima I, Iguchi Y, Kanda H, Ogura K, Mita-Yoshida K, Ono T, Yamazaki M, Shimura K, Yogosawa S, Yoshida K, Shioda S, Gotoh T
High concentration of extracellular nucleotides suppresses cell line	Heliyon	2021 Nov 6;7(11):e08318	Sawa C, Yofu S, Kiriya K, Sutoh K, Saito T, Kishi S, Gunji M, Inoue Y, Sugimura M, Shioda S, Honda K
ヒノキ低温真空抽出液の成分分析と抗ストレス・鎮静作用の解析	日本アロマセラピー学会誌	20: 66-74, 2021	平林敬浩、山下道生、山田啓司、木村愛、柴藤享子、竹ノ谷文子、塩田清二
Molecular mechanisms of succinimide formation from aspartic acid residues catalyzed by two water molecules in the aqueous phase	International Journal of Molecular Sciences	22, 509 (2021)	T. Nakayoshi, K. Kato, S. Fukuyoshi, O. Takahashi, E. Kurimoto, A. Oda
Inhibitory effects of sesquiterpene lactones from the Indonesian marine sponge <i>Lamellosidea cf. herbacea</i> on bone morphogenetic protein-induced osteoblastic differentiation	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	35, 127783 (2021)	S. Ohte, H. Yamazaki, O. Takahashi, H. Rotinsulu, D. S. Wewengkang, D. A. Sumilata, D. B. Abdjul, W. Maarisit, M. M. Kapojos, H. Zhang, F. Hayashi, M. Namikoshi, T. Katagiri, H. Tomoda, R. Uchida
Germacrene sesquiterpenes from leaves of <i>Eupatorium chinense</i> inhibit protein tyrosine phosphatase	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	53, 128422 (2021)	H. Yamazaki, H. Tsuge, O. Takahashi, R. Uchida
Further investigation of the rapid-onset and short-duration action of the G protein-biased μ -ligand oliceridine	Biochemical and Biophysical Research Communications	534, 988-994, (2021)	T. Mori; Y. Takemura; T. Arima; Y. Iwasaki; M. Narita; K. Miyano; Y. Hamada; Y. Suda; A. Matsuzawa; K. Sugita; S. Matsumura; S. Sasaki; T. Yamauchi; K. Higashi

			yama; Y. Uezono; M. Yamazaki; N. Kuzumaki and M. Narita
Interactome analysis of the Tudor domain-containing protein SPF30 which associates with the MTR4-exosome RNA-decay machinery under the regulation of AAA-ATPase NVL2	International Journal of Biochemistry and Cell Biology	132, 105919, 2021	Yo-ichi Ishida, Sotaro Miyao, Mitsuaki Saito, Nobuhiro Hiraishi, Masami Nagahama
Accumulation of carbonyl proteins in the brain of mouse model for methylglyoxal detoxification deficits	Antioxidants	10, 574, 2021	Shin Koike, Kazuya Toriumi, Sakura Kasahara, Yosuke Kibune, Yo-ichi Ishida, Takashi Dan, Toshio Miyata, Makoto Arai, Yuki Ogasawara
Total Synthesis of 6-Deoxydihydrokalafungin, a Key Biosynthetic Precursor of Actinorhodin, and Its Epimer	Molecules	2021 年 10 月	Kumamoto, T., Kainuma, M., Takahashi, A., Matsuo, Y., <u>Katakawa, K.</u> , Taguchi, T., Ichinose, K.
Crystal Structure of [1 ¹ ,1 ⁴ ,1 ⁷ ,1 ¹⁰ ,5 ¹ ,5 ⁴ ,5 ⁷ ,5 ¹⁰ -Octaaza-1,5(1,4)-dicyclododecane-3,7(1,3)-dibenzenacyclooctaphane]zinc(II) tetrakis(nitrate), [m,m-bis(Zn ^{II} -cyclen)](NO ₃) ₄	X-ray Structure Analysis Online	2021,37,15-16.	<u>Y. Ichimaru</u> , W. Jin, Y. Yamaguchi, K. Sugiura, M. Imai, H. Kurosaki, H. Fujioka, T. Koike, Y. Hieda, and K. Kato
Aqua(1,4,7,10-tetraazacyclododecane)zinc(II) bis(perchlorate)	IUCrData	2021,6,x210397.	<u>Y. Ichimaru</u> , K. Kato, H. Kurosaki, H. Fujioka, M. Sakai, Y. Yamaguchi, J. Wanchun, K. Sugiura, M. Imai and T. Koike
Efficiency of Lithium Cations in Hydrolysis Reactions of Esters in Aqueous Tetrahydrofuran	Chemical & Pharmaceutical Bulletin	2021,69(6),581-584.	K. Hayashi, <u>Y. Ichimaru</u> , K. Sugiura, A. Maeda, Y. Harada, Y. Kojima, K. Nakayama, and M. Imai
Crystal Structures of Metallo-β-Lactamase (IMP-1) and Its D120E Mutant in Complexes with Citrate and the Inhibitory Effect of the Benzyl Group in Citrate Monobenzyl Ester.	Journal of Medicinal Chemistry	2021,64(14),10019-10026.	Y. Yamaguchi, K. Kato, <u>Y. Ichimaru</u> , W. Jin, M. Sakai, M. Abe, J. Wachino, Y. Arakawa, Y. Miyagi, M. Imai, N. Fukuishi, Y. Yamagata, M. Otsuka, M. Fujita, and H. Kurosaki
Crystal Structure of 2-(1-Benzoylazetidin-3-yl)thio-1,3-thiazoline	X-ray Structure Analysis Online	2021,37,57-58.	K. Sugiura, <u>Y. Ichimaru</u> ,* K. Kato, M. Imai, H. Kurosaki, K. Hayashi

Characterization of the Binding of Adenosine-5'-monophosphate to a μ -Type Alkoxide-Linked Dinuclear Zinc(II) Complex in Crystal and Solution State	Bulletin of the Chemical Society of Japan	2021,94(11),2670-2677.	E. Kinoshita-Kikuta, Y. Ichimaru , Y. Yamano, K. Kato, H. Kurosaki, E. Kinoshita, and T. Koike
Crystal Structure of Bis{1,3-bis[bis(pyridin-2-ylmethyl)amino]propan-2-olato-dizinc(II)} orthophosphate Tris(perchlorate) Octahydrate, [(Phos-tag) ₂ -PO ₄ ³⁻][ClO ₄ ⁻] ₃ ·8H ₂ O	X-ray Structure Analysis Online	2021,37,87-88.	Y. Ichimaru , K. Kato, W. Jin, K. Sugiura, E. Kinoshita-Kikuta, E. Kinoshita, H. Kurosaki, T. Koike
Molecular Mechanisms of Succinimide Formation from Aspartic Acid Residues Catalyzed by Two Water Molecules in the Aqueous Phase.	International journal of molecular sciences	22, 509, 2021	Koichi Kato , Shuichi Fukuyoshi, Ohgi Takahashi, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda
Crystal Structure of [11,14,17,110,51,54,57,510-Octaaza-1,5(1,4)-dicyclododecane-3,7(1,3)-dibenzenacyclooctaphane]zinc(II) tetrakis(nitrate), [m,m-bis (ZnII-cyclen)](NO ₃) ₄	X-ray Structure Analysis Online	37, 15-26, 2021	Yoshimi Ichimaru, Wanchun Jin, Yoshihiro Yamaguchi, Kirara Sugiura, Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki, Haruto Fujioka, Tohru Koike, Yuhzo Hieda, Koichi Kato
Design and synthesis of an anthranil bridged optically active dinuclear iron(II)-ligand and evaluation of DNA-cleaving activity	Bioorganic & medicinal chemistry letters	35, 127782, 2021	Yoshimi Ichimaru, Koichi Kato , Yoshinori Okuno, Yoshihiro Yamaguchi, Wanchun Jin, Mikako Fujita, Masami Otsuka, Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki
DNA-cleavage activity of the iron(II) complex with optically active ligands, meta- and para-xylyl-linked N,N'-dipyridylmethylcyclohexane-1,2-diamine.	Bioorganic & medicinal chemistry letters	36, 127834, 2021	Koichi Kato , Yoshimi Ichimaru, Yoshinori Okuno, Yoshihiro Yamaguchi, Wanchun Jin, Mikako Fujita, Masami Otsuka, Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki
Aqua(1,4,7,10-tetraazacyclododecane)zinc(II) bis(perchlorate)	IUCrData	6, x210397, 2021	Yoshimi Ichimaru, Koichi Kato , Hiromasa Kurosaki, Haruto Fujioka, Misa Sakai, Yoshihiro Yamaguchi, Jin Wanchun, Kirara Sugiura, Masanori Imai, Tohru Koike
Theoretical studies on the effect of isomerized aspartic acid residues on the three-dimensional structures of bovine pancreatic ribonucleases A	Biological & pharmaceutical bulletin	44, 967-975, 2021	Tomoki Nakayoshi, Koichi Kato , Eiji Kurimoto, Akifumi Oda

Crystal Structures of Metallo- β -Lactamase (IMP-1) and Its D120E Mutant in Complexes with Citrate and the Inhibitory Effect of the Benzyl Group in Citrate Monobenzyl Ester.	Journal of Medicinal Chemistry	64, 10019-10026, 2021	Yoshihiro Yamaguchi, <u>Koichi Kato</u> , Yoshimi Ichimaru, Wanchun Jin, Misa Sakai, Miki Abe, Jun-ichi Wachino, Yoshichika Arakawa, Yukina Miyagi, Masanori Imai, Nobuyuki Fukuishi, Yuriko Yamagata, Masami Otsuka, Mikako Fujita, Hiromasa Kurosaki
Crystal Structure of 2-(1-Benzoylazetidin-3-yl) thio-1,3-thiazoline	X-Ray Structure Analysis Online	37, 57-58, 2021	Kirara Sugiura, Yoshimi Ichimaru, <u>Koichi Kato</u> , Masanori Imai, Hiromasa Kurosaki, Kazuhiko Hayashi
Deciphering Structural Alterations Associated with Activity Reductions of Genetic Polymorphisms in Cytochrome P450 2A6 Using Molecular Dynamics Simulations.	International journal of molecular sciences	22, 10119, 2021	<u>Koichi Kato</u> , Tomoki Nakayoshi, Rika Nokura, Hiroki Hosono, Masahiro Hiratsuka, Yoshinobu Ishikawa, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda
Virtual Alanine Scan of the Main Protease Active Site in Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2	International journal of molecular sciences	21, 3897, 2021	Tomoki Nakayoshi, <u>Koichi Kato</u> , Eiji Kurimoto, Akifumi Oda
Molecular dynamics simulations for the protein-ligand complex structures obtained by computational docking studies using implicit or explicit solvents	Chemical Physics Letters	781, 139022, 2021	<u>Koichi Kato</u> , Tomoki Nakayoshi, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda
Computational analysis of the mechanism of nonenzymatic peptide bond cleavage at the C-terminal side of an asparagine residue.	ACS Omega	6, 30078-30084, 2021	<u>Koichi Kato</u> , Tomoki Nakayoshi, Yoshinobu Ishikawa, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda
Characterization of the Binding of Adenosine-5'-monophosphate to a μ -Type Alkoxide-Linked Dinuclear Zinc(II) Complex in Crystal and Solution State	Bulletin of the Chemical Society of Japan	11, 2670-2677, 2021	Emiko Kinoshita-Kikuta, Yoshimi Ichimaru, Yoshi Yamano, Koichi Kato, Hiromasa Kurosaki, Eiji Kinoshita, and Tohru Koike
Nonenzymatic Deamidation Mechanism on a Glutamine Residue with a C-Terminal Adjacent Glycine Residue: A Computational Mechanistic Study	AppliedChem	1, 142-155, 2021	Haruka Asai, <u>Koichi Kato</u> , Tomoki Nakayoshi, Yoshinobu Ishikawa, Eiji Kurimoto, Akifumi Oda, Nobuyuki Fukuishi
A High Body Mass Index and the Vacuum Phenomenon Upregulate Pain-Related Molecules in Human Degenerated Intervertebral Discs	Int J Mol Sci	23(6):2973, 2022	Miyagi M, <u>Uchida K</u> , Inoue S, Takano S, Nakawaki M, Kawakubo A, Sekiguchi H, Nakazawa T, Imura T, Saito W, Shirasawa E, Kuroda A, Ikeda S, Yokozeki Y, Mimura Y, Akazawa T, Takaso M, Inoue G.
Elevation of MMP1 and ADAMTS5 mRNA expression in glenohumeral synovial fluid of patients with hypercholesterolemia	J Orthop Surg Res	17(1):97, 2021	Muneshige K, <u>Uchida K</u> , Kenmoku T, Takazawa R, Nakawaki M, Ishii D, Inoue G, Takaso M

Prevalence and location of endplate fracture and subsidence after oblique lumbar interbody fusion for adult spinal deformity	BMC Musculoskelet Disord	22(1):880, 2021	Inoue G, Saito W, Miyagi M, Imura T, Shirasawa E, Ikeda S, Mimura Y, Kuroda A, Yokozeki Y, Inoue S, Akazawa T, Nakazawa T, <u>Uchida K</u> , Takaso M
Expression of nerve growth factor in the callus during fracture healing in a fracture model in aged mice	Biomed Mater Eng	32(23):131-137, 2022	Sekiguchi H, Inoue G, Shoji S, Tazawa R, Kuroda A, Miyagi M, Takaso M, <u>Uchida K</u> .
Regulation of Tumor Necrosis Factor- α by Peptide Lv in Bone Marrow Macrophages and Synovium	Front Med (Lausanne)	8:702126, 2021	Mukai M, <u>Uchida K</u> , Okubo T, Takano S, Matsumoto T, Satoh M, Inoue G, Takaso M
Reduced TGF- β Expression and CD206-Positive Resident Macrophages in the Intervertebral Discs of Aged Mice	Biomed Res Int	2021;7988320, 2021	Yokozeki Y, Kawakubo A, Miyagi M, Kuroda A, Sekiguchi H, Inoue G, Takaso M, <u>Uchida K</u>
TGF- β regulates nerve growth factor expression in a mouse intervertebral disc injury model	BMC Musculoskelet Disord	22(1):634, 2021	Yokozeki Y, <u>Uchida K</u> , Kawakubo A, Nakawaki M, Okubo T, Miyagi M, Inoue G, Itakura M, Sekiguchi H, Takaso M.
Possible Regulation of bFGF Expression by Mast Cells in Osteoarthritis Patients with Obesity: A Cross-Sectional Study	Diabetes Metab Syndr Obes	14:3291-3297, 2021	Takata K, <u>Uchida K</u> , Takano S, Muaki M, Inoue G, Sekiguchi H, Aikawa J, Miyagi M, Iwase D, Takaso M
Long-term antibacterial activity of vancomycin from calcium phosphate cement in vivo	Biomed Mater Eng	33(1):41-50, 2022	Mukai M, <u>Uchida K</u> , Sugo K, Nakasu M, Nakajima T, Takata K, Takaso M, Urabe K

(3) その他の学術論文

論文タイトル	掲載誌	掲載月	著者
Tumor angiogenesis in pituitary adenomas	IntechOpen	Open Access Books(WEB)	Yoshida D& Teramoto A
日本の耳科学、耳科学会の発展、日本耳科学会 30 周年記念企画 歴代理事長鼎談。伝えたいメッセージ	Otology Japan 31, Suppl 2021:14-16	2021 年 10 月 13 日	喜多村 健
日本耳科学会総会・学術講演会の報告。第 19 回 日本耳科学会	Otology Japan 31, Suppl 2021:95-100	2021 年 10 月 13 日	喜多村 健
日本で開催された耳科関連国際学会の報告。The First Asian Otology Meeting & The 3rd East Asian Symposium on Otology	Otology Japan 31, Suppl 2021:196-197	2021 年 10 月 13 日	喜多村 健
会員からの投稿。渡邊 勲名誉教授について	Otology Japan 31, Suppl 2021:264-265	2021 年 10 月 13 日	喜多村 健
トランスレーショナル委員会企画、BAHA(Bone Anchored Hearing Aid)(テーマ:BAHA(Bone Anchored Hearing Aid))	Otology Japan 31(4):446-450, 2021	2021 年 12 月 25 日	喜多村 健
事例から学ぶアロマセラピーを活かしたフットケア	日総研出版 臨床老年看護(Vol.28 No.4)	2021 年 9・10 月号	<u>塚原ゆかり</u>

[事例]在宅療養している高齢者の下肢の浮腫			
事例から学ぶアロマセラピーを活かしたフットケア [事例]在宅療養している認知症高齢者	日総研出版 臨床老年看護(Vol.28 No.6)	2021 年 11・12 月号	塚原ゆかり
事例から学ぶアロマセラピーを活かしたフットケア [事例]在宅療養をしている変形性関節症、便秘の高齢者	日総研出版 臨床老年看護(Vol.29 No.2)	2022 年 3・4 月号	塚原ゆかり
新人看護師の入职時から 2 年目までの心的経験と悩んだ時の支えー縦断的調査ー	アディクション看護 第 19 巻 1 号(P74-91)	2022 年 3 月	松下年子, 河口朝子, 原田美智, 神坂登世子, 米山和子, 小林一裕, 大澤優子, 渡邊裕見子, 渡部李菜
身体的機能および精神的機能に対する新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響: 高齢者に着目して	Precision Medicine	4 (5): 454-456 (2023)	井澤和大, 平野康之, 石原広大, 北村匡広, 森尾裕志
理学療法士養成校における学生教育と課題ーCOVID-19 を経験してー	理学療法: 技術と研究	1-6 (2022)	森尾裕志, 中尾陽光, 坂上昇
福祉避難所の運営に対する理学療法士の関与のあり方と派遣調整システムの構築	千葉科学大学大学院 博士論文 (学位論文)	3 月、2022 年	下田栄次
あなたにとって作業療法とは何ですか?・第 76 回 あなたにとって作業療法とは何ですか?	作業療法ジャーナル	2021 年 4 月	田島明子
支援とは何か、支援者とは誰か	臨床作業療法 NOVA	18(1):36-38 2021 年 4 月	増田雄亮
コロナ禍におけるオンラインの強みを活かした視覚障害児・者に対する実践報告	視覚リハビリテーション研究	10(2):46-50 2021 年 10 月	奈良里紗 相羽大輔 増田雄亮 御園政光 谷田光一
看護・処置を拒否する 認知症高齢者への対応	臨床老年看護	9 月、2021	小原良之
認知症ケアの基本と応用 (認知症看護認定看護師教育課程の専任教員に学ぶ)	臨床老年看護	11 月、2021	小原良之
認知症ケアの基本と応用[第 2 回](認知症看護認定看護師教育課程の専任教員に学ぶ)	臨床老年看護	1 月、2022	小原良之
認知症ケアの基本と応用[第 3 回](認知症看護認定看護師教育課程の専任教員に学ぶ)	臨床老年看護	3 月、2022	小原良之
【がんの専門薬剤師になる!患者ニーズに応える連携体制を整える】専門薬剤師に求められる知識とは 抗がん薬の基本的な調製・調剤と曝露対策	調剤と情報 27 巻 12 号 p2012-2015	2021.09	加藤裕久

Does PACAP have the potential to be a revolutionary role for the prevention of dry eye ?	J Clin Ophthalmol	5(S4): 438-439, 2021	Shioda S
レモングラス精油の抗菌・抗真菌・抗ウイルス作用	日本アロマセラピー学会誌	20: 13-23, 2021	平林敬浩、山下道生、柴藤淳子、竹ノ谷文子、木村愛、塩田清二
スポーツアロマセラピーの現状と今後の課題	日本アロマセラピー学会誌	20: 24-34, 2021	竹ノ谷文子、和田匡史、平林敬浩、山本憲志、山下道生、塩田清二

(4) 報告書

論文タイトル	掲載誌	掲載月	氏名
患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意思決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究 —看護師を対象とした高齢がん患者の意思決定支援研の教育プログラムの評価—	厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業) 分担研究報告書	3 月、2022 年	<u>渡邊真理</u>
H29 年度科研 実施状況報告書 青年期統合失調症者の臨界期における訪問看護師の教育プログラムの開発	科学研究費助成事業	令和 3 年 6 月	<u>片山典子</u> 、 <u>荒木田美香子</u>
新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒後フォローアップ研修事業	神奈川県委託研究事業	令和 4 年 3 月	川本利恵子、 <u>片山典子</u> 、 <u>陶山克洋</u> 、 <u>大胡晴香</u> 、 <u>渡部李菜</u>
精神科看護経験がない精神科訪問看護師の困難	フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団	令和 4 年 3 月	<u>藤原悦子</u> 、 <u>片山典子</u>
新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒後フォローアップ研修事業	神奈川県委託研究事業	令和 4 年 3 月	川本利恵子、 <u>片山典子</u> 、 <u>陶山克洋</u> 、 <u>大胡晴香</u> 、 <u>渡部李菜</u>
新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒後フォローアップ研修事業	神奈川県委託研究事業	2022 年 3 月	川本利恵子、 <u>片山典子</u> 、 <u>陶山克洋</u> 、 <u>大胡晴香</u> 、 <u>渡部李菜</u>
理学療法士養成校における学生教育と課題 —COVID-19 を経験して—	理学療法—技術と研究— 第 50 号 P.1～6	令和 4 年 2 月	森尾裕志、中尾陽光、坂上昇
箸食文化の生涯継続 老年期における箸食の再獲得の実現可能性	食生活科学・文化、環境に関する研究助成 研究紀要	第 34 巻(2019 年度)報告書: 65-75	大森圭貢、乾奈都子、大森みかよ、 <u>斎藤琴子</u> 、 <u>森尾裕志</u>
理学療法士による青少年アスリートへの取り組みと看護への期待	日本運動器看護学会誌	2022 年 2 月	中尾陽光
2020 年度 実施状況報告書	科研費ウェブサイト	2021 年 8 月	田島明子

コレステロール胆石症発症性差の解明	日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤 C) 研究実績報告書	2021 年 5 月	山崎 泰広
-------------------	-----------------------------------	------------	-------

(5) 学会発表

発表タイトル	学会名	発表月	発表者
シンポジウム5「高齢者の両立支援」	第69回日本職業・災害医学会	11 月 27 日	寺本 明(座長)
シンポジウム 13「脳室内腫瘍に対する手術戦略」	第 26 回日本脳腫瘍の外科学会	9 月 10 日	寺本 明(座長)
先端巨大症と間脳下垂体疾患の手術アップデート	第 94 回日本内分泌学会	2021 年 4 月 23 日	大山健一、寺本 明、松野 彰
新たな診断と治療の手引きに沿った先端巨大症の長期治療成績	第 94 回日本内分泌学会	4 月 22 日	田原重志、服部裕次郎、寺本 明、他
重度の蝸牛型耳硬化症に対する人工内耳埋込術の治療経験	第 122 回日本耳鼻咽喉科学会学会学術講演会	2021 年 5 月 12～15 日	石田克紀、渡辺浩基、浜島智秀、峯川 明、吉川沙也花、喜多村 健
アブミ骨手術における顕微鏡的アプローチと内視鏡的アプローチの比較	第 122 回日本耳鼻咽喉科学会学会学術講演会	2021 年 5 月 12～15 日	溝口平恵、藤川太郎、川島慶之、伊藤卓、本田圭司、竹田貴策、野口佳裕、喜多村健、堤 剛
当科における慢性穿孔性中耳炎に対するリテンパ®による鼓膜閉鎖術の検討	第 31 回日本耳科学会総会学術講演会	2021 年 10 月 13～16 日	峯川 明、家坂 辰弥、吉川 沙耶花、喜多村 健、石田 克紀。
蝸牛型耳硬化症に対して人工内耳埋込術を施行した症例の検討	第 31 回日本耳科学会総会学術講演会	2021 年 10 月 13～16 日	家坂 辰弥、石田 克紀、吉川 沙耶花、峯川 明、喜多村 健
当院におけるデュピルマブの使用経験	第 38 回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会	2021 年 12 月 4 日	家坂 辰弥、峯川 明、吉川 沙耶花、石田 克紀、喜多村 健
新型コロナウイルスの影響に係る新人看護師のメンタルヘルス事業	第 25 回日本看護管理学会シンポジウム	2021 年 8 月	川本利恵子
コロナ禍の経験から構築する地域の協働による新人看護職の育成	第 52 回日本看護学会学術集会交流集会	2021 年 11 月	川本利恵子
施設・在宅系で勤務経験のある病院看護師が「発揮している力・看護管理者への面接調査から」	第 52 回(2021 年度)日本看護学会学術集会	web 開催 2021 年 9 月～12 月	牛田貴子、山田艶子、丹治彩
看護職のための神奈川緩和ケア研究会 高齢がん患者の意思決定支援に関する研修の評価	第 36 回日本がん看護学会学術集会	2 月、2022 年	渡邊真理、鈴木由美子、井上智香、日塔裕子、小笠原利枝、嶋中ますみ、横川史穂子、柏木夕香、武見綾子、得みさえ、山内桂子、山口里枝、谷島和美、濱田安岐子、清水奈緒美
高齢がん患者の治療選択における意思決定に対する看護師の実践評価ー神奈川県内のがん診療連携拠点病院 3 施設調査ー	第 36 回日本がん看護学会学術集会	2 月、2022 年	井上智香、渡邊真理、菅野雄介、林 ㇿり子

膵頭十二指腸切除術を受けたすい臓がん患者への初回外来時におけるセルフケアに関する看護援助	第36回日本がん看護学会学術集会	2月、2022年	大社里奈、 <u>渡邊真理</u> 菅野雄介、林 遼子
造血器腫瘍患者の療養場所選択に向けた病棟看護師が行う再発時期からの End-of-life discussions	第36回日本がん看護学会学術集会	2月、2022年	岩井典子、 <u>渡邊真理</u> 菅野雄介、林 遼子 今津陽子
コロナ禍に国外の看護系大学で行われた研究レビュー	日本公衆衛生看護学会	2021年10月	倉橋悠子、望月聡一郎
医療系大学における新型コロナウイルス感染対策に関する学生の意識等調査	日本公衆衛生看護学会	2021年10月	望月聡一郎、小林紀明、鈴木秀樹、山崎真帆、陶山克洋、倉橋悠子
COVID-19 の感染拡大に伴う緊急事態宣言下における高校生・大学生の不安抑うつ傾向とインターネット依存の関連	第31回日本精神保健看護学会学術集会	令和3年6月	玉田聡史、 <u>片山典子</u>
1型糖尿病患者の緊急事態宣言における感情の変化に関する研究	第31回日本精神保健看護学会学術集会	令和3年6月	陶山克洋、 <u>片山典子</u>
わが国の薬物依存症における重複障害に関する文献レビュー	第31回日本精神保健看護学会学術集会	令和3年6月	渡部李菜、 <u>片山典子</u>
新型コロナウイルスの影響に係る新人看護師のメンタルヘルスフォローアップ事業	第25回日本看護管理学会学術集会	令和3年8月	川本利恵子、 <u>片山典子</u>
養護者による高齢者虐待共依存ケースの対処法	日本ヒューマンリレーション研究学会 第2回全国大会	令和3年10月	松下年子、 <u>片山典子</u> 、 片山直子
Relationships with Students Revitalize the Community	6th Global Network of Public Health Nursing	Jan.8-9, 2022	Minako Sawai, Maho Yamazaki
Devises in Public Health Nursing Education under the COVID-19 Pandemic	6th Global Network of Public Health Nursing	Jan.8-9, 2022	Maho Yamazaki, Minako Sawai
コロナ禍の成人看護学実習のあり方に関する研究 ①学生が抱える不安と感染予防の現状について	第41回看護科学学会学術集会	12月	櫻井友子
コロナ禍の成人看護学実習のあり方に関する研究 ②臨地実習の健康管理・感染予防対策と学生授業評価の関連	第41回看護科学学会学術集会	12月	櫻井友子
不妊症の女性に対する運動療法の精神的効果を検証したランダム化比較対照試験のシステマティックレビュー	第41回日本看護科学学会学術集会	2021年12月4日	日下桃子
妊娠中の身体活動に関連する要因	第36回日本助産学会学術集会	2022年3月19日	日下桃子
Yuko Kurahashi, Satoko Imaizumi: INTEGRATIVE REVIEW ON HEMATOPOIETIC STEM CELL TRANSPLANT NURSING. 24th East Asian Forum of Nursing Scholars, web, April, 2021	24th East Asian Forum of Nursing Scholars	4月、2021年	<u>Yuko Kurahashi</u> , Satoko Imaizumi
倉橋悠子: 造血器腫瘍患者の看護に困難を感じる看護師とのパートナーシップ. NPO 法人ニューマ	NPO 法人ニューマン理論・研究・実践研究会第15回対話集会	10月、2021年	<u>倉橋悠子</u>

ン理論・研究・実践研究会第 15 回対話集会, web 開催, 10 月, 2021			
倉橋悠子, 養田恵美子, 岡崎眞治, 大胡晴香, 山 崎真帆, 齊藤琴子:音楽をケアに用いることの効果 ～奏者と聴き手の相互作用の可視化を目指して ～. LIP:横浜オープンイノベーションカンファレン スVII ～クロスイノベーション(異分野融合)による 新たな事業機会の創出を目指して～, web 開催, 1 2 月, 2021	LIP:横浜オープンイノベーションカンファレ ンスVII	12 月, 2021 年	倉橋悠子, 養田恵美子, 岡崎眞 治, 大胡晴香, 山崎真帆, 齊藤 琴子
岡多恵, 櫻井友子, 石橋史子, 倉橋悠子, 羽生貞 親, 川本利恵子:コロナ禍の成人看護学実習のあり 方に関する研究①学生が抱える不安と感染予防 対策の現状について. 第 41 回日本看護科学学会 学術集会, web 開催, 12 月, 2022	第 41 回日本看護科学学会学術集会	12 月, 2021 年	岡多恵, 櫻井友子, 石橋史子, 倉橋悠子, 羽生貞親, 川本利恵 子
櫻井友子, 岡多恵, 石橋史子, 倉橋悠子, 羽生貞 親, 川本利恵子:コロナ禍の成人看護学実習のあり 方に関する研究②臨地実習の健康管理・感染予 防対策と学生授業評価の関連. 第 41 回日本看護 科学学会学術集会, web 開催, 12 月, 2021	第 41 回日本看護科学学会学術集会	12 月, 2021 年	櫻井友子, 岡多恵, 石橋史子, 倉橋悠子, 羽生貞親, 川本利恵 子
倉橋悠子, 望月聡一郎:コロナ禍に国外の看護大 学で行われた研究レビュー. 第 10 回日本公衆衛 生看護学会学術集会, web 開催, 1 月, 2022	第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会	1 月, 2022 年	倉橋悠子, 望月聡一郎
望月聡一郎, 小林紀明, 渡邊知佳子, 山崎真帆, 陶山克洋, 鈴木秀樹, 倉橋悠子:医療系大学にお ける新型コロナウイルス感染対策に関する学生の 意識等調査. 第 10 回日本公衆衛生看護学会学術 集会, web 開催, 1 月, 2022	第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会	1 月, 2022 年	望月聡一郎, 小林紀明, 渡邊知 佳子, 山崎真帆, 陶山克洋, 鈴 木秀樹, 倉橋悠子
COVID-19 の感染拡大に伴う緊急事態宣言下 における高校生・大学生不安抑うつ傾向とインターネ ット依存の関連	日本精神保健看護学会第31回学術集会	2021 年 6 月 5 日(土) ～2021 年 6 月 6 日 (日)	玉田聡史・片山典子
コロナ禍における都市在住高齢者の自身の生活 についての捉え方<第 1 報>	日本在宅ケア学会	8 月, 2021	菊池有紀, 塚原ゆかり
コロナ禍における都市在住の前期高齢者と後期高 齢者の意識<第 2 報> —介護予防・健康づくり・地域の活動に焦点をあて て—	日本在宅ケア学会	8 月, 2021	塚原ゆかり, 菊池有紀
コロナ禍における都市部在住高齢者の社会的サ ポート・ネットワークと自主的活動の変化	日本看護科学学会	12 月, 2021	菊池有紀, 塚原ゆかり
コロナ禍における都市在住の前期高齢者と後期高 齢者の省察 —身体面、心理面、社会参加の変化を振り返って	日本看護科学学会	12 月, 2021	塚原ゆかり, 菊池有紀

—			
新型コロナウイルスの影響に係る看護職員卒後フォローアップ研修事業	神奈川県委託研究事業	2022年3月	川本利恵子, 片山典子, 陶山克洋, 大胡晴香, 渡部李菜
わが国の薬物依存症における重複障害に関する文献レビュー(一般演題:口頭)	日本精神保健看護学会第31回学術集会(オンライン)	2021年6月	渡部李菜, 片山典子
わが国の薬物依存症における重複障害に関する文献レビュー(一般演題:口頭)	日本精神保健看護学会第31回学術集会(オンライン)	2021年6月	渡部李菜, 片山典子
高齢社会におけるリハビリテーション医療職のリハマインド	第11回国立大学病院リハビリテーション部門技師長主任者等会議	2021.12.3	鶴見隆正
低栄養を認めた回復期脳梗塞患者におけるエネルギー摂取量に着目した栄養管理と運動療法の経験 BCAA 強化栄養補助食品を併用し下肢筋力と運動耐容能に改善が得られた一症例の報告	第38回神奈川県理学療法士学会(神奈川)	3月、2022年	木山 龍河, 清野 由也, 衣田 翔, 大森 圭貢
変形性膝関節症患者における階段昇降速度と心理的因子、および身体運動機能との関連	第38回神奈川県理学療法士学会(神奈川)	3月、2022年	大内 佑太, 森尾 裕志, 大森 圭貢
脳卒中患者の自宅退院後の身体活動の変化およびそれに関連する因子の検討	神経理学療法学会大会	2021年12月	清野由也, 大森圭貢, 長澤 弘
在宅要介護高齢者における基本的日常生活活動の改善に関わる身体運動機能の特徴	第38回神奈川県理学療法士学会	2022年2月	清野由也, 大森圭貢, 長澤 弘
114 在宅要介護高齢者における基本的日常生活活動の改善に関わる身体運動機能の特徴(第38回神奈川県理学療法士学会 奨励賞)	第38回神奈川県理学療法士学会, Web 開催	2022年2月	星知輝, 森尾裕志, 長澤弘
115 変形性膝関節症患者における階段昇降速度と心理的因子、および身体運動機能との関連	第38回神奈川県理学療法士学会, Web 開催	2022年2月	大内佑太, 森尾裕志, 大森圭貢
116 転倒による傷害が重度になると予想される転倒者の特徴: YouTube からの分析	第38回神奈川県理学療法士学会, Web 開催	2022年2月	川岸亮, 森尾裕志, 櫻井好美, 星知輝, 栗澤高輝
「低出生体重児等の成長・発達評価手法の確立のための体動計測システム開発の試み」	第5回日本リハビリテーション学会秋季学術集会	2021年11月13日	斉藤琴子, 根本鉄, 島田啓子, 鶴見薫, 斉藤京
新生児を対象に動画を併用した体動計測システムの試み	第6回日本リハビリテーション学会秋季学術集会	2021年11月15日	斉藤琴子, 根本鉄, 島田啓子, 鶴見薫, 斉藤京
箸の自助具作成 ～年を経ても、病気になっても、楽しく・美味しく食事をするために～	LIP横浜オープンイノベーションカンファレンス VII	2021年12月15日	斉藤琴子, 大島奈緒美, 阿久根勇輝, 丁子雄希, 山崎真帆
医療における音楽療法の効果 ～相互作用の観点から～	LIP横浜オープンイノベーションカンファレンス VII	2021年12月15日	倉橋悠子, 大胡晴香, 山崎真帆, 斉藤琴子
「青少年のスポーツ活動を支える多職種連携と看護への期待」理学療法士のスポーツとの関わりと看護への期待	第21回日本運動器看護学会学術集会	2021年6月	中尾陽光
健康づくりと災害対策 ～災害が起きる前からできること～(講演)	湘南医療大学 2021年度市民公開講座	3月、2022年	下田栄次
避難所生活における被災者支援 (講演)公開講座	板橋区地域リハビリテーションネットワーク	3月、2022年	下田栄次

神奈川県理学療法士会災害対策委員会の取り組み(教育講演)	第38回神奈川県理学療法士学会	2月、2022年	下田栄次
神奈川県平塚市の福祉避難所における感染症対策と災害時要配慮者支援に関する研究(口述発表)	第38回神奈川県理学療法士学会	2月、2022年	下田栄次
災害リハビリテーションとは 災害時の新型コロナ感染を防ぐために (講演)	一般社団法人県西部地区リハビリテーション協議会	9月、2021年	下田栄次
リハビリテーション臨床における作業療法士の「障害受容」の使用状況	第55回日本作業療法学会	2021年9月	田島明子
活動・参加を促進する訪問 OT の指針とその実現のための視点	第55回日本作業療法学会	2021年9月	岩田祐美、田島明子
ALS 在宅療養者の社会参加を促進するプロセスと背景因子についての研究—ICT を用いた社会参加を行う ALS 在宅療養者を対象として—	第55回日本作業療法学会	2021年9月	國塚裕太、田島明子
本邦における高次脳機能障害を抱える当事者の視点からみた社会参加についての文献レビュー	第55回日本作業療法学会	2021年9月	金子隆生、田島明子
作業療法学生の自ら学ぶ視点の育成に影響を与える診療参加型臨床実習の諸要因—インタビュー調査による一考察—	第55回日本作業療法学会	2021年9月	作間弘彬、田島明子
作業療法士による重度認知症高齢者への環境支援の概括—日本作業療法士協会事例報告集による調査研究—	第55回日本作業療法学会	2021年9月	田中純一、田島明子
維持期脳卒中片麻痺に対する下肢 Constraint-induced Movement Therapy の効果 (査読付)	第54回日本作業療法学会抄録集福岡	2021年9月	田邊浩文、田邊浩司、光金正官
高速弦楽器奏者の筋緊張異常と演奏練習との関連性 (査読付)	第54回日本作業療法学会抄録集福岡	2021年9月	田邊浩司、田邊浩文
脳血管障害患者における疾患後の抑うつ状態の捉え方について	第55回日本作業療法学会(宮城)	2021年9月	三川年正、田邊浩文、矢部貴司
リハビリテーション支援ロボットPARKOを用いた重度麻痺手に対する CI セラピーの実践	第55回日本作業療法学会(宮城)	2021年9月	田邊浩文、田邊浩司、三川年正
脳血管疾患後の麻痺手指伸筋促通訓練ロボットシステムの有効性の検証	第55回日本作業療法学会(宮城)	2021年9月	田邊浩司、田邊浩史、三川年正
通所リハビリテーションにおける「活動と参加」に焦点を当てた集団上肢機能訓練の効果	第55回日本作業療法学会 (オンライン)	2021年9月	沢田宏美 増田雄亮 濱田洋子 新藤恵一郎 近藤国嗣
エビデンスに基づく作業療法を促進する実践モデル	第55回日本作業療法学会	2021年9月	増田雄亮

ルの検討—回復期リハビリテーション病棟に勤務する作業療法士への予備調査結果—	(オンライン)		八重田淳 會田玉美
脳卒中後上肢麻痺に対するリハビリテーション研究	Life Innovation Platforms 横浜(オンライン)	2021 年 12 月	増田雄亮
認知症高齢者の意思決定を促進する評価法とコミュニケーションツールの開発	Life Innovation Platforms 横浜(オンライン)	2021 年 12 月	増田雄亮
Clausen, J.P. の概念図を参考にした母親の育児エネルギーに関する支援	第 62 回日本母性衛生学会学術集会(於・岡山)	2021/10/15	鶴見薫、丹治彩、島田啓子
WORDS MATTER WHEN NURSING STUDENTS PERSUADE SIMULATED PATIENTS TO TAKE CERTAIN ACTIONS: QUESTION FORMS HELP PATIENTS REALIZE THEIR OWN ILLNESSES	24 th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS CONFERENCE (Web開催 Republic of the Philippines)	4 月, 2021	本田芳香、鹿野浩子、湯山美杉、後藤理沙
模擬患者の排泄行為を促す看護学生の発話行為の意味	第 41 回日本看護科学学会学術集会 (Web 開催 愛知)	12 月, 2021	本田芳香、鹿野浩子、湯山美杉、後藤理沙
看護学生による「確認」の質問発話一言語学的視点からのタイプ別分析—	第 41 回日本看護科学学会学術集会 (Web 開催 愛知)	12 月, 2021	本田芳香、鹿野浩子、湯山美杉、後藤理沙
薬物依存	日本医療薬学会 第2回薬物療法集中講義 (Web 開催)	2021 年 1 月	鈴木 勉
オピオイド鎮痛薬の光と影	東京都病院薬剤師会 2020 年度緩和医療研究会特別講演	2021 年 3 月	鈴木 勉
薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が医療用麻薬の印象・理解に及ぼす影響に関する探索的調査研究	第 26 回日本緩和医療学会学術大会	2021 年 6 月	鈴木 勉、長谷川真司、三嶋宏和、惟高裕一、田中裕幸、加賀谷肇
JNRC 40 年の歩み	鎮痛薬・オピオイド・ペプチド研究会 (Web 開催)	2021 年 8 月	鈴木 勉
広がる薬物乱用の現状と薬剤師が今すべきことは？	第 54 回東海薬剤師学術大会特別講演、ウイングあいち	2021 年 11 月	鈴木 勉
モンゴル国産 <i>Artemisia sieversiana</i> の成分と季節による家畜の嗜好性変化	日本薬学会 第 141 年会	3 月	村田敏拓、Stipan Nurbek、菅沼啓輔、石川吉伸、Buyanmandakh Buyankhishig、菊池貴、Tseesuren Byambajav、Bekh-Ochir Davaapurev、佐々木健郎、Javzan Batkhuu
クローディン-1 (CLDN1) を標的とした可逆的皮膚透過促進剤の開発	日本薬学会 第 141 年会	3 月	吉野 雄太、照屋 達己、松永 遙香、石川 吉伸、五十里 彰
肺腺がん細胞におけるクローディン-1 結合性ペプチドによる化学療法抵抗性の改善	日本薬学会 第 141 年会	3 月	伊藤 綾夏、奈迫 遙華、高階 優衣、江口 博晶、石川 吉伸、松永 俊之、遠藤 智、五十里 彰

STAT3 の活性維持に関与する TRIM59 の調製と結晶化	第 85 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム	5 月	松浦咲季、菱木麻美、原幸大、石川吉伸、橋本博
クローデイン-1 (CLDN1) の司る表皮バリアに対する可逆的皮膚透過促進剤の開発	第 85 回日本生化学会中部支部例会	5 月	吉野 雄太、照屋 達己、松永 遙香、石川 吉伸、五十里 彰
転写因子 STAT3 の脱リン酸化を阻害する TRIM59 の調製と結晶化	第 67 回日本薬学会東海支部総会・大会	7 月	松浦咲季、菱木麻美、原幸大、石川吉伸、橋本博
Gln-Gly 配列における Gln 脱アミド化の反応機構	第 16 回 D-アミノ酸学会学術講演会	9 月	加藤紘一、浅井遥、仲吉朝希、石川吉伸、栗本英治、小田彰史
アスパラギン残基の脱アミド化による γ S クリスタリンの凝集促進	第 94 回日本生化学会大会	11 月	加藤 紘一、仲吉 朝希、栗本英治、小田 彰史、石川吉伸
Asn 残基の脱アミド化および C 末端側ペプチド結合切断における C 末端側 Pro 残基の影響	第 49 回構造活性相関シンポジウム	11 月	加藤紘一、仲吉朝希、石川吉伸、栗本英治、小田彰史
薬学部初年度教育に必要な要素 — 湘南医療大学薬学部における学生のニーズと教員の対応 — Needs assessment of educational support for first-year pharmacy students in Shonan University of Medical Sciences	日本薬学会第 142 年会 (名古屋)	2022 年 3 月	石橋芳雄
緩和ケア病棟入院前後のポリファーマシーとせん妄との関連性について	第 31 回日本医療薬学会年会	5 月, 2021 年	野澤 (石井) 玲子、相沢健太、菅野智、荒井進、稲葉裕、加賀谷肇
薬学部初年度教育に必要な要素 — 湘南医療大学薬学部における学生のニーズと教員の対応 —	日本薬学会第 142 年会	3 月, 2022 年	定本清美、中橋奨、市丸嘉、加賀谷肇、片川和明、加藤紘一、加藤裕久、佐野和美、須藤遥、殿山泰弘、石橋芳雄、鈴木勉
ヒト角膜上皮細胞を用いた S-1 含有成分による細胞傷害性の検討	日本薬学会第 141 年会 (広島)	2021.3 月	守屋賀奈絵、清水久範、亀井大輔、半田智子、佐々木忠徳、加藤裕久
化学計算 (QSAR・ドッキングスタディ) によるオピオイド μ 受容体リガンドの活性予測	日本薬学会第 141 年会 (2021/03/26-29) オンライン開催	2021 年 3 月	湯山円晴、磯島結優、荒井裕美子、間山貴紘、金谷貴行、船田正彦、栗原正明
抗アデノウイルス活性を期待した 2'-デオキシ炭素環ヌクレオシドの合成	日本薬学会第 141 年会 (2021/03/26-29) オンライン開催	2021 年 3 月	荒井慎之介、齋藤智亜季、水石彩菜、三澤隆史、出水庸介、栗原正明、紺野 奇重
アセタール構造を有する新規 ER α アンタゴニストの創製	第 65 回日本薬学会関東支部大会 (2021/09/11) オンライン開催	2021 年 9 月	湯山円晴、三澤隆史、出水庸介、金谷貴行、佐藤忠章、栗原正明
臨床管理講座 2 病態と治療「アレルギー・骨との疾患」薬剤師セルフメディケーション講座	セルメドジャパン 2021.2.15 東京	2021 年 2 月	定本清美
医薬品の提供における危機管理と Child Resistance and Senior Friendly (CRSF) 包装の開発	国際医薬品開発展 (最新技術・製品) 2021 東京 ビックサイト	2021. 4.17	定本清美

服薬コンプライアンス向上と sustainability	日本人間工学会 第 62 回 大会 シンポジウム	2021, 5, 22	定本清美、嶋田守男、林正保、 村田実希郎、久保田清
医薬品添付文書電子化に適した個装箱(PTP)の開発ーデジタル化へ向かう社会と医薬品提供ー	日本人間工学会 第 62 回 大会 シンポジウム	2021, 5, 22	久保田清、林正保、嶋田守男、 村田実希郎、定本清美
視覚障害者支援からユニバーサル製品開発へ	日本人間工学会 第 62 回 大会 シンポジウム	2021, 5, 22	村田実希郎、西尾宏、久保田清、 林正保、定本清美、嶋田守男
3D プリンターで作製した鼻腔ファントムモデルを用いた各種点鼻剤の拡散状況の評価	日本人間工学会 第 62 回 大会 シンポジウム	2021, 5, 22	嶋田守男、林正保、久保田清、 村田実希、定本清美
Ergonomic study on the openness of aluminum pouch of PTP(Press Through Package)	The 23rd International Symposium on Ergonomics Society of Korea and Japan Ergonomic Society joint conference	2021.12.4	Kiyomi Sadamoto, Hiroyuki Ura, Kiyoshi Kubota
Proposal of medical packaging-considering accessible drug packages for the elderly, handy capped and children	CPhI South East Asia Pharmacy	2021.12.7	Kiyomi Sadamoto, Kiyoshi Kubota
運動時の精油の香り暴露による生理作用	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	山下道生、平林敬浩、塩田清二、竹ノ谷文子
運動と香りによる摂食調節の機能形態学的解析	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	竹ノ谷文子、山下道生、平林敬浩、塩田清二
アロマセラピーの臨床応用について	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	塩田清二、竹ノ谷文子、山下道生、平林敬浩
喘息や花粉症に対してアロマセラピーは有効か？	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	千葉義彦、塩田清二
医療分野におけるアロマセラピー研究論文の網羅的文献リサーチ	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	山田啓司、山下道生、平林敬浩、木村愛、塩田清二、竹ノ谷文子
「スポーツアロマ」の躍進を目指した文献的リサーチ	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	松本綱太郎、山下道生、山本憲志、平林敬浩、塩田清二、竹ノ谷文子
精油の香りはエアロバイク運動による疲労を回復させるか？	第 24 回 日本アロマセラピー学会	2021 年 12 月	井上美菜、高野和奈、山下道生、山本憲志、平林敬浩、塩田清二、竹ノ谷文子
ドッキングおよび分子動力学シミュレーションによる酵素 PIMT の基質認識機構の予測	日本薬学会 第 141 年会 (広島・オンライン)	2021 年 3 月	仲吉朝希、加藤紘一、高橋央宜、栗本英治、小田彰史
細胞研究におけるプロテオミクスの活用	第 39 回 日本ヒト細胞学会 学術集会、オンライン開催	2021 年 10 月	須藤遙、殿山泰弘、石田洋一
酸化ストレス性疾患への臨床応用を目指した過酸化型 Prx2 定量法の開発	第 39 回 日本ヒト細胞学会 学術集会、オンライン開催	2021 年 10 月	須藤遙、殿山泰弘、小池伸、小笠原裕樹、石田洋一

ヒトがん細胞の細胞分裂時に娘細胞間で非対称に分配される機能未知タンパク質 TMEM141 の機能解析	第 39 回 日本ヒト細胞学会学術集会、オンライン開催	2021 年 10 月	殿山泰弘、安立珠美、岩倉直弘、満山進、須藤遥、石田洋一、加藤幹男、小林 ベイリー、菜穂子、吉田徹彦、工藤純
Ruthenium-Catalyzed Oxidative Dehydrogenation of Alcohols with Carbodiimide via Hydrogen Transfer Mechanism	13th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS 2021)	2021 年 11-12 月	Sueki, S., Matsuyama, M., Watanabe, A., Kanemaki, A., <u>Kata</u> <u>kawa, K.</u> , Anada, M.
薬学部初年度教育に必要な要素 ―湘南医療大学薬学部における学生のニーズと教員の対応―	日本薬学会第 142 年会	2022 年 3 月	佐野和美
心筋 KCNQ1 チャネル分子複合体の病態生理学的意義に関する研究	第 144 回日本薬理学会関東部会	2021.6.25	稲田理毅、児玉昌美、山崎泰広、坂本多穂、永森収志、黒川洵子
ドッキングスタディによる CB ₁ 受容体リガンドの活性予測	日本薬学会第 142 年会	3 月、2022 年	湯山円晴、〇市丸嘉、荒井裕美子、金谷貴行、佐藤忠章、船田正彦、栗原正明
薬学部初年度教育に必要な要素 ―湘南医療大学薬学部における学生のニーズと教員の対応―	日本薬学会第 142 年会	3 月、2022 年	定本清美、〇中楯奨、市丸嘉、加賀谷肇、片川和明、加藤紘一、加藤裕久、佐野和美、須藤遥、殿山泰弘、石橋芳雄、鈴木勉
住環境の汚染に関連する常在菌の薬剤耐性試験	日本薬学会第 142 年会	3 月、2022 年	〇酒井三恵、市丸嘉
サワラ(Chamaecyparis pisifera)由来 pisiferdiol アナログの合成及び抗腫瘍活性 (4)	日本薬学会第 142 年会	3 月、2022 年	〇五島伶、中島京花、加知有紀子、高須美玖、戸田真奈美、大林里沙、青柳裕、矢野玲子、吉田耕治、市丸嘉、朴炫宣、蓮田知代、深谷晴彦、一柳幸生
細胞毒性 kamebakaurin アナログの合成(2)	日本薬学会第 142 年会	3 月、2022 年	〇木村真子、八木萌百佳、小沢圭、蓮田知代、一柳幸生、竹谷孝一、矢野玲子、市丸嘉、青柳裕、桂明玉、金永日、李諸文
Gln-Gly 配列における Gln 脱アミド化の反応機構	第 16 回 D-アミノ酸学会学術講演会(鈴鹿・オンライン)	9 月、2021 年	加藤紘一、浅井遥、仲吉朝希、石川吉伸、栗本英治、小田彰史
Candida albicans のバイオフィルム形成に対するカルモジュリン阻害薬、ミオシン軽鎖キナーゼ阻害薬、Rho キナーゼ阻害薬の影響	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2021	10 月、2021 年	小堀枝実、平賀七帆、加藤紘二、森健、梅村拓巳、奥平正美、野々垣常正、山岸由佳、三鴨廣繁、池田義明
アスパラギン残基の脱アミド化による γ S クリスタリンの凝集促進	第 94 回日本生化学会大会(横浜・オンライン)	11 月、2021 年	加藤 紘一、仲吉 朝希、栗本英治、小田 彰史、石川吉伸

Asn 残基の脱アミド化および C 末端側ペプチド結合切断における C 末端側 Pro 残基の影響	第 49 回構造活性相関シンポジウム(オンライン)	11 月, 2021 年	加藤紘一、仲吉朝希、石川吉伸、栗本英治、小田彰史
タンパク質における計算と実験のインタラクション	日本薬学会東海支部特別講演会	11 月, 2021 年	加藤紘一
薬学部初年度教育に必要な要素—湘南医療大学薬学部における学生のニーズと教員の対応—	日本薬学会第 142 年会(名古屋)	3 月, 2021 年	定本清美、中楯奨、市丸嘉、加賀谷肇、片川和明、加藤紘一、加藤裕久、佐野和美、須藤遥、殿山泰弘、石橋芳雄、鈴木勉
悪性リンパ腫の治療中に肝不全を呈した原発性胆汁性胆管炎の 1 例	第 675 回日本内科学会関東地方会	2022 年 2 月	高尾野茜、平野克治、藤原祐介、森田公夫、遠藤太嘉志、大川伸一、市田隆文
脂質代謝異常に伴う筋タイプ調節因子の変化	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	小山智久、内田健太郎、田澤諒、廣澤直也、大橋慶久、福島健介、関口裕之、宮城正行、井上 玄、高相晶士
椎間場傷害後の Apelin およびその受容体 APJ の発現動態に関する検討	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	黒田晃義、内田健太郎、宮城正行、中脇充章、川久保 歩、井上 玄、関口裕之、齋藤 亘、高相晶士
ヒアルロン酸硬化ゲルを用いて BMP-2 を導入した人工骨の後側方固定術における骨形成促進効果の検討	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	黒田晃義、内田健太郎、庄司真太郎、横関雄司、宮城正行、齋藤 亘、井上 玄、高相晶士
原発性骨粗鬆症モデルの筋組織における UCP2 の発現低下とその低下メカニズムの検討	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	小山智久、内田健太郎、宮城正行、田澤 諒、井上 玄、藤巻寿子、大橋慶久、関口裕之、高相晶士
加齢に伴う TGF- β の発現減少と CD206 陽性椎間板内性マクロファージの減少との関連性の検討	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	内田健太郎、川久保 歩、横関雄司、宮城正行、黒田晃義、井上 玄、齋藤 亘、関口裕之、高相晶士
両側下肢 CT 画像を用いた変形性膝関節症における片側性の筋量変化と筋力変化との関連性の検討	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	迎 学、内田健太郎、塚田亜裕美、相川 淳、岩瀬 大、高野昇太郎、宮城正行、関口裕之、井上 玄、高相 晶士
マウス大腿骨難治性骨折モデルにおける BMP-2 含有高濃度 Poly(POG)n ゲルの骨形成促進効果の検討	第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会	10 月, 2021	黒田晃義、内田健太郎、庄司真太郎、関口裕之、宮城正行、齋藤 亘、村田幸佑、横関雄司、小山智久、井上 玄、高相 晶士

(6) 研究補助金等外部資金の受入れ状況 (科研費・外部資金等)

No.	種別	種目	課題番号	課題名	研究者	学科	代表/分担	分担者	転入/転出	開始年度	終了予定	終了年度	R3(2021)		
													合計	直接経費	間接経費
1	基金	基盤研究C	17K12494	青年期統合失調症者の臨界期における訪問看護師の教育プログラムの開発	片山 典子	NS	代表	あり	-	2017	2019	延長 2021			
2	基金	若手研究	18K13009	外傷性脳損傷官舎の社会的行動障害への対応方法に関する研究：家族回代表の視点から	鈴木 雄介	OT	代表	なし	-	2018	2019	延長 2021 再延長 2022			
3	基金	若手研究	18K17505	思春期のひきこもり親和性群の心理社会的要因とSNS利用の関連	玉田 聡史	NS	代表	なし	-	2018	2020	延長 2021			
4	基金	若手研究	19K18546	局所投与かつ局所保持可能な理想的な細胞・成長因子送達法による骨欠損治療法の確立	関口 裕之	臨研	代表	なし	-	2019	2021		1,040,000	800,000	240,000
5	基金	若手研究	19K19580	食事のできる非利き手箸操作の獲得に向けた練習の効果と方法の確立	大森 圭貴	PT	代表	なし	-	2019	2021	延長 2022	780,000	600,000	180,000
6	基金	基盤研究C	18K10551	介護支援専門員との多職種連携における「協働的能力」に関する調査研究	小林 紀明	NS	代表	なし	2019転入	2018	2020	延長 2021			
7	基金	基盤研究C	19K12878	脳卒中麻痺手テラーメイドリハビリのためのプログラム作成支援システム	田邊 浩文	OT	分担	-	-	2019	2021		195,000	150,000	45,000
8	補助金	基盤研究B	20H04003	低出生体重児の体動計測の開発と児の体重および発達指標との関連探索研究	島田 啓子	NS	代表	あり		2020	2023		2,600,000	2,000,000	600,000
9	基金	基盤研究C	20K03451	応用行動分析学によるe-Learningを用いた認知症者に対する介護職員指導	小林 和彦	PT	代表	なし		2020	2022		1,170,000	900,000	270,000
10	基金	若手研究	20K19113	臨界期にある統合失調症者を訪問する訪問看護師の自律性を高める教育プログラムの開発	片山 典子	NS	代表	なし		2020	2022		2,470,000	1,900,000	570,000
11	基金	基盤研究C	20K10357	「障害の社会モデル」を重視したリハビリテーションのための内省型研修プログラムの開発	田島 明子	OT	代表	あり	2020転入	2020	2023		650,000	500,000	150,000
12	厚労 補助金	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業研究事業	19KC1003	医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	鈴木 勉	臨研	分担	-	2020転入	2019	2021		300,000	300,000	
13	基金	基盤研究C	19K12904	医療の適正に貢献するユニバーサルデザイン医薬品包装の開発	定本 清美	臨研	代表	なし	2020転入	2019	2021		650,000	500,000	150,000
14	基金	基盤研究C	20K09440	局所硬化ゲルを用いた多孔質材料への成長因子、細胞導入による骨形成促進法の開発	関口 裕之	臨研	分担	-	-	2020	2022		390,000	300,000	90,000
15	基金	基盤研究C	20K00224	福祉領域における実験音楽を使用した音楽活動の意義に関する研究	田島 明子	OT	分担	-	2020転入	2020	2022		65,000	50,000	15,000
16	基金	基盤研究C	20K10577	地域包括ケアシステムにおける尿失禁看護の検討とクリティカルパスの開発	川本 利恵子	NS	分担	-	-	2020	2022		130,000	100,000	30,000
17	補助金	基盤研究B	20H04003	低出生体重児の体動計測の開発と児の体重および発達指標との関連探索研究	鶴見 薫	NS	分担	-	-	2020	2023				
18	基金	研究スタート支援	20K23268	高齢者の歩行安定性向上を目的とした新たなリハビリテーションプログラムの開発	土田 将之	PT	代表	なし	-	2020	2021	延長 2022	1,430,000	1,100,000	330,000
19	基金	基盤研究C	21K10673	「箸で食べたい」を支えるための筋電図学的研究	斉藤 琴子	PT	代表	あり		2021	2024		1,820,000	1,400,000	420,000
20	基金	基盤研究C	21K10983	民生委員児童委員による地域見守り活動の強化に向けた家庭訪問支援プログラムの開発	山崎 真帆	NS	代表	あり		2021	2024		650,000	500,000	150,000
21	基金	基盤研究C	21K11062	都市在住高齢者が新時代を生きるための介護予防と地域参加	菊池 有紀	NS	代表	あり	2021転出	2021	2024		650,000	500,000	150,000
22	基金	基盤研究C	21K1159	壮年期におけるひきこもり当事者のひきこもるプロセスの解明と支援方法の構築	玉田 聡史	NS	代表	あり		2021	2023		650,000	500,000	150,000
23	基金	若手研究	21K17391	スバイロメーターとwebによる小児喘息管理：自己統制力向上のための支援と検証	土師 しのぶ	NS	代表	なし		2021	2023		910,000	700,000	210,000
24	基金	若手研究	21K15244	アスパラギン残基の脱アミド化機構と脱アミド化によるタンパク質構造の変化の解析	加藤 紘一	薬	代表	なし		2021	2024		1,560,000	1,200,000	360,000
25	厚労 補助金	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業研究事業	21KC0301	危険ドラッグと関連代謝物の有害作用評価と乱用実態把握に関する研究	栗原 正明	薬	分担	-	2021転入						
26	基金	基盤研究C	20K06950	ベンザインの位置選択的連続型環化反応を機軸とする生物活性アクリドンの合成研究	片川 和明	薬	代表	あり	2021転入	2020	2022		2,640,000	2,400,000	240,000

No.	種別	種目	課題番号	課題名	研究者	学科	代表/分担	分担者	転入/転出	開始年度	終了予定	終了年度	R3(2021)		
													合計	直接経費	間接経費
26	基金	基盤研究C	20K06950	ベンザインの位置選択的連続型環化反応を機軸とする生物活性アクリドンの合成研究	片川 和明	薬	代表	あり	2021転入	2020	2022		2,640,000	2,400,000	240,000
27	基金	挑戦的研究	20K20392	ペプチドによるドライアイの予防・治療薬の開発と臨床応用	塩田 清二	薬	代表		2021転入	2020	2021	延長 2022	5,948,676	5,048,676	900,000
28	基金	若手研究	19K20195	香りと運動の併用による抗肥満作用の解明ー新規運動療法を目指してー	木村 愛	臨研	代表		2021転入	2019	2022		780,000	600,000	180,000
29	基金	基盤研究C	20K09316	虚血に対する神経ペプチドPACAPの神経保護作用の分子機構	平林 敬浩	臨研	代表		2021転入	2020	2022		1,723,336	1,393,336	330,000
30	基金	基盤研究C	20K09262	PACAPによる神経保護および神経軸索再生メカニズムの解明	柴藤 淳子	臨研	分担	-	2021転入	2020	2022		1,200,000	900,000	300,000
31	基金	基盤研究C	20K09262	PACAPによる神経保護および神経軸索再生メカニズムの解明	塩田 清二	薬	分担	-	2021転入	2020	2022		400,000	300,000	100,000
32	基金	基盤研究C	19K07792	がんゲノム解析で蓄積する機能未知遺伝子変異の臨床活用に向けた変異機能推定法の構築	石川 吉伸	薬	分担	-	2021転入	2019	2021		130,000	100,000	30,000
33	基金	基盤研究C	20K07618	膠芽腫幹細胞を標的としたtRNAメチル化酵素阻害剤による制がん戦略の構築	石川 吉伸	薬	分担	-	2021転入	2020	2022				
34	基金	基盤研究C	20K12172	がん細胞の特殊なDNA修復活性化機序を標的とした革新的治療薬の開発	石川 吉伸	薬	分担	-	2021転入	2020	2022				
35	基金	基盤研究C	19K07048	コレステロール胆石症発症性差の解明	山崎 泰広	薬	代表		2021転入	2019	2021	延長 2022	1,170,000	900,000	270,000
36	基金	基盤研究C	21K10983	民生委員児童委員による地域見守り活動の強化に向けた家庭訪問支援プログラムの開発	澤井 美奈子	NS	分担	-		2021	2024				
37	基金	基盤研究C	21K11122	保健師学生へのCOVID-19に対するオンライン型シミュレーション教育の評価	澤井 美奈子	NS	分担	-		2021	2024				
38	基金	基盤研究C	21K06500	結晶構造に基づいたβ-ラクタム剤分解酵素メタロ-β-ラクタマーゼ阻害剤の分子設計	加藤 紘一	薬	分担	-		2021	2024				
39	補助金	基盤研究B	21H03059	機能性オルガノイド作製・局所送達プラットフォーム構築による運動器再生法の創出	関口 裕之	臨研	分担	-		2021	2024				
40	補助金	基盤研究B	20H04003	低出生体重児の体動計測の開発と児の体重および発達指標との関連探索研究	齊藤 琴子	PT	分担	-		2021	2023				
41	補助金	基盤研究A	21H04406	生を辿り途を探すー身体×社会アーカイブの構築	田島 明子	OT	分担	-		2021	2025			10,000	3,000
42	基金	基盤研究C	21K11062	都市在住高齢者が新時代を生きるための介護予防と地域参加	塚原 ゆかり	NS	分担	-		2021	2024				
43	基金	基盤研究C	21K11062	都市在住高齢者が新時代を生きるための介護予防と地域参加	寺本 明	NS	分担	-		2021	2024				
44	基金	基盤研究C	21K10673	「箸で食べたい」を支えるための筋電図学的研究	山崎 真帆	NS	分担	-		2021	2023				
45	基金	基盤研究C	21K11159	壮年期におけるひきこもり当事者のひきこもるプロセスの解明と支援方法の構築	片山 典子	NS	分担	-		2021	2023				
46	基金	基盤研究C	20K07166	Prx2の2つの過酸化型の定量による慢性閉塞性肺疾患COPD診断法の開発	石田 洋一	薬	代表		2021転入	2020	2022		1,560,000	1,200,000	360,000
47	基金	基盤研究C	21 K 11376	新規運動療法の開発を目指した運動と香りの併用による抗肥満作用の分子基盤	塩田 清二	薬	分担	-		2021	2023				
48	基金	基盤研究C	21K11632	摂食調節ペプチドGALPによる糖代謝調節とその生理的役割の解明	塩田 清二	薬	分担	-		2021	2024		195,000	150,000	45,000
49	厚労補助金	疾病・障害対策研究分野がん対策推進総合研究	20EA1011	患者・家族の意思決定能力に応じた適切な意志決定支援の実践に資する簡便で効果的な支援プログラムの開発に関する研究	渡邊 眞理	NS	分担	-	2021転入						
50	基金	若手研究	20K18885	消化器癌罹患後の就労阻害因子の検討	中山 祐次郎	臨研	代表		2021転入	2020	2023		390,000	300,000	90,000

Ⅶ 生涯学習事業

湘南医療大学看護実践教育センターでは、看護師実習指導者講習会、認定看護師（認知症看護分野）、認定看護管理者（ファーストレベル、セカンドレベル）を開講した。

運営主体	病院	湘南医療大学看護キャリア開発コアセンター			
事業名	特定行為研修	認定看護師 養成課程 (認知症看護分野)	認定看護師看護管 理者教育課程 ファーストレベル	認定看護師看護管 理者教育課程セカ ンドレベル	看護師実習指導者 講習会
期日	2021.4月～2022.3月	2021.5月～2022.3月	2021.6～7月	2021.9月～12月	2021.6月～
日数	1年間	665時間	105時間	180時間	195時間 (eラーニング含む)
受講料	320,000円	入学検定料：50,000円 入学金：100,000円 授業料：900,000円 (教科書、保険料等別)	150,000円	250,000円	50,000円 (テキスト代別)
定員	3名	15名	40名	20名	40名
2021年修了者数 実績	継続中	13名	28名	9名	19名

また、地域医療、福祉系への協力事業としては、介護系では介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座、福祉系では、社会福祉士国家試験対策講座、社会福祉士実習指導者講習会を開講した。

運営主体	ふれあい医療福祉研修センター								ジネス観光福祉専	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 社会福祉専攻科	
系統	介護系					社会福祉系	事務系		介護系	社会福祉系	
事業名	介護職員 初任者研修	介護福祉士 実務者研修	喀痰吸引等研修	介護福祉士 実習指導者講習会	介護福祉士 国家試験対策講座	社会福祉士 実習指導者講習会	医療事務講座 (初級)	医療事務講座 (中級)	介護職員 初任者研修	社会福祉専攻科 (通信)	社会福祉士 国家試験対策講座
期日	第1回：2021.6月～10月 第2回：2021.9月～12月 第3回：2021.11月～2021.3月 第4回：2022.1月～2022.5月	第1回：2021.2月～7月 第2回：2021.5月～10月 第3回：2021.7月～12月	2021.9月～2021.12月	2022.2月	2020.10月～11月	2022.2月	2021.10月～2022.3月	2021.10月～2022.3月	2021.7月～11月	2021.4月～2022.9月	2021.8月～12月
日数	17日（講義15日、実習2日）	6ヶ月	10日（講義8日、演習1日、実習1日）	4日	3日	2日	6日	10日	15日（講義15日）	1年6ヶ月	4ヶ月
会場	講義：研修センター 実習：ふれあいの丘ほか	講義：研修センター 実習：研修センター 実習：ふれあいの丘ほか、茅ヶ崎北陵病院ほか	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	医療ビジネス校	研修センター	研修センター
受講料	60,000円	無資格者：125,000円 初任者研修：105,000円 基礎研修、1級：30,000円	100,000円 (所属法人から貸付／3年間勤務で返済免除)	8,000円 (テキスト代別)	グループ職員：3,500円 グループ外職員：4,000円	8,000円 (テキスト代別)	30,000円	37,500円	学生：35,500円 一般：55,000円 (共にテキスト代込)	実習必修者：350,000円 実習免除者：250,000円 (共にテキスト代別)	グループ職員：16,500円 グループ外職員：24,000円
定員	20名×4	30名×3	15名	15名	15名	20名	20名	20名	20名	80名	20名×2
2021年修了者数 実績	①17名 ②16名 ③14名 ④8名	①11名 ②12名 ③6名	14名	10名	17名	16名	15名	8名	16名	53名	32名

Ⅷ 施設の状況

2022年3月現在 学校法人所有施設の所在等、主な施設設備の状況は次のとおりである。

校地

	所在地	計 ㎡
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番49	7,921.66 ㎡
	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番5 他	18,872.36 ㎡
	合計	45,666.38 ㎡
みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1682番 他	2,306.00 ㎡
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場383-4 他	1,477.64 ㎡
	神奈川県横浜市中区山手町27番1 他 ※	10,973.00 ㎡
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目3690-4 他	3,752.04 ㎡
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町三丁目2850-1 他	1,106.50 ㎡
	静岡県下田市柿崎字腰越288-1 他	3,498.57 ㎡
湘南医療大学附属下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎腰越289	717.35 ㎡
	合計	4,215.92 ㎡
湘南医療大学附属下田看護専門学校学生寮	静岡県下田市柿崎字孫ノ段736-4 他	1,322.86 ㎡
	計	51,947.98 ㎡

校舎

	所在地	構造	計 ㎡
湘南医療大学	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番地48 16番地15	鉄筋コンクリート造 陸屋根・合金メッキ鋼板ぶき2階建	13,588.09 ㎡
	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1670-2	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	443.46 ㎡
幼保連携型認定こども園みどり幼稚園	神奈川県横浜市戸塚区汲沢二丁目1702-1 1682 1682-3 1670-6	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付2階建	733.23 ㎡
	小計		1,176.69 ㎡
茅ヶ崎看護専門学校	神奈川県茅ヶ崎市今宿字生神場385番地1 384番地1 386番地1 387番地3 390番地	鉄骨造陸屋根4階建	2,893.32 ㎡
	神奈川県横浜市中区山手町27番地1 27番地16 47番地2 47番地1 神奈川県横浜市中区元町五丁目220番地4	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付5階建	9,296.80 ㎡
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目3690番地5	鉄骨造重鉛メッキ鋼板葺3階建	4,490.96 ㎡
	神奈川県茅ヶ崎市南湖一丁目4617番地1	鉄骨造陸屋根・重鉛メッキ鋼板葺3階建	1,234.58 ㎡
	小計		5,725.54 ㎡
医療ビジネス観光福祉専門学校	神奈川県相模原市南区上鶴間本町三丁目2850番地1 2856番地3	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階付14階建	4,360.56 ㎡
	静岡県下田市柿崎字腰越289番地 静岡県下田市柿崎字吉ノ上1188番地1 静岡県下田市柿崎字寺ノ上1192番地1193番地12 1～3階部分	鉄筋コンクリート造瓦葺3階建	2,846.76 ㎡
湘南医療大学附属下田看護専門学校	静岡県下田市柿崎289番地 講堂	鉄筋コンクリート造コンクリート屋根平屋建	361.37 ㎡
	静岡県下田市柿崎字孫ノ段736番4 737番6 静岡県下田市柿崎字矢合1084番地11	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	1,773.99 ㎡
	計		42,023.12 ㎡

※印は、2022年4月以降、湘南医療大学の横浜山手キャンパスとなる。

IX 財務状況

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況と経年比較

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

総資産額は、19,028 百万円で前年度に対して 1,647 百万円の増加、負債総額は 5,732 百万円で前年度に対して 1,226 百万円の増加となった。総資産額の増加は、湘南医療大学薬学部教育用備品資産並びに横浜山手校舎改修工事（建設仮勘定）、同キャンパス教育用備品資産の増加によるものである。

また、負債額 1,226 百万円の増加は、新たな短期借入金によるものである。尚、負債額（前受金を除く）の総資産額に占める割合は、23.15%となった。

経年推移の状況が分かる資料

貸借対照表の経年比較

(単位：千円)

科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産	8,011,783	12,276,209	12,718,983	12,825,122	15,182,720
流動資産	3,684,283	4,077,688	4,064,858	4,555,764	3,845,976
資産合計	11,696,066	16,353,897	16,783,841	17,380,887	19,028,697
固定負債	1,444,028	3,319,644	3,018,561	2,724,734	1,037,211
流動負債	1,489,908	1,535,230	1,716,414	1,781,642	4,695,303
負債合計	2,933,936	4,854,874	4,734,975	4,506,377	5,732,515
基本金	9,361,488	11,982,520	12,814,511	13,471,970	16,031,469
繰越収支差額	△ 599,358	△ 483,497	△ 766,644	△ 597,461	△ 2,735,287
純資産	8,762,130	11,499,023	12,048,866	12,874,509	132,961,181
負債及び純資産の部合計	11,696,066	16,353,897	16,783,841	17,380,887	138,693,696
減価償却累計額	1,745,170	2,045,953	2,365,198	2,692,263	3,021,632

イ) 財務比率の経年比較

(単位：％)

区 分		2017年度 (H30.3.31)	2018年度 (H31.3.31)	2019年度 (R2.3.31)	2020年度 (R3.3.31)	2021年度 (R4.3.31)
分 類	比 率 算式 (×100%)					
財務状況	負債率 $\frac{\text{総負債} - \text{前受金}}{\text{総資産}}$	14.82%	22.23%	21.09%	18.92%	23.15%
	純資産構成比率 $\frac{\text{純資産}}{\text{総資産}}$	74.92%	70.31%	71.79%	74.07%	69.87%
	流動資産構成比率 $\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	31.50%	24.93%	24.22%	26.21%	20.21%
	流動比率 $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	247.28%	265.61%	236.82%	255.71%	81.91%
	固定長期適合率 $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	78.50%	82.84%	84.41%	82.22%	105.93%
	前受金構成比率 $\frac{\text{前受金}}{\text{現金} + \text{預金}}$	36.62%	33.18%	34.82%	31.69%	38.74%
	前受金保有率 $\frac{\text{現金} + \text{預金}}{\text{前受金}}$	273.06%	301.40%	287.18%	315.59%	258.14%
	繰越収支差額構成比率 $\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	-5.12%	-2.96%	-4.57%	-3.44%	-14.37%

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部：学生生徒等納付金収入は、大学薬学部 1 年生学費や学生数の増加など、前年度より約 122 千円の増収で 2,261 百万円となった。また、寄付金収入は、湘南医療大学薬学部設置経費（開設年度予定分）の受配者寄付金配布を受け、525 百万円であった。補助金収入は、補助金収入は、大学国庫補助金 164 百万円（内訳：経常費補助金 126 百万円、授業料等減免費交付金 37 百万円）の交付、4 専門学校の総額 125 百万円（内訳：経常費補助金 43 百万円、看護師等養成所補助事業 44 百万円、授業料等減免費交付金 38 百万円）の交付があり、総額として 468 百万円であった。

なお、短期借入金収入 1,000 百万円は、湘南医療大学横浜山手校舎の改築費用として、市中銀行から借りたものである。

支出の部：

湘南医療大学横浜山手キャンパス改修工事、湘南医療大学東戸塚キャンパス学生ホール改修工事、湘南医療大学薬学部施設整備、教育用備品開設年度購入分等により、施設関係支出が 1,964 百万円増の 2,359 百万円となった。

翌年度繰越支払資金：上記の結果、法人全体として翌年度繰越支払資金は、3,425 百万円となり、期首に比べて 417 百万円減少した。

経年推移の状況が分かる資料

資金収支の経年比較

(単位：千円)

	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資金収入の部	学生生徒納付金収入	2,074,856	2,294,065	2,296,796	2,261,001	2,261,123
	手数料	52,378	50,545	48,537	43,961	44,294
	寄付金収入	370,380	268,079	76,929	676,072	525,435
	補助金収入	212,908	191,210	543,549	457,065	468,599
	資産売却収入	2,368	0	0	0	1,474
	付随事業・収益事業収入	46,361	40,075	44,691	36,140	38,422
	受取利息・配当金収入	108	110	113	113	32
	雑収入	46,766	62,685	61,616	65,241	75,994
	小計 ①	2,806,125	2,906,769	3,072,231	3,539,593	3,415,373
	借入金等収入	0	2,000,000	2,000,000	0	1,000,004
	前受金収入	1,200,089	1,219,962	1,195,527	1,217,746	1,326,957
	その他の収入	134,847	40,420	53,833	280,489	50,204
	資金収入調整勘定	△ 1,113,996	△ 1,231,848	△ 1,482,459	△ 1,243,714	△ 1,273,591
	収入の部合計 A	3,027,065	4,935,303	4,839,132	3,794,114	4,518,947

(単位：千円)

	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資金支出の部	人件費支出	1,207,817	1,261,438	1,336,565	1,533,976	1,753,838
	教育研究経費支出	455,797	480,272	490,174	476,906	542,775
	管理経費支出	265,994	331,779	316,553	333,829	335,597
	借入金等利息支出	28,057	44,555	49,770	37,736	20,282
	借入金等返済支出	81,076	103,969	2,126,861	303,972	103,968
	施設関係支出	641,972	2,206,267	741,144	394,593	2,359,282
	設備関係支出	18,188	99,415	22,033	32,781	28,332
	小計 ②	2,698,901	4,527,695	5,083,100	3,113,793	5,144,074
	資産運用支出	4,492	18	0	0	56
	その他の支出	268,127	150,664	158,961	471,172	193,083
	資金支出調整勘定	△ 147,034	△ 143,091	△ 159,293	△ 200,556	△ 400,609
	支出の部合計 B	2,824,486	4,535,286	5,082,768	3,384,409	4,936,604

(単位：千円)

	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資金収支差額の部	資金収支差額 (①-②)	107,224	△ 1,620,926	△ 2,010,869	425,800	△ 1,728,701
	資金収支差額 (A-B)	202,579	400,017	△ 243,636	409,705	△ 417,657
	翌年度繰越支払資金	3,276,985	3,677,004	3,433,369	3,843,075	3,425,420

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支収入は、2,888 百万円、支出は 2,632 百万円で差引 256 百万円の収入超過となった。

施設整備等活動による収入は、525 百万円、支出は 2,387 百万円で差引 1,860 百万円の支出超過となった。

その他活動による収入は、1,002 百万円、支出は 104 百万円で差引 878,百万円の収入超過となった。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は 3,425 百万円となり、昨年度の 3,843 百万円より 417 百万円減少した。

経年推移の状況が分かる資料

活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位:円)

	科 目		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,074,756,435	2,294,064,715	2,296,796,450	2,261,001,410	2,261,123,972
		手数料収入	52,377,840	50,545,494	48,537,152	43,961,762	44,294,000
		特別寄付金収入	100,000,000	0	2,287,000	60,000	0
		一般寄付金収入	65,000,000	73,000,000	71,000,000	140,000	10,000
		経常費等補助金収入	212,907,900	191,209,990	315,284,636	449,437,072	468,599,866
		付随事業収入	43,950,590	40,075,372	44,691,060	36,140,756	38,422,462
		雑収入	46,666,326	62,667,740	61,616,529	65,241,081	75,994,214
		教育活動資金収入計	2,595,659,091	2,711,563,311	2,840,212,827	2,855,982,081	2,888,444,514
	支出	人件費支出	1,207,817,184	1,261,438,122	1,336,565,093	1,533,976,678	1,753,837,941
		教育研究経費支出	455,796,671	480,272,088	490,174,356	476,906,251	542,774,833
		管理経費支出	265,994,237	331,778,851	316,553,502	333,454,364	335,596,811
		教育活動資金支出計	1,929,608,092	2,073,489,061	2,143,292,951	2,344,337,293	2,632,209,585
	差引		666,050,999	638,074,250	696,919,876	511,644,788	256,234,929
	調整勘定等		107,318,356	30,422,588	△ 237,047,289	△ 50,054,839	130,384,070
	教育活動資金収支差額		773,369,355	668,496,838	459,872,587	461,589,949	386,618,999
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
	収入	施設設備寄付金収入	205,380,000	195,079,441	3,641,760	675,872,914	525,425,885
		施設設備売却収入			0	0	1,474,146
		施設設備補助金収入	2,368,000	0	228,264,000	7,628,000	0
		施設整備等活動資金収入計	207,748,000	195,079,441	231,905,760	683,500,914	526,900,031
	支出	施設関係支出	641,671,565	2,206,267,338	741,144,285	394,593,455	2,359,282,821
		設備関係支出	18,187,553	99,414,900	22,033,050	32,781,387	28,332,166
		施設整備等活動資金支出計	659,859,118	2,305,682,238	763,177,335	427,374,842	2,387,614,987
	差引		△ 452,111,118	△ 2,110,602,797	△ 531,271,575	256,126,072	△ 1,860,714,956
	調整勘定等		△ 13,335,749	△ 10,309,922	△ 17,077,235	15,969,385	178,341,649
	施設整備等活動資金収支差額		△ 465,446,867	△ 2,120,912,719	△ 548,348,810	272,095,457	△ 1,682,373,307
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		307,922,488	△ 1,452,415,881	△ 88,476,223	733,685,406	△ 1,295,754,308
その他の活動による資金収支	科 目		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
	収入	借入金収入	0	2,000,000,000	2,000,000,000	0	1,000,004,000
		貸付金回収収入	524,010	0	0	0	0
		預り金受入収入	3,195,551	0	15,638,706	13,296,715	2,358,006
		仮払金回収収入	0	0	0	313,441	0
		その他の固定資産回収収入	0	0	660,000	0	0
		預託金回収収入	0	0	10,470	1,570	0
		敷金回収収入	0	0	20,000	20,000	0
		立替金回収収入	2,469,923	0	0	173,841	34,423
		小計	6,189,484	2,000,000,000	2,016,329,176	13,805,567	1,002,396,429
		受取利息・配当金収入	108,474	110,484	113,602	113,817	32,571
	支出	過年度修正収入	100,000	17,470	0	0	0
		収益事業元入金回収収入	2,410,545	2,473,834	5,745,050	4,185,723	0
		その他の活動資金収入計	8,808,503	2,002,601,788	2,022,187,828	18,105,107	1,002,429,000
		借入金等返済支出	81,076,402	103,968,536	2,126,860,670	303,972,536	103,968,536
		貸付金支払支出	0	273,467	125,000	0	0
		その他の固定資産支払支出	0	40,000	60,000	0	0
		仮払金支払支出	325,486	97,526	122,429	0	0
		預託金支出	6,790	18,240	29,920	0	23,220
		預り金支出	0	1,215,076	0	0	0
		立替金支出	2,469,923	0	378,421	0	0
		出資金支出	60,000	0	0	0	56,445
		収益事業元入金支出	4,425,635	0	0	0	0
		小計	85,894,313	105,612,845	2,127,576,440	303,972,536	104,048,201
		過年度修正支出	0	0	0	375,000	0
		借入金等利息支出	4,425,635	44,554,555	49,770,093	37,736,000	20,282,265
		その他の活動資金支出計	113,951,582	150,167,400	2,177,346,533	342,083,536	124,330,466
		差引	△ 105,143,079	1,852,434,388	△ 155,158,705	△ 323,978,429	878,098,534
		調整勘定等	0	0	0	0	0
		その他の活動資金収支差額	△ 105,143,079	1,852,434,388	△ 155,158,705	△ 323,978,429	878,098,534
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		202,779,409	400,018,507	△ 243,634,928	409,706,977	△ 417,655,774
	前年度繰越支払資金		3,074,205,934	3,276,985,343	3,677,003,850	3,433,368,922	3,843,075,899
	翌年度繰越支払資金		3,276,985,343	3,677,003,850	3,433,368,922	3,843,075,899	3,425,420,125

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

(単位：%)

比 率	算式(×100%)	2017年度 (H30. 3. 31)	2018年度 (H31. 3. 31)	2019年度 (2020. 3. 31)	2020年度 (2021. 3. 31)	2021年度 (2022. 3. 31)
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	29.8	24.7	16.2	16.2	△ 3.0

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

教育活動収支差額は、-87 百万円となった。

事業活動収入： 学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、雑収入等は、資金収支計算書収入の部と同様の要因により、2,891 百万円となり、前年度に対して 33 百万円の増加となった。

基本金組入額合計は2,558 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額（帰属収入）は、421 百万円の収入超過となった。

事業活動支出：資金収支計算書の支出の部と同様の要因で、2,978 百万円となった。

当年度収支差額：当年度収支差額は、2,137 百万円となった。

経年推移の状況が分かる資料

事業活動収支の経年比較

(単位：千円)

事業活動収支		科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支	収入	学生生徒納付金	2,074,756	2,294,065	2,296,796	2,261,001	2,261,123
		手数料	52,378	50,545	48,537	43,961	44,294
		寄付金	165,276	73,151	75,537	2,117	3,349
		経常費等補助金	212,908	191,210	315,285	449,437	468,599
		付随事業収入	43,951	40,075	44,691	36,140	38,422
		雑収入	46,745	62,924	61,655	65,247	76,029
		教育活動収入計	2,596,014	2,711,970	2,842,501	2,857,906	2,891,819
	支出	人件費	1,216,953	1,271,684	1,345,964	1,544,267	1,764,677
		教育研究経費	716,640	748,302	770,940	755,260	826,365
		管理経費	294,034	371,961	358,751	385,557	387,781
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	2,227,627	2,391,947	2,475,655	2,685,084	2,978,824
		教育活動収支差額	368,387	320,023	366,846	172,821	△ 87,004
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	108	110	114	113	32
		その他の教育活動外収入	2,411	0	0	0	0
		教育活動外収入計	2,519	110	114	113	32
		借入金等利息	28,057	44,555	49,770	37,736	20,282
	支出	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	28,057	44,555	49,770	37,736	20,282
		教育活動外収支差額	△ 25,538	△ 44,444	△ 49,656	△ 37,623	△ 20,249
	経常収支差額		342,849	275,579	317,190	135,199	△ 107,254
特別収支	収入	資産売却差額	2,368	0	0	0	0
		その他の特別収入	209,124	2,463,674	233,232	691,175	530,416
		特別収入計	211,492	2,463,674	233,232	691,175	530,416
	支出	資産処分差額	3,935	2,360	578	356	1,490
		その他の特別支出	0	0	0	375	0
		特別支出計	3,935	2,360	578	731	1,490
	特別収支差額		207,557	2,461,314	232,654	690,444	528,926
基本金組入前当年度収支差額 ③		550,406	2,736,893	549,843	825,643	421,597	
基本金組入額合計 ④		△ 832,308	△ 2,621,032	△ 834,991	△ 656,459	△ 2,559,498	
当年度収支差額 ⑤		△ 281,902	115,861	△ 283,143	169,183	△ 2,137,826	
(参考)							
事業活動収入計 ①		2,810,025	5,175,755	3,075,847	3,579,195	3,422,269	
事業活動支出計 ②		2,259,619	2,438,862	2,526,004	2,723,551	3,000,597	

イ) 財務比率の経年比較

人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等は以下の通りである。

(単位：％)

分 類	区 分		2017年度 (H30.3.31)	2018年度 (H31.3.31)	2019年度 (R2.3.31)	2020年度 (R3.3.31)	2021年度 (R4.3.31)
	比 率	算式 (×100%)					
営 業 状 況	人 件 費 比 率	人 件 費 経 常 収 入	46.83%	46.89%	47.35%	54.03%	61.02%
	教 育 研 究 経 費 比 率	教 育 研 究 経 費 経 常 収 入	27.58%	27.59%	27.12%	26.43%	28.58%
	管 理 経 費 比 率	管 理 経 費 経 常 収 入	11.32%	13.71%	12.62%	13.49%	13.41%
	事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	基 本 金 組 入 前 収 支 差 額 事 業 活 動 収 入	19.59%	52.88%	17.88%	23.26%	12.32%
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	学 生 生 徒 等 納 付 金 経 常 収 入	79.84%	84.59%	80.80%	79.11%	78.19%
	経 常 収 支 差 額 比 率	経 常 収 支 差 額 経 常 収 入	13.19%	10.16%	11.16%	4.73%	-3.71%
	基 本 金 組 入 率	基 本 金 組 入 額 事 業 活 動 収 入	-29.62%	-50.64%	-27.08%	-18.50%	-74.79%
	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	教 育 活 動 収 支 差 額 教 育 活 動 収 入 計	14.19%	11.80%	12.91%	6.05%	-3.01%

(2) その他

①有価証券の状況

本学校法人では、有価証券は所有していない。

②借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率 (%)	返済期限
(株)みずほ銀行 横浜駅前支店	682,948,288	1.070%	2031年3月31日
	196,850,000	0.280%	2033年10月31日
	2,800,000,000	0.580%	2045年3月31日

③学校債の状況

本学校法人では、学校債は発行していない。

④寄付金の状況

【特定公益増進法人】

(単位：円)

特別寄附	10,000
一般の方より	

【受配者指定寄付金】

2021年度中に配布を受けた寄付金

受配者指定寄付金 (2020年度中にグループ企業より寄付)	525,425,885
----------------------------------	-------------

受配者指定寄付金口座にあるため、決算には反映されない寄付金

受配者指定寄付金 (グループ企業より)	100,000,000
---------------------	-------------

⑤補助金の状況

湘南医療大学、専門学校には、経常費補助金及び授業料等減免費交付金として、国・県より補助金が交付される。

その他、茅ヶ崎看護専門学校、湘南医療大学附属下田看護専門学校には、看護師養成校として養成所補助事業に対する補助金が交付される。

詳細は下表のとおりである。

(単位：円)

	本部	湘南医療大学	みどり幼稚園	茅ヶ崎看護専門学校	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	医療ビジネス観光福祉専門学校	湘南医療大学附属下田看護専門学校	合計	
国庫補助金 経常費補助金収入		126,495,000						126,495,000	国庫補助金
国庫補助金 授業料等減免費交付金		37,788,800						37,788,800	国庫補助金
神奈川県 経常費補助金				11,539,000	18,823,000	12,770,000		43,132,000	神奈川県
* 申請書別紙									
神奈川県・静岡県 看護師等養成所補助事業				26,319,000			18,098,000	44,417,000	神奈川県・静岡県
* 申請書別紙									
神奈川県 介護福祉士養成施設日本語学習等支援事業費						90,000		90,000	神奈川県
神奈川県 地域開放推進費								0	神奈川県
補助対象経費(課税)									
神奈川県・静岡県 結核健康診断及び予防接種				23,608	37,833		44,627	106,068	神奈川県・静岡県
神奈川県・静岡県 授業料等減免費交付金				10,763,900	12,786,100	5,263,500	9,715,600	38,529,100	神奈川県・静岡県
神奈川県 新型コロナウイルスの影響に係る 看護職員卒後フォローアップ研修事業補助金		1,404,000						1,404,000	神奈川県
横浜市 私立幼稚園等補助金			459,000					459,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市 はまっこ広場事業補助金			500,000					500,000	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市 子ども・子育て支援教育・保育給付費			172,697,660					172,697,660	横浜市
藤沢市 子ども・子育て支援教育・保育給付費			482,236					482,236	藤沢市
横浜市 私立幼稚園等一時預かり保育事業補助金			1,361,070					1,361,070	横浜市
補助対象経費(課税)									
横浜市 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策補助金			1,050,000					1,050,000	横浜市
横浜市・相模原市 結核健康診断及び予防接種		61,441				26,491		87,932	横浜市・相模原市
補助対象経費(課税)									
国庫補助金合計	0	164,283,800	0	0	0	0	0	164,283,800	国
神奈川県・静岡県補助金合計	0	1,404,000	0	48,645,508	31,646,933	18,123,500	27,858,227	127,678,168	神奈川県・静岡県
市補助金 合計	0	61,441	176,549,966	0	0	26,491	0	176,637,898	横浜市他

⑥収益事業の状況

(収益事業会計)

貸 借 対 照 表

2022年 3月 31日 現在

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[固 定 資 産]	84,421,773	[流 動 負 債]	1,301,296
(有形固定資産)	84,421,773	一年内返済長期借入金	731,464
建物	34,755,664	前受金	553,332
土地	49,666,109	未払金	16,500
		[固 定 負 債]	5,991,712
		長期借入金	5,851,712
		長期預り金	140,000
		負 債 の 部 合 計	7,293,008
		純 資 産 の 部	
		[元 入 金]	354,023,038
		[利 益 剰 余 金]	△ 276,894,273
		繰越利益剰余金	△ 276,894,273
		純 資 産 の 部 合 計	77,128,765
資 産 の 部 合 計	84,421,773	負債・純資産の部合計	84,421,773

⑦関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者について下表のとおり イ) 出資会社は該当なし

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属 性	役員、法人等の名称	住 所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
理事長	大屋敷英志枝	-	-	-	-	-	-	当法人の銀行借入に対する被保証 *1	861,000,000 *1 *2	-	-
関係法人	医療法人社団康心会	神奈川県茅ヶ崎市	170百万円	病院・老人保健施設診療所の経営	-	4名	職員出向他	職員出向費他	6,557,962	未収入金	573,814
							健康診断、実習施設他	健康診断、実習謝礼他	32,872,429 *4	未払金	8,999,260
関係法人	医療法人社団健齢会	神奈川県横浜市	45百万円	病院・老人保健施設診療所の経営	-	5名	職員出向他	職員出向費他	11,773,289	未収入金	888,045
							健康診断、実習謝礼他	健康診断、実習謝礼他	13,660,784 *4	未払金	1,791,864
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱フォーライフ企画 *3	神奈川県茅ヶ崎市	10百万円	医薬品・医療材料 教材卸 総合リース業	-	-	リース、医療材料・教材購入	リース、医療材料・教材購入	343,456,190 *4	未払金	200,136,146
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱エプソンドキュアライフ *3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	内装工事 建物保守 建築・企画設計	-	-	施設修理他	施設修理他	154,419,769 *4	未払金	15,101,245
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱メディカルヘルスケア *3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	土地建物 管理・賃貸 喫茶 清掃業	-	1名	清掃業他	清掃業他	65,870,481 *4	未払金	3,874,625
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	メディカルレーディングカンパニー(㈱) *5	神奈川県茅ヶ崎市	10百万円	医療機器 販売・労働者派遣事業	-	1名	教具・備品・図書購入、労働者派遣	教具・備品・図書購入、労働者派遣	933,995,452 *4	未払金	658,545
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱エフエムシー *3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	人事管理・給与計算 経理の請負	-	1名	人事管理・給与計算 経理の依頼	人事管理・給与計算 経理の依頼 当法人の銀行借入に対する被保証	33,685,083 *4 2,800,000,000	未払金	199,199
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱メディカルフーズ *3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	給食業務の受託及び管理	-	1名	食堂食材・食堂委託管理料他	食堂食材・食堂委託管理料他	30,562,677 *4	未払金	1,864,664
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱湘南ふれあいの園 *3	神奈川県茅ヶ崎市	5百万円	有料老人ホーム経営	-	1名	シニアホテル東戸塚サウスイング電気料他	シニアホテル東戸塚サウスイング電気料他	16,789,444 *4	未払金	1,514,396
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	㈱リート商会 *3	神奈川県茅ヶ崎市	3百万円	一般物品 商社	-	1名	自動車購入・修理他	みどり幼稚園バス購入他	10,744,232	未払金	282,750

- 注*1 当法人は銀行借入に対して理事長大屋敷英志枝より債務保証を受けている。
なお、保証料の支払は行っていない。
- 注*2 収益事業に係る取引も含んでいる。
- 注*3 理事長大屋敷英志枝及びその近親者が議決権の100%を直接所有している。
- 注*4 市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定している。
- 注*5 当法人の関係法人である、㈱フォーライフ企画・㈱リート商会・㈱FMC・㈱メディカルドリームの子会社である。

⑧学校間財務取引

該当なし

監 査 報 告 書

2022 年 5 月 17 日

学校法人 湘南ふれあい学園
評議員会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園
監 事 金 井 清 吉
監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2021 年度（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

監 査 報 告 書

2022 年 5 月 17 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監 事 金 井 清 吉

監 事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条に基づき、学校法人湘南ふれあい学園の 2021 年度（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査しました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務もしくは財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学校法人湘南ふれあい学園の経営状況の分析(過去5年間)、経営上の成果と課題

下記の財務比率は、経営状況、負債の状況、及び将来の備えに対する資産の保有状況の実施結果の分析を示している。将来支出に備える保有資産の状況は、大学平均(83.7%)を大きく上回っており、万一の支出の状況にも充分に耐えるだけの資産を保有している。

比率名		計算式	H29	H30	R01	R02	R03	R02-R03対比	経営上の成果と課題(自己点検・評価)
① 経営状況									
事業活動収支差額比率		基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	19.6%	52.9%	17.9%	23.3%	12.3%	減少	平成24年度の当該率の大学平均は、4.8%である。本学園は、昨年より数値が下がったが、まだ平均を大きく上回っている状況である。
② 負債に備える資産の蓄積状況									
内部留保資産比率		(運用資産-(総負債-内部負債))/総資産	14.0%	0.9%	0.1%	3.9%	-4.4%	減少	当該比率がマイナスとなり、財政上の余裕度が減少している。
運用資産余裕比率(年)		(運用資産-外部負債)/経常支出	74.3%	7.7%	2.5%	27.5%	71.0%	増加	一年間の学校法人の経常的な支出を賄える資金を保有している。
流動比率		流動資産/流動負債	247%	266%	237%	256%	82%	減少	当該比率が100%以下となり、流動負債を固定資産に投下した結果が現れたと考える。
前受金保有率		現金預金/前受金	273%	301%	287%	316%	258%	減少	当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末の保有比率が100%を超えているため、昨年度より数値は減少したが、問題は無い。
③ 負債水準の状況									
固定負債構成比率		固定負債/((総負債-内部負債)+純資産)	13.9%	22.1%	19.5%	17.0%	5.9%	減少	施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が高い場合、経営上の留意が必要となる。
流動負債構成比率		流動負債/((総負債-内部負債)+純資産)	14.3%	10.2%	11.1%	11.1%	26.7%	増加	当該比率が低い方が好ましい。本学園は、固定資産の整備のため今年度短期借入金が増加したため、比率が増加した。
総負債比率		(総負債-内部負債)/総資産	14.0%	21.6%	20.4%	18.2%	22.4%	増加	当該比率50%以下は、負債総額が純資産を下回っていることを示す。本学園の財務安全性は確保されている。
負債比率		(総負債-内部負債)/純資産	18.7%	30.7%	28.4%	24.6%	32.1%	増加	当該比率が100%以下であるため、他人資金である総負債が自己資金である純資産を下回っている。
④ 将来支出に備える保有資産の状況									
積立率		運用資産(現金預金+特定資産+有価証券)/要積立額(減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金)	178.0%	170.9%	138.4%	136.4%	108.5%	減少	平成24年度の当該率の大学平均は、83.7%であり、本学園は、平均を大きく上回っている。。減価償却累計額はH26年からR03年度末で約21億1千万円増加しているが、それに見合う資金の蓄積ができていると考える。

※総負債には、内部負債である「退職給与引当金」及び「前受金」を算入しないことを原則とした。

資料2 運用資産及び外部負債の金額

下記の表より、運用資産は増加しているものの、外部負債も増加している。しかし、積立額も大幅に増加しているため、運営が安定していることを示している。

		(千円)					
項目	計算式	H29	H30	R01	R02	R03	H29-R03間傾向
運用資産	現金預金+特定資産+有価証券	3,276,985	3,677,004	3,433,369	3,843,075	3,425,420	148,435 増加
外部負債	総負債-(退職給与引当金+前受金)	1,638,392	3,529,211	3,424,348	3,163,240	4,269,327	2,630,935 増加
積立額	減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基金+第3号基金	1,840,625	2,151,654	2,480,336	2,817,654	3,157,862	1,317,237 増加

資料3 総資産基本金組入前当年度収支差額比率関連指標		(百万円)
総資産		19,028
事業活動収入		3,422
基本金組入前当年度収支差額		421
総資産基本金組入前当年度収支差額比		2.2%
基本金組入前当年度収支差額比		18.0%
総資産回転率		0.2 回転

今後の方針・対応方策

資料3では、1年間に本学園の資産が、売上高として何回転しているか、すなわち、投資した資産がどのくらい、学納金などの収入を生み出す効果をもたらしているかを表している。本学園は、0.2回転と低い。

資料館として使用していた横浜山手の校地校舎を大学の横浜山手キャンパスとして2022年4月より使用開始する計画は、実行された。

本学は、基本金組入れ前当年度収支差額は、学園創立以来、黒字を続けている。今後は、人、建物、設備の活用による学部学科の設置による数量や単価の増加策を検討したい。